

令和5年度 広島県立美術館年報

令和5年度
広島県立美術館年報



目 次

I	沿革	2
II	展覧会	
	展覧会一覧	5
	特別展	
	1 川瀬巴水 旅と郷愁の風景	6
	2 魔法の美術館	
	光と遊ぶ超体験型ミュージアム	10
	3 おいしいボタニカル・アート	
	食を彩る植物のものがたり	13
	所蔵作品展	18
III	普及活動	
	1 第11回新県美展(第75回広島県美術展)	38
	2 博物館実習	40
	3 学校・地域との連携事業	42
	4 鑑賞支援制作物	43
	5 学校等による利用状況	44
	6 県民ギャラリー利用状況	46
	7 友の会事業報告	49
IV	事業実施状況	52
V	業務一覧	56
VI	入館者数一覧	66
VII	美術品等収集状況	68
VIII	美術品等の貸出し	80
IX	関係法規	81
X	名簿	91

I 沿革

昭和31年	美術館建設の募金運動はじまる
昭和38年 4月	調査費計上
昭和39年 4月	設計委託料計上
10月	建設促進委員会開催
昭和40年 4月	整地費など計上
昭和41年 5月	文部省社会教育施設整備費補助金の交付内定
12月	建設募金委員会発足
昭和42年 1月	起工式挙行
昭和43年 3月	旧館竣工
4月	広島県立美術館条例施行(昭和43年 広島県条例第20号)
	広島県立美術館管理運営規則施行(昭和43年 広島県教育委員会規則第1号)
	加藤豊館長(常勤)任命
6月	広島県立美術館協議会条例施行(昭和43年 広島県条例第38号)
7月	広島県立美術館協力会結成
9月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭和43年 広島県教育委員会規則第13号)分掌事務
21日	落成式挙行
22日	旧館開館
10月	広島県立美術館美術品収集要領制定
12月	広島県立美術館展示施設運営要領制定
昭和44年 4月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭和44年 広島県教育委員会規則第2号)
	職員の職・職員の職務
	館藏品常設展開設
昭和46年 4月	宮地貫一館長事務取扱任命
昭和47年 1月	広島県立美術館友の会発足
5月	浜本正弘館長事務取扱任命
6月	佐々木司郎館長事務取扱任命
8月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭和47年 広島県教育委員会規則第11号)職員の職
	羽白幸雄館長(非常勤)任命
11月	開館5周年記念「広島県立美術館所蔵作品集」発刊
昭和48年 6月	広島県立美術館条例一部改正(昭和48年 広島県条例第30号)
	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭和48年 広島県教育委員会規則第14号)補助職員の職及び職務
10月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭和48年 広島県教育委員会規則第19号)職員の職等
昭和49年 3月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭和49年 広島県教育委員会規則第4号)その他の職員の職
昭和50年 4月	広島県立美術館条例一部改正(昭和50年 広島県条例第25号)施設使用料
昭和51年 4月	広島県立美術館条例一部改正(昭和51年 広島県条例第9号)入館料

昭和52年 2月	広島県美術展開催運営規則施行(昭和52年 広島県教育委員会規則第2号)
昭和53年 10月	開館10周年記念展開催
昭和54年 3月	開館10周年記念「広島県立美術館所蔵作品集」発刊
12月	収蔵庫拡張工事着工
昭和55年 2月	収蔵庫拡張工事完了
4月	定宗一宏館長(非常勤)任命
	広島県立美術館条例一部改正(昭和55年 広島県条例第19号)施設使用料
10月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭和55年 広島県教育委員会規則第10号)
昭和56年 4月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭和56年 広島県教育委員会規則第5号)課の名称変更・入館料の免除
	広島県立美術館美術品等取得基金条例施行(昭和56年 広島県条例第5号 基金額1億円)
10月	広島県美術品等取得基金運用規定制定
	美術品等収集委員会設置要領制定
昭和57年 3月	定宗館長辞職
4月	広島県立美術館条例一部改正(昭和57年 広島県条例第10号)入館料・施設使用料
	阿川静明館長(非常勤)任命
9月	縮景園窓口入園窓口を設置
昭和60年 3月	阿川館長辞職
4月	赤木博典館長(常勤)任命
昭和61年 10月	事務局職員による県立美術館整備計画検討会議を設置
昭和62年 2月	渋谷文庫開設
3月	県立美術館整備計画検討会議、整備構想案をまとめる
4月	赤木館長辞職
11月	吉岡典威館長(兼務)任命
	県教育委員会、広島県立美術館整備構想検討委員会を設置、委員8名を委嘱
昭和63年 4月	菅川健二館長(兼務)任命
	広島県立美術館条例一部改正(昭和63年 広島県条例第7号)入館料・施設使用料
	広島県立美術館美術品等取得基金、1億円を増額(基金額2億円)
11月	広島県立美術館整備構想検討委員会、整備構想をまとめ県教育委員会に答申
平成元年 3月	さところ文庫開設
5月	広島県立美術館整備基本計画検討委員会を設置、委員18名を委嘱(座長 橋口収県商工会議所連合会会長)
7月	広島県立美術館美術品等収集評価委員会を設置、委員6名を委嘱
平成2年 3月	「広島県立美術館所蔵作品図録」発刊
4月	広島県立美術館美術品など取得基金、5億円を増額(基金額7億円)

	12月	知事、県議会本会議において「新美術館は隣接する縮景園の景観を損なうことなく、両施設の一体化を図った文化ゾーンの一環として一体的に整備する必要がある」と答弁	平成12年 2月 1日	広島県立美術館美術品等収集評価委員会設置要領一部改正
平成3年	2月	知事、県議会本会議において「基金設計に着手する」ことを提案	平成13年 3月 26日	広島県博物館協議会条例施行(平成13年広島県条例第3号)広島県美術館協議会条例廃止
	3月	県議会、平成3年度予算案(基本設計予算)を可決	29日	広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成12年 広島県教育委員会規則第5号)入館料等の減免
		広島県立美術館整備基本計画をまとめる	7月 10日	常盤豊館長(兼務)就任
	4月	美術品等特別収集に着手	10月 22日	広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成13年 広島県教育委員会規則第7号)入館料の減免
		広島県立美術館美術品等取得基金、3億円を増額(基金額10億円)	12月 20日	平山郁夫名誉館長辞任
平成4年	7月	施設利用業務休止。館藏品常設展示室休室	平成14年 3月 25日	広島県立美術館条例一部改正(平成14年広島県条例第18号)小・中・高校生の無料化
	9月	閉館記念式典挙行	4月 1日	広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成14年 広島県教育委員会規則第10号)開館時間の変更
	10月	事務所を広島市西区観音新町四丁目9-43に移転、仮事務所とする	平成16年 7月 1日	関靖直館長(兼務)就任
		旧県立図書館及び旧県立美術館の解体工事に着手	平成17年 12月 20日	広島県立美術館条例一部改正(平成17年広島県条例第57号)展示施設等の利用許可の条件、取消し等及び制限
		広島県立美術館美術品等取得基金、10億円を増額(基金額20億円)		広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成17年 広島県教育委員会規則第16号)開館時間表記の改正及び条例改正に伴う改正
平成5年	3月	解体工事、整地完了	平成19年 4月 1日	榎田好一館長(兼務)就任
		新館建設工事安全祈願祭が挙行され、工事に着手	6月 18日	広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成19年 広島県教育委員会規則第9号)休館日の変更及び条例改正に伴う改正
	4月	久保信保館長(兼務)任命	12月 25日	広島県立美術館条例一部改正(平成19年広島県条例第56号)学校教育法等の一部改正に伴う改正
	12月	寺脇研館長(兼務)任命	平成20年 4月 1日	指定管理者制度導入
		広島県立美術館美術品等取得基金、10億円を増額(基金額30億円)	平成21年 4月 1日	所管先が広島県教育委員会生涯学習部文化課から広島県環境県民局総務管理部文化芸術課へ移行
平成6年	5月	事務所を西区観音新町から広島市中区八丁堀3-2幟会館(2階)に移転		広島県立美術館の入館料に関する規則施行(平成21年 広島県規則第33号)
		広島県立美術館美術品等取得基金、10億円を増額(基金額40億円)		広島県美術展開催運営規則(平成21年 広島県規則第34号)
平成7年	4月	常廣泰登館長(専任)任命		藤田雄山館長(兼務)就任
		広島県立美術館美術品等取得基金、5億円を増額(基金額45億円)	平成21年 12月 1日	平田光章館長(兼務)就任
		新館竣工	平成22年 4月 1日	抹香尊文館長(兼務)就任
		新館鍵引渡し式を挙行	平成22年 6月 1日	広島県美術品等取得基金条例を廃止する条例の施行(平成22年 広島県条例第22号)
平成8年	1月	事務所を新館に移転	6月 28日	広島県立美術館条例一部改正(平成22年広島県条例第31号)施設使用料額の下限撤廃に伴う改正
	4月 1日	木曾功館長(兼務)就任	平成23年 4月 1日	越智裕二郎館長就任
	7月 1日	平山郁夫名誉館長就任	6月 29日	広島県立美術館評価委員会設置
	5日	広島県立美術館条例施行(平成8年 広島県条例第16号)入館料・施設使用料	7月 11日	広島県立美術館条例一部改正(平成23年広島県条例第31号)指定管理者による管理、入館料の納付等および減免、利用料金の納付等・減免及び収入
	22日	広島県立美術館管理運営規則一部改定(平成8年 広島県教育委員会規則第9号)施設使用料	平成24年 4月 1日	広島県立美術館の入特別展の観覧に係る入館料に関する規則一部改正(平成24 広島県規則第38号)
	10月 1日	『広島県立美術館コレクション選』発刊		
	5日	新館開館記念式挙行		
	6日	新館開館		
		広島県立美術館美術品等取得基金、5億円を増額(基金額50億円)		
平成9年	3月 26日	広島県立美術館条例施行(平成9年 広島県条例第3号)入館料・施設使用料		
	4月 1日	広島県立美術館管理運営規則(平成9年 広島県教育委員会規則第6号)全面改定		
平成10年	3月 24日	広島県立美術館条例施行(平成10年 広島県条例第5号)入館料等の納付		
		広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成10年 広島県教育委員会規則第4号)		
	7月 1日	辰野裕一館長(兼務)就任		

平成25年	2月18日	広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成25年 教育委員会規則第1号)講堂の利用申込期間の変更	3月31日	広島県立美術館の入館料に関する規則一部改正(平成29年広島県規則第16号)入館料の免除	
	3月14日	広島県立美術館の特別展の観覧に係る入館料に関する規則一部改正(平成25年 広島県規則第13号) 広島県立美術館条例一部改正に伴う改正	平成31年	3月 8日	広島県立美術館条例一部改正(平成31年広島県条例第5号)利用料金の範囲
平成26年	3月26日	広島県立美術館条例施行(平成26年 広島県条例第17号、第23号)入館料・施設使用料及び開館時間	令和2年	3月 7日	新型コロナウイルス感染拡大防止のために臨時休館(同日午後から令和2年5月11日まで)
平成27年	3月16日	広島県立美術館条例一部改正(平成27年広島県条例第3号)展示施設等の利用料金の減免	令和3年	3月22日	広島県立美術館条例一部追加(令和3年 広島県条例第3号)指定管理者の指定を取り消した場合等の特例、一部改正(令和3年広島県条例第3号)委任規定
	4月 1日	千足伸行館長就任		5月10日	新型コロナウイルス感染拡大防止のために臨時休館(令和3年6月20日まで)
平成28年	3月22日	広島県立美術館条例一部改正(平成28年広島県条例第7号)入館料・利用料金の減免、所蔵作品展の利用料金の範囲		8月 7日	新型コロナウイルス感染拡大防止のために臨時休館(令和3年9月30日まで)
	10月12日	広島県立美術館条例一部改正(平成28年 広島県条例第47号)指定管理による管理、入館料の納付等、利用料金の納付等、入館料の減免、利用料金の減免、利用料金の収入	令和4年	1月11日	新型コロナウイルス感染拡大防止のために臨時休館(令和4年3月6日まで)
平成29年	3月23日	広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成29年 教育委員会規則第1号)利用料金の減免、利用料金の減免の申請	令和5年	3月13日	博物館法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例(令和5年広島県条例第4号)第1条による広島県美術館条例の一部改正(設置目的の改正)
				8月	LED工事着手

Ⅱ 展覧会

展覧会一覧

令和5年4月1日～令和6年3月31日に開会した展覧会は、次のとおり。

特別展

展 覧 会 名		会 期
1	川瀬巴水 旅と郷愁の風景	4月11日(火)～6月11日(日)
2	魔法の美術館 光と遊ぶ超体験型ミュージアム	7月22日(土)～9月24日(日)
3	おいしいボタニカル・アート 食を彩る植物のものがたり	10月6日(金)～11月26日(日)

所蔵作品展

展 覧 会 名		会 期
1	第1期 G7広島サミット応援企画 100の出会い、∞(無限)の対話	4月28日(金)～7月2日(日)
2	第2期 サマーミュージアム 魔法の広島県立美術館／縮景園連携企画 (大名庭園＋美術館)×現代アート＝記憶の庭 菅亮平・柴川敏之とめぐる	7月6日(木)～9月10日(日)
3	第3期 植物がアートになるとき	9月15日(金)～12月24日(日)
4	第4期 コレクション・フォーカス 美術館のプロフィール－収集の軌跡／新収蔵作品展	1月2日(火)～4月21日(日)

特別展

1 川瀬巴水 旅と郷愁の風景

会 期／令和5(2023)年4月11日(火)～6月11日(日)

主 催／広島県立美術館、イズミテクノ、中国新聞社、
広島テレビ

後 援／中国放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島、
エフエムふくやま、尾道エフエム放送

特別協力／渡邊木版美術画舗

資料提供／大田区立郷土博物館

企画協力／ステップ・イースト

協 賛／大田鋼管株式会社、広島県信用組合、
一般財団法人ケンシン地域振興財団

入 館 料／一 般 1,400円

高・大学生 1,000円

小・中学生 700円

※前売・20人以上の団体は200円引き

入館者数／14,526人(59日間)

※G7広島サミット開催に伴い5月19日(金)～5月21日(日)は臨時休館



木版画家・川瀬巴水(1883-1957)は、急速な近代化により街や風景がめまぐるしく変貌していく時代を自らの足で各地を旅し、そこで見つけた心に響く光景を描き続けたことから「旅情詩人」と呼ばれ、季節や天候、時の移ろいまで映し出すような繊細な表現が特徴であり、魅力となっている。

浮世絵にかわる新時代の木版画「新版画」を推進した、版元の渡邊庄三郎は、巴水の制作を支え当時衰退しつつあった職人との協働や高度な伝統技術を継承しながら、新しい色彩感覚や表現を取り入れ、海外にも通用する木版芸術をめざした。この展覧会では初期から晩年までの巴水作品から、代表的なシリーズを中心に約180点で構成し、巴水と版元渡邊庄三郎との交友を紹介しつつ、巴水の画業を幅広く展観した。

(本展担当者：角田 新)

関連事業

- (1) 記念講演会「巴水版画の魅力」(広島県立美術館友の会共催)

日 時：4月16日(日)13:30～15:00

講 師：岩切 信一郎(本展監修、美術史家・國學院大學
大学院講師)

会 場：地階講堂

参加者：101人

- (2) 新版画の摺りの実演(広島県立美術館友の会共催)

日 時：4月23日(日)13:30～15:00

講 師：渡辺 英次(摺師)、渡辺 章一郎

(「渡邊木版美術画舗」代表取締役)



会 場：3階ロビー

参加者：120人

- (3) 学芸員によるギャラリートーク(ワイヤレスガイド使用)

日 時：4月14日(金)、5月12日(金)、26日(金)、
6月9日(金)各日11:00～

講 師：角田 新(当館主任学芸員)

会 場：3階企画展示室

参加者：計65人

- (4) 学芸員によるインスタライブ

日 時：4月18日(火)、5月9日(火)、29日(月)各日17:00～

講 師：角田 新(当館主任学芸員)

会 場：3階企画展示室

参加者：計223人

- (5) 観光事業者・観光ガイド向け特別鑑賞会

日 時：4月12日(水)16:30～担当学芸員によるレクチャー17:00～展示室にて鑑賞

講 師：角田 新(当館主任学芸員)

参加者：37人



主要関連番組

- (1) テレビ

3/11～ 広島テレビCM

4/11 広島テレビ ニュース 開幕

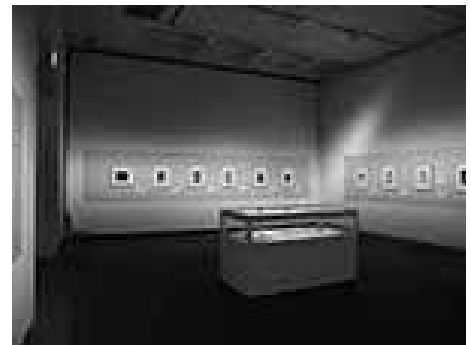
5/30 NHK広島放送局 ニュース

- (2) ラジオ

4/26 FMおのみち『You Gotta Radio』(出演：角田学芸員)

5/2 FMはつかいち『GO!GO!B びんご～(火)「こちら情報アンテナ」』
(出演：角田学芸員)

5/2 FMふくやま『昼なんじゃけん!761』(出演：角田学芸員)



主要関連記事

- (1) 新聞

・中国新聞

3/10 前売り販売開始

4/7 特集記事「旅情詩人」郷愁誘う木版画

4/12 昨日開幕

4/16 ミュージアムで会いましょう

4/28 事業ガイド 旅人のまなざし心に響く

5/17 寄稿 「遠回り」が生んだ新描法(角田主任学芸員)

(新聞広告)

(モノクロ全3段：4/10、14、5/1、6/10)(半3段：4/18、5/10、19)

(半5段：4/8、25、5/5、6/9)

・読売新聞

4/7 ひろしま県民情報

・山口新聞

4/27 生活情報面

(2) 雑誌等

『生協チラシ』3月～、『トライアングル』4月号、『縮景園かわら版』4月号、『to-you』4月号、『TJ Hiroshima』4月号、『リビングひろしま』4月7日号、『広島交響楽団第430回定期演奏会プログラム』4月16日号、『Wendy』4月号・5月号、『くれえばん』5月号、『月刊経済春秋』5月号(広告)、『Wink』5月号、『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第102号、『せとうちアート通信』vol.4

(3) WEB

『アートアジェンダ』3月～、『インターネットミュージアム』3月～、『ひろしまDive』3月～、『Walker Plus』3月下旬～、『JAFPLUS』3月～、『美術手帖』3月～、『FASHION PRESS』3月～、『Wink web』4月～、『青山デザインフォーラム』4月～

(4) その他

3/11～ NAVIA(街頭ビジョン)

4月～ 広島銀行、広島産業会館、ふくやま産業会館(以上、サイネージ)

4/5、5/25、27、29 マツダスタジアム大型ビジョン

4月下旬～ ゆめカード裏面

カタログ内容

ごあいさつ

旅・風景への誘い 一川瀬巴水の世界― 岩切信一郎

対談：新版画100年記念 一川瀬巴水と渡邊庄三郎― 渡邊章一郎／岩切信一郎

謝辞・凡例

【図版】

第1章 版画家・巴水、ふるさと東京と旅みやげ(関東大震災前)

第2章 「旅情詩人」巴水、名声の確立とスランプ(関東大震災後～戦中)

第3章 巴水、新境地を開拓、円熟期へ(中～戦後)

川瀬巴水：ステイブ・ジョブズの「美」の原点 佐伯健太郎

【資料編】

《野火止平林寺》木版畫順序摺

川瀬巴水が使用したモノたち 一版木、遺品の数々―

川瀬巴水による作品制作の場としての生活空間と旅 一ある家族との交流を通して― 真坂オリエ

川瀬巴水の洋画研究 一イギリスの挿絵画家からの影響 吉田洋子

川瀬巴水 旅の記録 一旅で出会った日本の風景―

川瀬巴水から渡邊庄三郎へ宛てた書簡

年譜 川瀬巴水、その生涯と画業 清水久男

作品目録

参考文献、参考資料

展覧会巡回先

SOMPO美術館

令和3(2021)年10月2日(土)～12月26日(日)

大分市美術館

令和4(2022)年1月7日(金)～2月20日(日)

秋田県立美術館

令和4(2022)年4月16日(土)～7月3日(日)

鹿児島市立美術館

令和4(2022)年9月30日(金)～11月6日(日)

パラミタミュージアム

令和5(2023)年2月3日(金)～3月28日(火)



2 魔法の美術館 光と遊ぶ超体験型ミュージアム

会 期／令和5(2023)年7月22日(土)～9月24日(日)
主 催／広島県立美術館、広島ホームテレビ、イズミテクノ、
中国新聞社
後 援／中国放送、広島テレビ、テレビ新広島、エフエムふくやま、
尾道エフエム放送
協 賛／広島県信用組合、一般財団法人ケンシン地域振興財団
企画協力／ステップ・イースト
入 館 料／一 般 1,400円
高・大学生 1,000円
小・中学生 700円
※前売・20人以上の団体は200円引き
入館者数／65,568人(65日間)



映像や光を用いたメディア・アートの流れを汲む作品を、子供から大人まで幅広い層が直感的に楽しむことができる体験型の展覧会として構成。来館者自身の動きに合わせて色や形が変化するなど双方向性を持つ作品、全8組の作家が手がけた16点により、主体的で臨場感あふれる鑑賞体験を提供した。会場全体で写真及び動画の撮影が可能であったことから、来館者自身による情報発信も盛んに行われ、子供連れを中心に幅広い世代から好評を得ることができた。

(本展担当者：森 万由子)

関連事業

(1) キッズモニター募集！

子供連れを対象とした招待企画。美術館のインスタライブに出演してもらい、当日、美術館職員及びメディアが撮影した画像・映像を展覧会広報に使用した。

日 時：7月24日(月)16:00～17:30

[インスタライブへの出演は17:00～]

定 員：10組(小学生以下。同伴は保護者2名まで、及び
兄弟姉妹)

会 場：3階展示室

参加者：25人 ※インスタライブ視聴数56名



(2) あつまれ！魔法使いの日

会期中の毎週月曜、魔法使いの装いで来場した先着10名に展覧会オリジナル缶バッジをプレゼントした。

配布場所：3階受付

配 布 数：計90個

(3) 魔法の美術館フォトコンテスト

会期中、会場で撮影した写真や動画に「#広島県立美術



館」「#魔法の美術館フォトコンテスト」をつけてインスタグラムに投稿した方の中から、5組10名様に次回展覧会「おいしいボタニカル・アート」展の招待券をプレゼントした。

投稿数：計146件



主要関連番組

(1) テレビ

- 7/22 広島ホームテレビ 昼ニュース 開幕
- 7/28 広島ホームテレビ 夕方番組内 特集、キッズモニター
- 8/6 広島ホームテレビ 昼ニュース、1万人セレモニー
- 8/17 広島ホームテレビ 夕方ニュース、3万人セレモニー
- 8/30 NHK広島放送局 夕方『お好みワイド』
- 8/31 広島ホームテレビ 昼ニュース、5万人セレモニー
- 9/6 テレビ新広島『TSSライク!』特集

(2) ラジオ

- 7/19 FMふくやま『みどりのオアシス』
(出演：森学芸員)
- 8/1 FMおのみち『You Gotta Radio』
(出演：森学芸員)



主要関連記事

(1) 新聞

・中国新聞

- 5/25 前売り販売開始
- 7/9 ミュージアムで会いましょう
- 7/23 昨日開幕
- 7/28 事業PR
- 7/29 中国新聞 セレクト
ふるさとニュースあらかると
- 8/3 朝刊特集キッズモニター
- 8/5 1万人セレモニー
- 8/18 3万人セレモニー
- 9/1 5万人セレモニー

(新聞広告)

(モノクロ全3段：6/5、19、7/3、15、8/10、9/8)、(半3段：6/7、26、7/12、26、8/26、9/21)、(半5段：6/2、20、9/13)

・読売新聞

- 9/1 ひろしま県民情報



・山陽新聞

(数回掲載)イベント欄

(2) 雑誌等

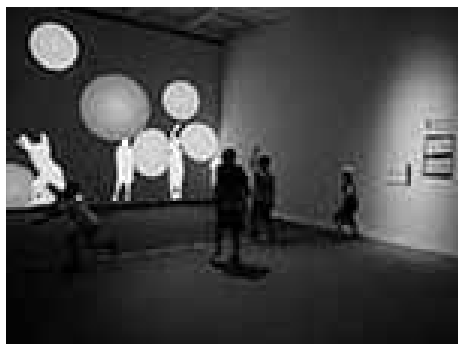
『to-you』4月号・7月号、『リビングひろしま』4月7日号、『生協チラシ』5月22日～(16回掲載)、『フルハップまいんど』6月号、『Wendy』6月号・7月号・9月号、『あんふあん』7月号、『くれえばん』7月号、『月刊経済春秋』7月号、『TJ Hiroshima』7月号、『ミライキッズ』7月号、『Workin』7月号、『ママンペール』7月5日号、『プレスネット』7月20日号、『トライアングル』8月号、『Wink』8月号、『日刊広島』8月1日号、『縮景園かわら版』9月号・10月号、『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第103号、『せとうちアート通信』夏号(vol.5)、『CHIC』夏号(vol.51)、『FunFunFun』秋号

(3) WEB

『アートアジェンダ』5月下旬～、『ひろしまDive』5月下旬～、『Walker Plus』5月下旬～、『NEWSCAST』5月下旬～、『ひろしまリード』5月下旬～、『JAFナビ』6月～、『ママンペールWeb』7月24日～、『Wink web』8月～

(4) その他

5/22～ 広島ホームテレビHP
6月～ 広島銀行、広島産業会館、ふくやま産業会館(以上、サイネージ)
6/13～6/19 ローソンチケット ポスター
7月～ チケットぴあ 広島駅(サイネージ)
7/1～7/31 チケットぴあPOP
7/5、26、8/1、4、6、17、20、26
マツダスタジアム大型ビジョン
7/24～ 広島ホームテレビタ方情報番組
MC卓上POP
8/23～9/24 NAVIA(街頭ビジョン)
9/1～ セブンイレブンPOP
10/27 広島交響楽団 折り込みチラシ
第435定期演奏会1,500部



同時期開催館

鹿児島県歴史・美術センター黎明館

令和5(2023)年7月14日(金)～8月20日(日)

佐賀県立美術館

令和5(2023)年7月15日(土)～8月27日(日)

高岡市美術館

令和5(2023)年7月22日(土)～9月3日(日)

そごう美術館

令和5(2023)年8月1日(火)～9月10日(日)



3 おいしいボタニカル・アート 食を彩る植物のものがたり

会 期／令和5(2023)年10月6日(金)～11月26日(日)
主 催／広島県立美術館、広島テレビ、中国新聞社、イズミテクノ
後 援／ブリティッシュ・カウンシル、中国放送、
広島ホームテレビ、テレビ新広島、エフエムふくやま、
尾道エフエム放送、FMはつかいち76.1MHz
協 力／日本航空
企画協力／ブレントラスト
特別協力／英国キュー王立植物園
協 賛／広島県信用組合、一般財団法人ケンシン地域振興財団
入 館 料／一 般 1,400円
高・大学生 1,000円
小・中学生 700円
※前売・20人以上の団体は200円引き
入館者数／20,941人(52日間)



ロンドン南西部のテムズ河畔に広がる英国キュー王立植物園は、1759年、英王室の宮殿に併設された庭園として開園した。本展では、約22万点ものボタニカル・アート(植物画)を有する同園の協力のもと、野菜や果物、ハーブ、スパイスなどを精緻に描いた植物画とともに、18～19世紀の食卓を飾った家具や食器、レシピなど約190点の作品を紹介した。

英国が産業革命によって躍進したこの時代、世界中から収集された植物は人々を魅了し、農作物の供給の高まりとともに、食や料理への関心は一般家庭へと広がっていく。様々な歴史を物語るボタニカル・アートとともに、英国の食と美にまつわる「おいしい」歴史を辿った。また、会期中はホテル等とのコラボレーションも実施することで、展覧会にも広がりを持たせることができた。

(本展担当者：山下 寿水)

関連事業

(1) 記念講演会(広島県立美術館友の会共催)

「『おいしい植物』と人間の歴史—わたしたちを突き動かすものについて」

日 時：11月18日(土)13:30～15:00

講 師：藤原 辰史(京都大学准教授)

会 場：地階講堂

参加者：97人

(2) 美術講座「本展をおいしく味わうためのものがたり」

日 時：10月8日(日)13:30～15:00

講 師：山下 寿水(当館主任学芸員)

会 場：地階講堂

参加者：84人



(3) 学芸員によるギャラリートーク(ワイヤレスガイド使用)

日 時：10月13日(金)、27日(金)、11月10日(金)、22日(金)、24日(金)各日11：00～、17：00～

講 師：山下 寿水(当館主任学芸員)

会 場：3階企画展示室

参加者：計136人

(4) 学芸員によるインスタライブ

日 時：10月17日(火)、31日(火)、11月14日(火)

各日17：00～

講 師：山下 寿水(当館主任学芸員)

会 場：3階企画展示室

参加者：計158人



(5) 森本ケンタTRIOロビーコンサート 音の実

日 時：11月4日(土)15：00～

演 奏：森本 ケンタ(ギター)、森川 泰介(パーカッション)、川岡 光一(チェロ)

会 場：1階ロビー

参加者：350人

(6) 観光事業者・観光ガイド向け特別鑑賞会

日 時：10月6日(金)17：00～担当学芸員によるレクチャー 17：10～展示室で鑑賞

講 師：山下 寿水(当館主任学芸員)

参加者：36人

(7) おいしい！コラボレーション

本展の開催に伴い、植物や英国文化にちなんだコラボメニューを各所で提供するとともに、チケットの提示(半券可)による相互割引を4施設で実施した。

・9月1日(金)～10月31日(火)：ホテルグランヴィア広島内「スカイレストランアンドラウンジL&R」(21F)では本展にちなんだコース料理を、「メザニンフロア ロビーラウンジ」(2F)ではアフタヌーンティーセットを提供。チケット提示により上記メニュー価格の10%引き。

・10月6日(金)～11月26日(日)：当館(1F)「ゾーナ・イタリア・イン・チェントロ」ではアフタヌーンティーセットを提供。チケット提示により上記メニュー価格の300円引き。

・10月1日(日)～11月26日(日)：リーガロイヤルホテル「スカイダイニング リーガトップ」では本展オリジナルカクテル2種を提供。チケット提示によりホテル内のレストラン&バー10%引き。

・10月6日(金)～11月26日(日)：ANAクラウンプラザホテルでは、チケット提示によりホテル内のレストラン&バー10%引き。



主要関連番組

(1) テレビ

- 10/5 広島テレビ 『テレビ派』 中継
- 10/6 広島テレビ 昼ニュース
- 10/12 広島テレビ 夕方番組内
- 10/20 広島テレビ 『丸ごと！好奇心♥知っとる!?』
- 10/27 NHK広島放送局 朝ニュース
- 11/2 広島テレビ 昼ニュース、1万人セレモニー

(2) ラジオ

- 9/27 FMふくやま 『月曜♪きらリズム』(出演：山下主任学芸員)
- 10/17 FMおのみち 『You Gotta Radio』(出演：山下主任学芸員)
- 10/20 FMひろしま お出かけ情報(出演：山下主任学芸員)
- 10/24～27 FMひろしま 招待券プレゼント
- 11/16 FMはつかいち 『いきいきFactory』(出演：山下主任学芸員)

主要関連記事

(1) 新聞

・中国新聞

- 7/31 前売り販売開始
- 9/1 事業ガイド 概要
- 9/15 事業ガイド ホテルコラボ
- 9/29 事業ガイド 学芸員が語る見どころ
- 10/4 特集
- 10/5 あす開幕
- 10/6 事業ガイド ホテルコラボ
- 10/7 特別展開幕
- 10/8 特集記事 愛しの果実1 鮮やかな赤生き写し
- 10/9 特集記事 愛しの果実2 曲線・重み・ありのまま
- 10/11 特集記事 愛しの果実3 断面図 構造美と質感
- 10/12 特集記事 愛しの果実4 葉の緑 生命力支える
- 10/13 特集記事 愛しの果実5 粒の成長 1枚に凝縮
- 10/13 事業ガイド 推しフル投票
- 10/19 寄稿 果実の息吹 みずみずしく(山下主任学芸員)
- 10/20 事業ガイド グッズ紹介
- 10/23 天風録
- 10/27 事業ガイド 配信・トーク 魅力深掘り
- 10/31 作品紹介 ようこそ英国庭園へ1
食を支える農村の営み(山下主任学芸員)
- 11/1 作品紹介 ようこそ英国庭園へ2
銅版画 手彩色で克明に(福田学芸課長)



- 11/2 作品紹介 ようこそ英国庭園へ3 商業発展とつながり(森学芸員)
- 11/3 1万人セレモニー
- 11/3 事業ガイド ロビーコンサート
- 11/4 作品紹介 ようこそ英国庭園へ4 愛らしく優美 誉れ高く(福田学芸課長)
- 11/7 作品紹介 ようこそ英国庭園へ5 自然の事象 フォームに(福田学芸課長)
- 11/8 作品紹介 ようこそ英国庭園へ6 模様にな中国趣味の影響(福田学芸課長)
- 11/9 作品紹介 ようこそ英国庭園へ7 芸術と科学 見事な融和(山下主任学芸員)
- 11/10 事業ガイド 私のイチオシ 緑色と緋色見事に調和(山下主任学芸員)
- 11/11 作品紹介 ようこそ英国庭園へ8 インドの細密画との融合(森学芸員)
- 11/14 作品紹介 ようこそ英国庭園へ9 中央に幹 大胆な力強く(山下主任学芸員)
- 11/15 作品紹介 ようこそ英国庭園へ10 心躍る伝統菓子の図版(森学芸員)
- 11/17 事業ガイド 推しフル投票結果

(新聞広告)

(モノクロ全3段: 8/24、9/27、10/12、11/6(島根版))、(半3段: 8/8、10/19、31、11/6(都市圏版)、15)、(半5段: 11/24)、(カラー全5段: 8/1、10/6、14、17、22、26、11/14、16、20、26)、(突き出し広告: 10/14、17、22、26、11/21、22、23、24、25)

・読売新聞

10/6 ギャラリー情報

・朝日新聞

11/8 食べたくなる緻密絵画並ぶ

(2) 雑誌等

『日刊広島』8月1日号、『縮景園かわら版』9月号・10月号、『to-you』9月号、『Wendy』9月号、『くれえばん』10月号、『TJ Hiroshima』10月号、『Wink』10月号・11月号、『リビングひろしま』10月6日号、『アシタノ』10月20日号、『リビングふくやま』10月20日号、『広島交響楽団第435回定期演奏会プログラム』10月27日号、『トライアングル』11月号、『NEXCO西日本「遊・悠・West イベントナビ」』11月号、『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)104号、『せとうちアート通信』秋号(vol.6)

(3) WEB

『アートアジェンダ』8月下旬～、『ひろしまDive』9月～、『JAFナビ』9月～、『Wink web』9月～、『FASHION PRESS』9月下旬～、『Walker Plus』9月下旬～、『アシタノ web』10月3日～、『美術手帖』10月下旬～

(4) その他

- 8/1～ NAVIA(街頭ビジョン)
- 8月～ 広島テレビHP
- 8月～ 中国新聞HP ちゅびコムメルマガ
- 8月～ 広島銀行、広島産業会館、ふくやま産業会館(以上、サイネージ)
- 8月下旬 花屋 チラシ送付105店
- 9/3、20、24、25、26、10/1、14、15、16 マツダスタジアム大型ビジョン
- 10月～ 広島テレビ キャストボード
- 10/3～ アシタノweb特集 コラボメニュー各所取材記事掲載
- 10/10～10/31(平日のみ) 本展ポストカードプレゼント先着10名様

10月下旬 紅茶専門店 チラシ送付 6店
 10月下旬 着物販売店 チラシ送付 14店
 10/27 広島交響楽団 折り込みチラシ 第435定期演奏会1500部
 10/30 日英協会総会 チラシ配布300部
 11/1～ (平日のみ)オリジナル缶バッチ植物柄プレゼント先着10名様
 11/11 広島交響楽団 折り込みチラシ 音楽の花束800部
 11/17 広島交響楽団 折り込みチラシ ディスカバリーシリーズ600部

カタログ内容

イントロダクション——英国キュー王立植物園

フィオナ・エインズワース(キュー王立植物園ライブラリー・アンド・アーカイヴズ代表)

テーブルに美味しい食を運ぶプラントハンティング

シャーロット・ギア(美術・デザイン史家)

図版

プロローグ 食を支える人々の営みー農耕と市場

第1章 大地の恵み 野菜

第2章 イギリスで愛された果実ー『ポモナ・ロンディネンシス』

第3章 日々の暮らしを彩る飲み物

第4章 あこがれの果物

第5章 ハーブ&スパイス

第6章 ブレジア＝クレイ家のレシピ帖と『ビートン夫人の家政読本』

資料

展覧会巡回先

SOMPO 美術館 令和4(2022)年11月5日(土)～令和5(2023)年1月15日(日)

静岡市美術館 令和5(2023)年4月8日(土)～6月4日(日)

西宮大谷記念美術館 令和5(2023)年6月10日(土)～7月23日(日)

茨城県立近代美術館 令和6(2024)年2月23日(金・祝)～4月14日(日)



所蔵作品展

当館では、5,000点を超える所蔵作品の中から、当館の所蔵作品や研究成果を生かした所蔵作品展を年に4回開催している。令和5年度においては、「コレクションを味わうための4つのうつわ」を年間のテーマとして、所蔵作品の魅力をわかりやすく伝えることを企図した。

所蔵作品展第1期では、同時期に開催されたG7広島サミットと絡め、「G7広島サミット応援企画 100の出会い、∞(無限)の対話」と題し、当館のコレクションの中から選りすぐった珠玉の100点を紹介。それとともに、メッセージボードに各作品の画像を掲示し、思い思いのコメントを来場者に記入してもらった。また、会期途中からサミット贈呈品の展示も行った(6月8日～7月2日)。

第2期では、特別展「魔法の美術館 光と遊ぶ超体験型ミュージアム」にちなみ、「サマーミュージアム 魔法の広島県立美術館」と題して、魔法や不思議を想起させる作品を紹介した。会期中(7月6日～9月10日)にはワークシートを配布し、子供たちが親しみながら楽しめる展示を目指した。また、今期から試行的にフリートークデー(フリートーキングデー)を実施し、作品の楽しみ方を広げるよう努めた。加えて、隣接する名勝・縮景園との連携展示を同時期に開催。縮景園で柴川敏之の作品を展示するほか、4室では菅亮平の作品を近世絵画とともに展示した。また、両施設での回遊に繋がるべく同企画と連動して、1室ではサルバドール・ダリ《ヴィーナスの夢》を中心とする西洋美術作品と柴川敏之による作品とを併置し、3室では平山郁夫《広島生変図》と菅亮平の作品とを併置した。(詳細23、36頁)

第3期では、特別展「おいしいボタニカル・アート」展と連動し、コレクションの中から植物をモチーフとする作品を展示。身近な存在である植物が、いかに美術作品に描かれているか紹介した。

第4期では、新たに「コレクション・フォーカス」の枠を設け、所蔵作品の更なる魅力発信に努めた。その第1回目として、「美術館のプロフィールー収集の軌跡」を開催。各分野における「最初」の収蔵品の展示から始まり、新収蔵品の紹介に至るまで、収集の軌跡を振り返りながら、コレクションを後世へ紡いでいくことの重要性を提示した。

また、令和3年度の秋期に開設したウェルカムギャラリー(彫刻展示スペース)では、「これが、県美の広島愛。」というテーマを継続して実施。作品や会場レイアウトを一部更新しながら、広島を代表する作家の紹介に努めた。また、昨年度に続き音声ガイドシステム(CO3 Audio Tour)によって日本語と英語でのガイドも可能とした。

こうした取組と併せて、リレートークやインスタライブ、対話によるギャラリートークやワークショップなどのイベントも各期で実施し、所蔵作品の魅力発信に努めた。4期を通じて、バラエティに富んだテーマで展開しつつ、従来の所蔵作品展の枠を拡げるような積極的な活動に取り組んだ一年であった。

(総括担当者：山下 寿水)

第1期 G7広島サミット応援企画

100の出会い、∞(無限)の対話

令和5年4月28日(金)～7月2日(日)
 前期：4月28日(金)～5月28日(日)
 後期：5月30日(火)～7月2日(日)
 ※臨時休館：5月19日(金)～5月21日(日)

ウェルカムギャラリー

No	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
1	平櫛 田中	1872-1979	五柳先生	1960(昭和35)	高51.8	木・彩色	1 軀		
2	小林 千古	1870-1911	静物	1900-1901(明治33-34)頃	23.3×32.5	油彩・板	1 面		
3	南 薫造	1883-1950	風景(新橋)	1930(昭和5)	31.0×41.0	油彩・板	1 面		
4	鬨 光	1907-1946	窓辺の花(百合)	1944(昭和19)	71.0×59.0	油彩・画布	1 面		
5	児玉 希望	1898-1971	暮春	1930(昭和5)	266.0×176.0	絹本彩色	1 面	第11回帝展	
6	奥田 元宋	1912-2003	泉響	1963(昭和38)	259.1×193.9	紙本彩色	1 面	第6回新日展	
7	平山 郁夫	1930-2009	家路	1953(昭和28)	146.0×206.0	紙本彩色	1 面	第38回院展	
8	圓鐔 勝三	1905-2003	途上	1941(昭和16) 鑄造1994(平成6)	高169.0×82.0×51.5	ブロンズ	1 軀		
9	六角 紫水	1867-1950	線のすさび麒麟文香盆	1927(昭和2)	高1.9 径25.5	漆・漆絵・彫刻	1 枚		
10	清水 南山	1875-1948	獅子図手板	1943(昭和18)	21.3×30.1	金・銅・赤銅・彫金	1 枚		
11	今井 政之	1930-2023	象嵌彩灰被チャンカイ讃歌花壺	1989(平成元)	高29.0 口径17.3	陶器	1 口		

第1室 西洋美術

No	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
12	ライオネル・ファイニンガー	1871-1956	海辺の夕暮	1927	45.0×77.0	油彩・画布	1 面		
13	パウル・クレー	1879-1940	ある音楽家のための楽譜	1924	25.7×31.1	インク・水彩・紙	1 面		後期
14	アレクサンダー・カーノルト	1881-1939	静物	1925	80.0×101.0	油彩・画布	1 面		
15	パブロ・ピカソ	1881-1973	フランコの夢と嘘	1937	31.8×42.3	エッチング・シュガー・アク アチント・紙	2 面		前期
16	パブロ・ピカソ		フランコの夢と嘘(Ⅱの第3刷)	1937	31.7×42.2	エッチング・シュガー・アク アチント・紙	1 面		前期
17	パブロ・ピカソ		フランコの夢と嘘(Ⅰの第1刷)	1937	31.7×42.2	エッチング・シュガー・アク アチント・紙	1 面		後期
18	パブロ・ピカソ		フランコの夢と嘘(Ⅱの第1刷)	1937	31.7×42.2	エッチング・シュガー・アク アチント・紙	1 面		後期
19	パブロ・ピカソ		フランコの夢と嘘(Ⅱの第4刷)	1937	31.7×42.2	エッチング・シュガー・アク アチント・紙	1 面		後期
20	エーリッヒ・ヘッケル	1883-1970	木彫りのある静物	1913	70.5×60.7	油彩・画布	1 面		
21	ベン・ニコルソン	1894-1982	1933(絵画)	1933	73.3×90.8	油彩・ジェッソ・板	1 面		
22	ルネ・マグリット	1898-1967	人間嫌いだち	1942	54.0×73.0	油彩・画布	1 面		
23	ベン・シャーン	1898-1969	強制収容所	1944	61.0×61.0	テンペラ・板	1 面		
24	アレクサンダー・コルダー	1898-1976	ヴァーティカル・ホワイト・フレーム	1936	高265.4	金属・ワイヤー・パネ・木	1 点		
25	ヘンリー・ムーア	1898-1986	弦のある形	1939	高30.5	ブロンズ・弦	1 点		
26	バーバラ・ハップワース	1903-1975	ネステイング・ストーンズ	1937	高19.0×30.5×22.8	大理石	1 点		
27	イサム・ノグチ	1904-1988	追想	1944(1983-84鑄造)	高125.7	ブロンズ	1 点		
28	サルバドール・ダリ	1904-1989	ヴィーナスの夢	1939	243.8×487.6	油彩・画布・パネール	1 面	ニューヨーク万国博覧会	

第2室 日本洋画

No	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
29	小林 千古	1870-1911	ミルク・メイド	1897(明治30)	69.0×50.8	油彩・画布	1 面	第10回白馬会展	
30	和田 三造	1883-1967	風景(バリ)	1909-1915(明治42-大正4)頃	62.5×37.5	油彩・画布	1 面		
31	南 薫造	1883-1950	坐せる女	1908(明治41)	112.1×83.3	油彩・画布	1 面	第4回文展	
32	藤田 嗣治	1886-1968	婦人像(リオ)	1932(昭和7)	81.2×65.0	油彩・画布	1 面	藤田嗣治追悼展(1968)	
33	小林 和作	1888-1974	春の山	1967(昭和42)	80.0×100.0	油彩・画布	1 面		
34	長谷川利行	1891-1940	田端変電所	1923(大正12)	23.8×32.6	油彩・キャンバスボード	1 面	第4回新光洋画会展	
35	田中 万吉	1895-1945	サントロッペの漁港	1924-1927(大正13-昭和2)頃	65.0×81.0	油彩・画布	1 面		
36	里見 勝蔵	1895-1981	娘の化粧	1928(昭和3)	80.3×65.2	油彩・画布	1 面	第15回二科展	
37	名井 萬亀	1896-1976	宮古市浄土が濱	1973(昭和48)	112.0×162.8	油彩・画布	1 面		
38	中西 利雄	1900-1948	マドモアゼルS嬢	1938(昭和13)	62.5×48.4	水彩・紙	1 面		前期
39	岡田 謙三	1902-1982	北市場	1942(昭和17)	104.2×87.0	油彩・画布	1 面	第29回二科展	
40	山口 長男	1902-1983	象形	1956(昭和31)	182.3×183.2	油彩・板	1 面	第41回二科展	
41	山路 商	1903-1944	自画像	1942(昭和17)	26.0×19.2	油彩・板	1 面		

No	作者	生没年	作品名	制作年	法量 (cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
42	村井 正誠	1905-1999	スエズの朝	1932(昭和7)	46.0×55.0	油彩・画布	1 面	個展(1934)	
43	檜山 武夫	1906-1932	陸橋	1931(昭和6)	91.0×91.0	油彩・画布	1 面	第18回二科展	
44	井上長三郎	1906-1995	屠殺場	1936(昭和11)	203.0×270.0	油彩・画布	1 面	第 6 回独立展	
45	鶴岡 政男	1907-1979	海のあやかし	1958(昭和33)	130.3×194.0	油彩・画布	1 面	第3回現代日本美術展	
46	畿 光	1907-1946	帽子をかむる自画像	1943(昭和18)	60.0×50.0	油彩・画布	1 面		
47	太田 忠	1908-1971	池のある風景	1956(昭和31)	162.1×130.3	油彩・画布	1 面	第2回現代日本美術展	
48	土屋 幸夫	1911-1996	果てしなき餐食	1938(昭和13)	37.9×45.5	油彩・画布	1 面	創紀美術協会前哨展	
49	寺田 政明	1912-1989	二つの道	1954(昭和29)	116.9×91.2	油彩・画布	1 面	第18回自由美術展	
50	岡部 繁夫	1912-1969	作品N R	1963(昭和38)	181.8×227.5	油彩・画布	1 面		
51	水船 六洲	1912-1980	はつ雁抄	1972(昭和47)	高155.0×57.0×51.5	木・彩色	1 軀	第 4 回改組日展	
52	松本 竣介	1912-1948	車庫近く	1942(昭和17)	33.4×45.5	油彩・画布	1 面		
53	桂 ゆき	1913-1991	土	1939(昭和14)	61.0×50.0	油彩・画布	1 面		
54	芥川 永	1915-1998	カンタトリス(遠くの声3)	1984(昭和59)	高71.0×30.9×30.9	ブロンズ	1 軀	第48回新制作協会展	
55	菅井 汲	1919-1996	SOLEIL BLEU(青い太陽)	1969(昭和44)	235.5×236.0	アクリル・画布	1 面		
56	金光 松美	1922-1992	Mt.WHITNEY	1976(昭和51)	112.0×243.9	油彩・画布	1 面		
57	高橋 秀	1930-	かにのある静物	1960(昭和35)	110.0×134.0	油彩・画布	1 面		
58	入野 忠芳	1939-2013	裂罅(れっか)75—6	1975(昭和50)	130.3×162.1	油彩・画布	1 面		

第3室 中・近世絵画／日本画

No	作者	生没年	作品名	制作年	法量 (cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
59	狩野派		西湖図	室町時代	各137.5×353.6	紙本墨画	6 曲1 双		後期
60	狩野派		巖島図	江戸時代	151.0×334.0	紙本金地彩色	6 曲1 隻		前期
61	宋 紫石	1715-1786	柳下白鷄図	176(明和6)	112.6×44.5	絹本彩色	1 幅		後期
62	曾我 蕭白	1730-1781	伯顔図	1767(明和4)頃	133.2×57.0	紙本墨画	1 幅		前期
63	福原 五岳	1730-1799	唐人物図	1785(天明5)	171.0×276.5	紙本彩色	2 曲1 隻		前期
64	岡 岷山	1734-1806	梅花小禽図	江戸時代	42.4×33.4	絹本彩色	1 面	『諸家書画帖』のうち	後期
65	頼 山陽	1780-1832	寒林訪友図	1827(文政10)	132.0×27.6	紙本墨画	1 幅		前期
66	平田 玉蘊	1787-1855	唐美人図	江戸時代	42.4×33.4	絹本彩色	1 面	『諸家書画帖』のうち	前期
67	横山 大観	1868-1958	井筒	1897(明治30)	135.6×83.5	絹本彩色	1 幅		前期
68	菱田 春草	1874-1911	莊重(高士望岳)	1902(明治35)	103.4×47.9	絹本墨画	1 幅	第12回日本美術院絵画研究会	前期
69	速水 御舟	1894-1935	隠岐の海	1914(大正3)	113.0×42.2	絹本彩色	1 幅	第 1 回赤曜会展	前期
70	田中 頼璋	1866-1940	高士訪友図	1914(大正3)頃	241.0×142.0	絹本彩色	1 幅		前期
71	福田 恵一	1895-1956	イスパニアに寄る常長	1923(大正12)	111.3×115.8	絹本彩色	1 幅	日本美術展	前期
72	竹内 栖鳳	1864-1942	城址	1924(大正13)	80.6×94.2	絹本墨画淡彩	1 幅	第 1 回淡交会展	後期
73	里見 雲嶺	1849-1928	管絃祭図	1917(大正 6)	51.5×74.1	絹本墨画彩色	1 幅		後期
74	平櫛 田中	1872-1979	落葉	1913(大正 2)	高74.5	木	1 軀	第 7 回文展	
75	内畠 暁園	1874-1917	異国人物図	明治時代	199.1×142.0	絹本彩色	1 面		後期
76	丸木 スマ	1875-1956	動物	1952(昭和27)	90.0×94.0	紙本彩色	1 幅	童画展	後期
77	村上 華岳	1888-1939	菩薩図	1924(大正13)頃	58.2×50.6	絹本彩色	1 幅		後期
78	森谷南人子	1889-1981	初春閑村	1938(昭和13)	116.0×195.0	紙本彩色	1 面	第 2 回新文展	
79	金島 桂華	1892-1974	牡丹	1948(昭和23)	各163.0×171.0	紙本彩色	2 曲1 双	第 4 回日展	
80	児玉 希望	1898-1971	浅春	1930(昭和 5)	266.0×176.0	絹本彩色	1 面		
81	丸木 位里	1901-1995	ラクダ	1938(昭和13)	171.0×183.0	紙本彩色	2 曲1 隻	第 6 回春の青龍社展	
82	船田 玉樹	1912-1991	日輪	1940(昭和15)	各181.0×181.0	紙本彩色	2 曲1 双	紀元2600年事祝日本画展	
83	和高 節二	1898-1990	村の子供	1933(昭和 8)	177.5×184.6	紙本彩色	2 曲1 隻	昭和 8 年度日本画会展	
84	塩出 英雄	1912-2001	春山	1969(昭和44)	176.0×242.0	紙本彩色	1 面	第54回院展	
85	奥田 元宋	1912-2003	待月	1949(昭和24)	130.4×204.2	絹本彩色	1 面	第 5 回日展	
86	圓鐔 勝三	1905-2003	月夜の僧	1985(昭和60)	高88.0×97.0×90.0	木・銅板・彩色	1 軀	第17回改組日展	
87	平山 郁夫	1930-2009	受胎霊夢	1962(昭和37)	179.5×178.8	紙本彩色	1 面	第47回院展	

第4室 日本とアジアの工芸

No	作者・民族名・地域	生没年	作品名	制作年	法量 (cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
88			草花蒔絵螺鈿書見台	桃山時代～江戸時代初期	高34.0 幅32.3	木・漆・蒔絵・螺鈿	1 基		
89			重要文化財 伊万里色絵花卉文輪花鉢 (柿右衛門様式)	江戸時代 17世紀後半	高11.5 口径24.4	磁器・色絵	1 口		
90			伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代 17世紀後半	高44.3	磁器・色絵	1 軀		
91			伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代 17世紀後半	高45.0	磁器・色絵	1 軀		

No.	作者・民族名・地域	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
92	三代金城一國斎	1829-1915	獅子牡丹高盛絵菓子器	1886(明治19)	総高16.5 19.0×19.0	木・漆・堆彩漆・高盛絵	1合		
93	植松 抱民	1845-1899	萩に雁研出蒔絵 文台		高12.5 35.6×61.2	木・漆・銀・蒔絵	1具		
94	植松 抱民		桜に燕研出蒔絵 硯箱		高4.3 4.0×21.0	木・漆・銀・蒔絵	1合		
95	六角 紫水	1867-1950	刀筆天部奏楽方盆	1927(昭和2)	高2.2 19.6×19.6	木・漆・漆絵・彫刻	1枚	第8回帝展	
96	清水 南山	1875-1948	波に龍文水瓶	1937(昭和12)	高33.0 径13.0	銀・鍍金・彫金	1点	第1回新文展	
97	浜田 庄司	1894-1978	黒釉錆流描大鉢	昭和30年代後半	高13.8 径47.0	陶器	1口		
98	松田 権六	1896-1986	鶯蒔絵棚	1938(昭和13)	高69.5 39.3×90.5	木・漆・蒔・螺鈿・平文・鎌倉彫	1基	第2回新文展	
99	門田 篁玉	1916-2021	連作「蕾」	1975(昭和50)	高28.4 径57.5	竹	1口	第7回日展入選作	
100	八木 一夫	1918-1979	盲亀	1964(昭和39)	高34.0 13.0×31.0	黒陶	1点		
101	鈴木 治	1926-2001	神経質な鳥	1975(昭和50)	高18.7 20.0×12.6	青白磁・(台)木	1点		
102	今井 政之	1930-2023	釉彩海老飾皿	1973(昭和48)	径52.5 高9.1	陶器	1枚		
103	加守田章二	1933-1983	曲線彫文扁壺	1970(昭和45)	高27.1 12.0×23.0	陶器	1口		
104	ホラーサーン地方		青銅銀象嵌大水盤	12世紀中期	高22.5 径70.5	青銅・銀・铸造	1口		
105	ホラーサーン地方		胡銅円筒形灯籠	12世紀	高30.0 径24.0	砂張・打出・透彫	1基		
106	スラタ(現ウズベキスタン)		刺繍布(スザニ)	19世紀前半	253.0×172.0	木綿・絹糸・刺繍	1枚		前期
107	ウズベク人		女性用外衣(チャパン)	1900年頃	129.0×162.8	経・緋・緋・経・裏にプリント木綿	1領		前期
108	ウズベク人		女性用外衣(チャパン)	19世紀中期～後半	122.5×159.0	経・緋・緋・経・裏にプリント木綿	1領		後期
109	テケ族 トルクメン人		女性用被衣(チルビ)	1920年頃	総丈125.0	絹・刺繍	1領		前期
110	テケ族 トルクメン人		女性用被衣(チルビ)	20世紀	総丈118.5	絹・刺繍	1領		後期
111	テケ族 トルクメン人		背飾り(アシク)	1806/07(ヒジュラ暦1221)	高26.5	銀・鍍金・カーネリアン	1枚		
112	北ヨムート族 トルクメン人		花嫁用頭飾り	1923/24(ヒジュラ暦1342)	高14.7(下げ飾り除く)	銀・鍍金・ガラス	1点		
113	テケ族 トルクメン人		護符入れ(トゥマル)	18世紀後半	幅27.0	銀・鍍金・カーネリアン	1点		
114	インド		藍地葉文更紗	18世紀	254.4×93.0	木綿・手描防染	1枚		前期
115	インド, デカン		紺地クリシュナ・ゴビ文金更紗	15～16世紀	172.0×136.8	木綿・描絵金更紗	1枚		後期
116	インド, コロマンデル海岸		生命の樹文更紗	1770年頃	310.0×219.0	木綿・手描媒染防染	1枚		後期
117	インドネシア, バリ島デンガナン		影絵人形文経緯緋肩掛(グリンシン)	19世紀	217.0×48.8	木綿・経緯緋	1枚		後期

追悼 今井政之

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
118	今井 政之	1930-2023	躍鳥扁壺	1953(昭和28)	高38.2 幅38.8 奥行22.9	陶器	1口	第9回日展(初入選)	
119	今井 政之		苔泥彩「中東想」	1969(昭和44)	高51.0 径25.0	陶器	1口		
120	今井 政之		泥彩魚紋壺	1974(昭和49)	高54.6	陶器	1口	第4回ヴァロリス国際陶芸ビエンナーレ展	
121	今井 政之		象嵌赫窯瀬戸の幸大皿	1998(平成10)	高8.0 口径73.5	陶器	1枚		

G 7 首脳等及び招待国首脳等への贈呈品

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
122	今井 政之	1930-2023	象嵌彩窯変 海老 花瓶	2023(令和5)	高23.5 径14.0	陶器	1口		6/8～
123	高山 尚也	1981-	広島漆芸「伝」	2023(令和5)	片口：高14.0 17.0×10.0、底口：高4.5 6.0×6.0、円板：高1.0 27.0×27.0	漆	1式		6/8～
124	三上 貞直	1955-	「和永」玉鋼紙切小刀	2023(令和5)	全長22.0	玉鋼	1本		6/8～

関連事業

(1) リレートーク

日 時：6月23日(金)15：00～

講 師：藤崎 綾(当館主任学芸員)、神内 有理(当館主任学芸員)、岡地 智子(当館主任学芸員)、森 万由子(当館学芸員)

会 場：2階展示室

参加者：6人

(2) 対話によるギャラリートーク

日 時：①6月17日(土) ②7月1日(土) 各日 15：00～

ナビゲーター：①岡地 智子(当館主任学芸員)、森 万由子(当館学芸員)
②福田 浩子(当館学芸課長)、岡地 智子(当館主任学芸員)

会 場：2階展示室

参加者：①5人 ②5人

(3) インスタライブ配信

①西洋美術 ②日本洋画 ③日本画 ④工芸

日 時：①5月30日(火) ②6月6日(火) ③6月13日(火) ④6月27日(火) 各日17:00～

講 師：①森 万由子(当館学芸員)②角田 新(当館主任学芸員)、藤崎 綾(当館主任学芸員)

③神内 有理(当館主任学芸員)④岡地 智子(当館主任学芸員)

参加者：①54人 ②56人 ③66人 ④46人

関連報道・記事

(1) 新聞

5/13 中国新聞「広島美術 国内外へ発信」

5/13 毎日新聞「個性と対話楽しんで」

(2) 雑誌等

『to-you』5月号、『くれえぱん』6月号、『Wendy』6月号、『広島交響楽団第432回定期演奏会プログラム』
6月9日号

「G7首脳等及び招待国首脳等への贈呈品」展示の関連報道・記事

(1) テレビ

6/8 NHK広島 昼のニュース

6/8 中国放送 夕方のニュース

6/8 テレビ新広島 昼・夕のニュース

6/8 広島テレビ 夕方のニュース

6/8 広島ホームテレビ 夕方のニュース

(2) 新聞

6/9 中国新聞 朝刊「サミット贈呈品を展示」



第2期 サマーミュージアム

魔法の広島県立美術館／縮景園連携企画 (大名庭園＋美術館)×現代アート＝記憶の庭 菅亮平・柴川敏之とめぐる

令和5年7月6日(木)～9月10日(日)
前期：7月6日(木)～8月6日(日)
後期：8月8日(火)～9月10日(日)

ウェルカムギャラリー

No	作者	生没年	作品名	制作年	法量 (cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
1	平櫛 田中	1872-1979	五柳先生	1960(昭和35)	高51.8	木・彩色	1 軀		
2	小林 千古	1870-1911	静物	1900-1901(明治33-34)頃	23.3×32.5	油彩・板	1 面		
3	南 薫造	1883-1950	風景(新橋)	1930(昭和5)	31.0×41.0	油彩・板	1 面		
4	顰 光	1907-1946	窓辺の花(百合)	1944(昭和19)	71.0×59.0	油彩・画布	1 面		
5	児玉 希望	1898-1971	烟雨	1954(昭和29)	132.0×173.0	絹本彩色	1 面	第10回日展	
6	奥田 元宋	1912-2003	青山白雲	1987(昭和62)	180.3×124.4	紙本彩色	1 面	幽玄讃歌 奥田元宋展	
7	平山 郁夫	1930-2009	天山南路(昼)	1960(昭和35)	164.2×218.8	紙本彩色	1 面		
8	圓錐 勝三	1905-2003	途上	1941(昭和16)・1944(昭和19)	高169.0×82.0×51.5	ブロンズ	1 軀		
9	六角 紫水	1867-1950	線のすさび忍冬図香盆	1924(大正13)	高1.9 径25.5	漆・漆絵・彫刻	1 枚		
10	清水 南山	1875-1948	飛龍躍浪文硯屏	1942(昭和17)	高27.5 23.5×8.9	銀・彫金	1 面		
11	今井 政之	1930-2023	苔泥彩漕花壺	1975(昭和50)	高42.7 口径9.9	陶器	1 口		

第1室 西洋美術〔41世紀の美術館〕

No	作者	生没年	作品名	制作年	法量 (cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
12	ジュリオ・ゴンザレス	1876-1942	人物(鏡の前の女)	1934	高51.5×12.3×14.0	ブロンズ	1 点		
13	マン・レイ	1890-1976	埃の培養	1920	21.1×37.5	ゼラチン・シルバー・プリント	1 面		
14	マン・レイ		黒と白	1926	20.7×28.9	ゼラチン・シルバー・プリント	1 面		
15	マン・レイ		偽りの涙	1932	22.0×29.8	ゼラチン・シルバー・プリント	1 面		
16	マン・レイ		贈り物	1921	20.2×14.8	ゼラチン・シルバー・プリント	1 面		
17	マン・レイ		アングルのヴァイオリン	1924	30.8×23.1	ゼラチン・シルバー・プリント	1 面		
18	マックス・エルンスト	1891-1976	オイディプスⅠ	1934(1992 casting)	高62.0	ブロンズ	1 点		
19	ルネ・マグリット	1898-1967	人間嫌いたち	1942	54.0×73.0	油彩・画布	1 面		
20	ヘンリー・ムーア	1898-1986	弦のある形	1939	高30.5	ブロンズ・弦	1 点		
21	イサム・ノグチ	1904-1988	追想	1944(1983-84 casting)	高125.7	ブロンズ	1 点		
22	サルバドール・ダリ	1904-1989	ヴィーナスの夢	1939	243.8×487.6	油彩・画布・パネル	1 面	ニューヨーク万国博覧会	
23	柴川 敏之	1966-	2000年後に発掘された「柔かい時計」の化石	2023(令和5)	高8.5×12.4×11.2	ミクストメディア	2 点	作家蔵	
24	柴川 敏之		2000年後に発掘された「キリン」の化石	2023(令和5)	高172×56×36/高118×45×24	ミクストメディア	2 点	作家蔵	
25	柴川 敏之		2000年後に発掘された「アリ」の化石	2023(令和5)	高4.0×14.8×10.8	ミクストメディア	2 点	作家蔵	
26	柴川 敏之		2000年後に発掘された「ロブスター」の化石	2023(令和5)	高5.0×24.6×18.5	ミクストメディア	1 点	作家蔵	
27	柴川 敏之		2000年後に発掘された「鳥かご」の化石	2023(令和5)	高59.0×直径24.0	ミクストメディア	1 点	作家蔵	
28	柴川 敏之		2000年後に発掘された「折り鶴」の化石	2022(令和4)	高6.6×10.3×5.4	ミクストメディア	2 点	作家蔵	
29	柴川 敏之		2000年後に発掘された「コウモリ」の化石	2023(令和5)	高3.0×22.0×1.0	ミクストメディア	1 点	作家蔵	
30	柴川 敏之		2000年後に発掘された「なわとび」の化石	2023(令和5)	サイズ可変	ミクストメディア	1 点	作家蔵	
31	柴川 敏之		2000年後に発掘された「画材」の化石	2006(平成18)	サイズ可変	ミクストメディア	1 組	作家蔵	
32	柴川 敏之		2000年後に発掘された「アメ(チュップパチャブス)」の化石	2023(令和5)	高2.5×8.2×2.6	ミクストメディア	1 点	作家蔵	
33	柴川 敏之		2000年後に発掘された「キュービー人形」の化石	2019(令和元)	34.0×34.0×25.0他	ミクストメディア	1 組	作家蔵	
34	柴川 敏之		2000年後に発掘された「絵画(セザンヌ)」の化石	2005(平成17)	66.2×73.4×9.0	ミクストメディア	1 面	作家蔵	
35	柴川 敏之		2000年後に発掘された「能面」の化石	2018(平成30)	28.0×15.8×8.0	ミクストメディア	1 点	作家蔵	
36	柴川 敏之		2000年後に発掘された「太陽の塔」の化石	2007(平成19)	11.0×2.2×14.6	ミクストメディア	1 点	作家蔵	
37	柴川 敏之		2000年後に発掘された「人物(キュービー人形)」の化石	2019(令和元)	高58.8×9.2×31.8	ミクストメディア	1 点	作家蔵	
38	柴川 敏之		2000年後に発掘された「弦のない形(トランペット)」の化石	2019(令和元)	高42.0×9.0×13.0	ミクストメディア	1 点	作家蔵	
39	柴川 敏之		2000年後に発掘された「贈り物(アイロン、スパイク鉄)」の化石	2023(令和5)	サイズ可変	ミクストメディア	1 組	作家蔵	
40	柴川 敏之		2000年後に発掘された「ヴァイオリン」の化石	2019(令和元)	41.0×14.4×6.5	ミクストメディア	1 点	作家蔵	
41	柴川 敏之		2000年後に発掘された「メトロノーム」の化石	2014(平成26)	高21.0×9.0×9.4	ミクストメディア	1 点	作家蔵	

第2室 魔法は想像力－日本洋画の魔法

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
42			四川漢代画像磚拓本 西王母Ⅰ	後漢時代	41.5×47.0	拓本 墨・紙	1面		前期
43			四川漢代画像磚拓本 伏羲女媧Ⅰ	後漢時代	40.1×48.6	拓本 墨・紙	1面		前期
44			四川漢代画像磚拓本 伏羲女媧Ⅱ	後漢時代	41.5×47.0	拓本 墨・紙	1面		後期
45			四川漢代画像磚拓本 西王母Ⅱ	後漢時代	25.8×45.6	拓本 墨・紙	1面		後期
46	名井 萬亀	1896-1976	六根清浄	1968(昭和43)	243.0×351.0	油彩・画布	1面		
47	山路 商	1903-1944	犬とかたつむり	1937(昭和12)	80.1×116.4	油彩・画布	1面		
48	松井 正	1906-1993	「マチーソン」への道	1975(昭和50)	162.1×112.1	油彩・画布	1面	安井賞展奨励賞	
49	鶴岡 政男	1907-1979	帰りみち	1976(昭和51)	80.3×100.0	油彩・画布	1面	四人展(76愛宕山画廊)	
50	灰谷 正夫	1907-1985	神楽	1962(昭和37)	152.5×112.5	油彩・画布	1面	第26回自由美術展	
51	角 浩	1909-1994	平和のメリーゴーランド	1976(昭和51)	100.0×80.3	油彩・画布	1面	ユネスコ国際展 (バグダッド)	
52	澤山 卓爾	1910-1997	花の巴里	1959(昭和34)	61.0×72.5	油彩・紙	1面		
53	中山 一郎	1912-1995	旱天	1968(昭和43)	130.3×97.0	油彩・画布	1面	第32回自由美術展	
54	古沢 岩美	1912-2000	死の誕生	1954(昭和29)	97.0×193.9	油彩・画布	1面		
55	安部 毅	1915-1983	月	1955(昭和30)	100.0×72.5	油彩・画布	1面	自由美術春季選拔展	
56	菅井 汲	1919-1996	SOLEIL	1971(昭和46)	200.0×200.0	アクリル・画布	1面		
57	菅井 汲		雲	1961(昭和36)	71.0×54.0	インク・紙・リトグラフ	1面		前期
58	菅井 汲		雲	1961(昭和36)	71.0×54.0	インク・紙・リトグラフ	1面		後期
59	菅井 汲		青い獣	1961(昭和36)	54.0×40.0	インク・紙・リトグラフ	1面		前期
60	菅井 汲		雲 小	1963(昭和38)	34.5×22.5	インク・紙・リトグラフ	1面		後期
61	入野 忠芳	1939-2013	浮遊	1970(昭和45)	117.0×90.9	油彩・画布	1面		
62	榎原 慶喜	1953-	数字のない時計	1993(平成5)	162.3×227.9	油彩・画布	1面		

第3室 工芸が織りなす魔法

No.	作者・民族名・地域	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
63			鮫皮張草花鳥獣蒔絵螺鈿大筆筒	桃山時代～江戸時代初期	高65.0 89.0×52.0	木・漆・鮫革・蒔絵・螺鈿	1棹		
64			重要文化財 伊万里色絵花井文輪花鉢 (柿右衛門様式)	江戸時代 17世紀後半	高11.5 口径24.4	磁器・色絵	1口		
65			伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代 17世紀後半	高44.3	磁器・色絵	1軀		
66			伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代 17世紀後半	高45.0	磁器・色絵	1軀		
67	エルサリ族 トルクメン人		胸飾り(ゴンジュク)	19世紀中期	高36.0 幅23.0	銀・貝・ガラス・ガラスビーズ・綿布	1枚		
68	トルクメン人		噛み煙草入れ(ナス・ケディ)	19世紀	高14.0 径5.0	銀・瓢箪	1点		
69	ジャファアバイ・ヨムート族 トルクメン人		糸紡ぎの道具	19世紀後半	高20.5 高18.0	銀・鍍金・木	2点		
70	河井寛次郎	1890-1966	紅壺		高9.3 口径8.3	磁器	1口		
71	河井寛次郎		赤盒子		高4.2 径5.8	磁器	1合		
72	河井寛次郎		鱗血文青浅		高3.1 口径11.7	磁器	1枚		
73	河井寛次郎		青磁盃	1922(大正11)	高11.6 口径15.4	青磁	1口		
74	河井寛次郎		青瓷桃子餅	1923(大正12)	高10.8 口径9.5	青磁	1口		
75	河井寛次郎		鉄釉硯		高5.0 16.7×11.2	陶器	1面		
76	芹沢 銑介	1895-1984	組紐文のれん	1940(昭和15)	136.5×70.4	紬・型染	1枚		
77	芹沢 銑介		縄のれん 文のれん	1955(昭和30)	135.0×88.5	木綿・型染	1枚		
78	芹沢 銑介		風の字のれん	1957(昭和32)	101.0×72.0	木綿・型染	1枚		
79	芹沢 銑介		この山みち文のれん	1959(昭和34)	105.5×80.5	木綿・型染	1枚		
80	金重 陶陽	1896-1967	備前耳付水指		高21.8 径21.9	陶器	1合		
81	熊倉 順吉	1920-1985	自暴自棄	1978(昭和53)	高43.0 30.0×17.0	陶器	1点		
82	藤田 喬平	1921-2004	飾篭「湖上の花」	1989(平成元)	高26.5 23.2×23.2	ガラス	1合		
83	藤平 伸	1922-2012	鳥の壺	1968(昭和43)	高52.0	陶器	1口		
84	船木 倭帆	1935-2013	飾双耳一輪挿し		高18.0 幅9.8	吹きガラス	1口		
85	船木 倭帆		インク壺		高9.8 径6.0	吹きガラス	1合		
86	船木 倭帆		栓付角瓶		幅7.5×25.7	吹きガラス	1合		
87	佐藤 敏	1936-2022	作品 '88	1988(昭和63)	長さ78.7	陶器・金属	1点		
88	笹山 忠保	1939-	魔法のじゅうたん	1974(昭和49)	高79.8 51.6×8.5	陶	1組	第1回信楽陶芸展優秀賞	
89	十五代樂吉左衛門	1949-	茶碗	1992(平成4)	高11.0 径13.1	陶器	1口		

日本画－東洋の魔法を感じてみよう

No	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
90	山野峻峯斎	1784-1852	蓬莱図		97.0×36.0(各)	絹本墨画淡彩	2 幅		
91	橋本 雅邦	1835-1908	風神雷神	1895(明治28)	138.0×52.0(各)	絹本彩色	2 幅		
92	橋本 雅邦		竜虎争気		126.0×50.0(各)	絹本墨画淡彩	2 幅		
93	児玉 希望	1898-1971	雲似(新水墨画十二題)	1959(昭和34)	59.0×69.5	絹本墨画	1 面	新水墨画展	
94	児玉 希望		滴律(新水墨画十二題)	1959(昭和34)	67.0×64.0	絹本墨画	1 面	新水墨画展	
95	児玉 希望		地紋(新水墨画十二題)	1959(昭和34)	60.0×63.0	絹本墨画	1 面	新水墨画展	
96	児玉 希望		円鎖(新水墨画十二題)	1959(昭和34)	54.5×66.0	絹本墨画金泥	1 面	新水墨画展	
97	丸木 位里	1901-1995	雨乞	1939(昭和14)	172.0×140.0	紙本彩色	1 面	第1回丸木位里・船田玉樹個展	
98	丸木 位里		不動	1941(昭和16)	213.0×106.0	紙本彩色	1 面	第1回岩崎美達・丸木位里・船田玉樹三人展	
99	山中 雪人	1920-2003	樹下黎明	1969(昭和44)	212.0×167.0	紙本彩色	1 面	第54回院展	
100	山中 雪人		座	1962(昭和37)	89.0×63.5	紙本彩色	1 面	第17回春の院展	
101	平山 郁夫	1930-2009	広島生変図	1979(昭和54)	171.0×364.0	紙本彩色	1 面	第64回院展	
102	菅 亮平	1983-	K 15-30D	2022(令和4)	194.0×390.9	キャンバス・フッ素樹脂塗料	1 面	作家蔵	

第4室 (大名庭園+美術館)×現代アート＝記憶の庭 菅亮平・柴川敏之とめぐる Half-life of Archetype

No	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
103	菅 亮平	1983-	Waiting for Deity - Yogo no Matsu at Kasuga Taisha	2023(令和5)	38.0×57.0	インクジェットプリント	1 面	作家蔵	
104	菅 亮平		Pine Trees	2023(令和5)	182.0×546.0(各)	インクジェットプリント	4 面	作家蔵	
105	菅 亮平		Untitled	2023(令和6)	8時間	ステレオ	1 本	制作協力: 庄子渉 作家蔵	
106	菅 亮平		Candles - Death Do Us Part	2023(令和7)	8時間	シングルチャンネルビデオ	1 本	制作協力: 庄子渉 制作: SDO/YouTube/YouTubeチャンネル 制作: 作家蔵	
107	菅 亮平		Noh Show - Takasago	2023(令和8)	9分30秒	シングルチャンネルビデオ	1 本	作家蔵	
108	狩野派		松図	17-18世紀	149.8×343.4	紙本金地彩色	6曲1隻	個人蔵	
109	岡 岷山	1734-1806	仏法僧図(学如賛)	1766(明和3)	99.0×39.0	絹本彩色	1 幅		
110	岡 岷山		松竹梅之図(浅野重晟奉納)	1777(安永6)	270.0×360.0(原物)		1 面	原物: 滅失文化財 「蝦島絵馬鑑」所蔵	
111	岡 岷山		山水四景図	1789-1806(寛政元文化3)頃	28.9×531.0	紙本彩色	1 巻	個人蔵	
112	岡 岷山カ		縮景園図	1788-1800(天明8寛政12)頃	32.7×181.3	紙本彩色	1 巻	個人蔵	
113	里見 雲嶺	1849-1928	三保松原図		122.7×252.6	紙本彩色	6曲1隻		

関連事業

(1) リレートーク

日 時: 7月14日(金)15:00～

講 師: 角田 新(当館主任学芸員)、山下 寿水(当館主任学芸員)、
隅川 明宏(当館主任学芸員)、岡地 智子(当館主任学芸員)

会 場: 2階展示室

参加者: 6人

(2) 対話によるギャラリートーク

日 時: ①9月2日(土)10:00～／オンライン(Zoom) 中止

②9月9日(土)15:00～／対面(会場: 2階展示室)

ナビゲーター: 岡地 智子(当館主任学芸員)、森 万由子(当館学芸員)

参加者: ②6人

(3) インスタライブ配信

①西洋美術 ②日本洋画 ③工芸 ④日本画

日 時: ①7月11日(火) ②7月18日(火) ③7月25日(火) ④8月1日(火)

各日17:00～

講 師: ①山下 寿水(当館主任学芸員)②角田 新(当館主任学芸員)③岡地 智子(当館主任学芸員)
④隅川 明宏(当館主任学芸員)

参加者: ①46人 ②53人 ③47人 ④47人

(4) フリートークキングデー

日 時: 7月24日(月)9:00～17:00

会 場: 2階展示室

子供も大人も自由に感想を話しながら気兼ねなく展覧会を楽しんでいただけるよう、試行的に実施。併せて次のイベントも実施した。

①ベビーカーツアー(授乳室など館内案内の後、展示室を案内) 中止

時 間：9：30～10：30

講 師：福田 浩子(当館学芸課長)

②対話型鑑賞(HACH(Hiroshima Arts&City Hive)と共同で実施)

時 間：10：30～11：30

ファシリテーター：片島 蘭(広島市立大学非常勤特任教員)

協 力：森 万由子(当館学芸員)

参加者：11人

③対話によるギャラリートーク

時 間：13：00～14：00

ナビゲーター：山下 寿水(当館主任学芸員)、岡地 智子(当館主任学芸員)

参加者：8人

(5) 子ども向けワークシートの配布

関連報道・記事

(1) 新聞

7/19 中国新聞「天風録」

7/25 毎日新聞「現代アートつなぐ未来」

8/17 中国新聞「縮景園×現代アート 大名庭園に新風」

(2) 雑誌等

『Wendy』8月号



第3期

植物がアートになるとき

令和5年9月15日(金)～12月24日(日)

前期：9月15日(金)～11月5日(日)

後期：11月7日(火)～12月24日(日)

ウェルカムギャラリー

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
1	平櫛 田中	1872-1979	落葉	1913(大正2)	高74.5	木	1 軀		
2	小林 千古	1870-1911	ミルク・メイド	1897(明治30)	69.0×50.8	油彩・画布	1 面	第10回白馬会展	
3	南 薫造	1883-1950	坐せる女	1908(明治41)	112.1×83.3	油彩・画布	1 面	第4回文展	
4	巖 光	1907-1946	帽子をかむる自画像	1943(昭和18)	60.0×50.0	油彩・画布	1 面		
5	児玉 希望	1898-1971	黎明	1934(昭和9)	191.0×178.0	絹本彩色	1 面	第15回帝展	
6	奥田 元宋	1912-2003	寂	1984(昭和59)	175.5×211.0	紙本彩色	1 面	第15回改組日展	
7	平山 郁夫	1930-2009	黄河(晨)	1986(昭和61)	171.2×364.6	紙本彩色	1 面	第71回院展	
8	圓鐔 勝三	1905-2003	月夜の僧	1985(昭和60)	高88.0×97.0×90.0	木・銅板・彩色	1 軀	第17回改組日展	
9	六角 紫水	1867-1950	刀筆文線の行通ひ香盆(双鳥之図丸盆)	1927(昭和2)	高1.9 径25.5	漆・漆絵・彫刻	1 枚		
10	清水 南山	1875-1948	獅子図目貫	1935(昭和10)	2.5×4.5	銀・金・彫金	1 対		
11	今井 政之	1930-2023	象嵌彩窯変ばいも大皿	2005(平成17)	高11.5 口径72.7	陶器	1 枚		前期
12	今井 政之		象嵌彩灰被チャンカイ讃歌花壺	1989(平成元)	高29.0 口径17.3	陶器	1 口		後期

第1室 近代西洋美術における植物のものがたり

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
13	サルバドール・ダリ	1904-1989	ヴィーナスの夢	1939	243.8×487.6	油彩・画布・パネル	1 面	ニューヨーク万国博覧会	
14	ジャン(ハンス)・アルプ	1886-1966	目覚め	1938/1983鑄造	高47.5×24.0×23.0	ブロンズ	1 点		
15	ルネ・マグリット	1898-1967	人間嫌いのたち	1942	54.0×73.0	油彩・画布	1 面		
16	アレクサンダー・カーノルト	1881-1939	静物	1925	80.0×101.0	油彩・画布	1 面		
17	マン・レイ	1890-1976	桃と葉	1931	25.5×30.5	ゼラチン・シルバー・プリント	1 面		前期
18	マン・レイ		M. デュシャンの作品「美しい吐息」	1921	37.8×27.0	ゼラチン・シルバー・プリント	1 面		後期
19	マックス・エルンスト	1891-1976	博物誌	1926	43.0×26.0	コロタイプ・紙	34面のうち各期5面		前期 後期
20	アリスティード・マイヨール	1861-1944	ウェルギリウスの農耕歌	1937-1944 1950出版	33.7×25.3	木版・紙	144面のうち各期13面		前期 後期

第2室 日本洋画と彫刻に見る植物

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
21	小林 千古	1870-1911	茶器と梅花	1903(明治36)	18.5×65.5	油彩・画布	1 面	第10回白馬会展	
22	南 薫造	1883-1950	小童	1909(明治42)	60.5×49.8	油彩・画布	1 面		
23	南 薫造		石割り	1911(明治44)	60.5×45.5	油彩・画布	1 面	第6回文展	
24	小林徳三郎	1884-1949	瓢箪	1931(昭和6)	45.2×52.2	油彩・画布	1 面		
25	小林徳三郎		西瓜	1932(昭和7)	45.5×53.0	油彩・画布	1 面	第27回春陽会展	
26	石谷辰治郎	1885-1942	静物	1920(大正9)	66.5×45.5	油彩・画布	1 面		
27	東郷 青児	1897-1978	AZAMI	1960(昭和35)頃	120.0×298.0	油彩・画布	1 面		
28	永田 一脩	1903-1988	静物	1925(大正14)	45.5×53.0	油彩・画布・コラージュ	1 面		
29	山路 商	1903-1944	柿	1943(昭和18)	22.0×31.0	油彩・画布	1 面		
30	新海 覚雄	1904-1968	抽象	1924(大正13)	37.0×65.0	油彩・画布	1 面	第21回太平洋画会展	
31	矢橋 六郎	1905-1988	菜の花に囲まれた池	1962(昭和37)	97.0×130.0	油彩・画布	1 面	第5回現代日本美術展	
32	圓鐔 勝三	1905-2003	こかげ	1974(昭和49)	高123.5×77.0×48.0	ブロンズ	1 点	第6回改組日展	
33	檜山 武夫	1906-1932	花		33.2×24.0	油彩・ボード	1 面		
34	巖 光	1907-1946	静物	1942(昭和17)	45.1×37.6	油彩・画布	1 面		
35	巖 光		花園の虫	1942(昭和17)頃	26.7×34.8	油彩・板	1 面		
36	巖 光		風景	1944(昭和19)	41.0×52.5	油彩・画布	1 面		
37	土屋 幸夫	1911-1996	落椿	1936(昭和11)	31.9×40.8	油彩・画布	1 面		
38	寺田 政明	1912-1989	月光によりて	1943(昭和18)	31.8×40.9	油彩・板	1 面	新人画会展	
39	寺田 政明		けいとう花	1954(昭和29)	80.4×52.8	油彩・画布	1 面	第18回自由美術展	
40	岡部 繁夫	1912-1969	卓上静物	1937(昭和12)	73.0×91.0	油彩・画布	1 面	第23回広島県美術展	
41	桂 ゆき	1913-1991	春	1948(昭和23)	90.9×72.7	油彩・画布	1 面		

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
42	菅井 汲	1919-1996	BEAU JARDIN(美しい庭)	1965(昭和40)	56.5×38.0	エッチング・紙	1面		
43	宮崎 進	1922-2018	冬の樹・樹間	1989(昭和64/平成元)	67.2×48.6	鉛筆・グワッシュ・紙	1面		前期
44	宮崎 進		冬の樹 デッサン(1)	1989(昭和64/平成元)	20.5×17.0	鉛筆・アクリル・紙	1面		後期
45	宮崎 進		冬の樹 デッサン(2)	1989(昭和64/平成元)	51.0×71.5	鉛筆・グワッシュ・紙	1面		前期
46	宮崎 進		冬の樹スケッチ	1989(昭和64/平成元)	41.0×64.6	鉛筆・紙	1面		後期
47	宮崎 進		冬の樹	1989(昭和64/平成元)	162.1×259.1	油彩・画布	1面		
48	金光 松美	1922-1992	AUGUST	1960(昭和35)	182.8×182.8	油彩・画布	1面		
49	吉原 英雄	1931-2007	MORNING GLORY(朝顔)	1976(昭和51)	75.0×56.0	リトグラフ・メゾチント・エッチング・紙	1面	ジャパン・アート・フェスティバル(76)	前期
50	吉原 英雄		TWO FLOWERS(二つの花)	1976(昭和51)	75.0×56.0	リトグラフ・メゾチント・紙	1面	個展(77東京南天子画廊 大阪南天子画廊)	後期
51	吉原 英雄		二十歳の肖像	1979(昭和54)	44.0×34.5	リトグラフ・エッチング・アクアチント・紙	1面	南天子画廊の二十周年記念展	後期
52	殿敷 侃	1942-1992	ゆきのした	1979(昭和54)	27.3×19.3	エッチング・アクアチント・紙	1面		前期

第3室 花鳥画の移り変わり

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
53			花鳥図	桃山〜江戸時代	151.0×348.0	紙本彩色	6曲1隻		前期
54	望月 玉蟾	1692-1755	松下猛虎図		117.0×55.2	絹本墨画	1幅		後期
55	福原 五岳	1730-1799	草花図		各132.0×53.0	紙本墨画	6曲1双		
56	小倉 武駿	1770年代-1839	花籠図		96.0×43.0	絹本彩色	1幅		前期
57	沢 三石	1772-1853	墨梅図(自賛)	1842(天保13)	130.0×56.2	絹本墨画	1幅		前期
58	望月 玉川	1794-1852	芦雁図		140.8×73.7	紙本墨画淡彩	1幅		後期
59	山野 義嗣	?-1882?	勿来関図		119.8×48.8	絹本彩色	1幅		後期
60	名草 逸峰	1821-1889	玉堂富貴図(自賛)	1885(明治18)	137.5×52.3	紙本墨画	1幅		後期
61	岸 竹堂	1826-1897	月下狸図	1860(万延元)	142.9×69.5	絹本墨画淡彩	1幅		前期
62	梶田 半古	1870-1917	月下鶉図		135.0×60.6	絹本彩色	1幅		前期
63	橋本 静水	1876-1943	紅梅		150.1×55.0	絹本彩色	1幅		前期
64	橋本 閑雪	1883-1945	緋桃白鷺図	1925(大正14)	60.9×86.0	絹本彩色	1幅	閑雪自撰三十題展	前期
65	村上 華岳	1888-1939	秋草図	1928(昭和3)	37.6×42.5	絹本墨画淡彩	1幅		前期
66	大村 廣陽	1891-1983	南苑	1928(昭和3)	212.0×158.0	絹本彩色	1面	第9回帝展	
67	大村 廣陽		八重椿	1930(昭和5)	248.0×174.0	絹本彩色	1面	第11回帝展	
68	楠 瓊州	1892-1956	あやめ之図	1951(昭和26)	134.9×43.3	紙本彩色	1幅		
69	福田平八郎	1892-1974	雪の日	1932(昭和7)	144.0×50.4	紙本彩色	1幅	第1回六潮会展	後期
70	金島 桂華	1892-1974	冬瓜	1955(昭和30)	79.0×145.0	紙本彩色	1面	第11回日展	
71	速水 御舟	1894-1935	山茶花	1925(大正3)	124.5×50.5	紙本彩色	1幅	第3回赤曜会展	後期
72	猪原 大華	1897-1980	梅	1957(昭和32)	187.5×128.5	紙本彩色	1面	第13回日展(特選・白寿賞)	
73	猪原 大華		椿	1967(昭和42)	115.0×72.0	紙本彩色	1面	高島屋個展	
74	猪原 大華		白梅	1968(昭和43)	203.2×134.7	紙本彩色	1面	第11回新日展	
75	児玉 希望	1898-1971	晩春	1925(大正14)	122.5×433.0	絹本彩色	8曲1隻	第6回帝展	後期
76	児玉 希望		冬瓜	1958(昭和33)	38.0×42.1	絹本墨画	1幅		後期
77	塩出 英雄	1912-2001	双鳩	1936(昭和11)	168.5×186.5	紙本彩色	2曲1隻		
78	神田三千枝	1924-1992	タリンの丘	1972(昭和47)	223.0×171.0	画布彩色	1面	第57回院展	
79	神田三千枝		盛夏	1976(昭和61)	192.0×147.0	画布彩色	1面	第71回院展	

第4室 ボタニカルな中央アジア #乙嫁たちの手仕事3

No.	作者・民族名・地域	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
80	ブスケント(現ウズベキスタン)		刺繍布(スザニ)	19世紀末	245.0×210.0	木綿・絹糸・刺繍	1枚		
81	タシケント(現ウズベキスタン)		刺繍布(スザニ)	19世紀後半	216.0×174.0	木綿・絹糸・刺繍	1枚		
82	ウラ・チュベ		刺繍布(スザニ)	19世紀中期	210.0×212.0	木綿・絹糸・刺繍	1枚		
83	フェルガナ盆地		刺繍布(スザニ)	19世紀末	206.0×156.0	(表)絹・絹糸・刺繍(裏)木綿・プリント	1枚		
84	シャフリャブス(現ウズベキスタン)		刺繍布(スザニ)	1850頃	244.0×154.0	木綿・絹糸・刺繍	1枚		
85	ブハラ(現ウズベキスタン)		刺繍布(ジャイナマズ)	19世紀末	242.0×162.0	木綿・絹糸・刺繍	1枚		
86	ブハラ(現ウズベキスタン)		刺繍布(スザニ)	19世紀後半	245.0×160.0	木綿・絹糸・刺繍	1枚		
87	ブハラ(現ウズベキスタン)		刺繍布(スザニ)	19世紀前半	244.0×190.0	木綿・絹糸・刺繍	1枚		
88	ブハラ(現ウズベキスタン)		刺繍布(スザニ)	1910頃	170.0×134.0	絹・ヴェルヴェット・金糸・刺繍	1枚		
89	ウズベク人		男性用外衣(チャパン)	19世紀中期	118.0×156.7	経:絹・緯:綿・経緋	1領		
90	ウズベク人		男性用外衣(チャパン)	19世紀後半	132.0×208.3	経:絹・緯:綿・経緋	1領		
91	ウズベク人		男性用外衣(チャパン)	19世紀末	129.6×207.7	経:絹・緯:綿・経緋・裏にプリント木綿・見返し経緋	1領		

No.	作者・民族名・地域	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
92	テケ族 トルクメン人		女性用被衣(チルビ)	19世紀	総丈126.0	絹・絹刺繍・裏に木綿	1 領		前期
93	テケ族 トルクメン人		女性用被衣(チルビ)	19世紀	総丈125.0	絹・絹刺繍・裏に木版木綿	1 領		後期
94	テケ族 トルクメン人		女性用被衣(チルビ)	19世紀	総丈124.0	絹・絹刺繍・裏に木版木綿	1 領		前期
95	テケ族 トルクメン人		女性用被衣(チルビ)	20世紀	総丈122.0	絹・刺繍	1 領	マネキン着装	
96	テケ族 トルクメン人		女性用被衣(チルビ)	20世紀	総丈124.0	絹・刺繍	1 領		後期
97	ヨムート族 トルクメン人		女性用外衣	1900頃	丈116.2	絹・刺繍	1 領		
98	ヨムート族 トルクメン人		女性用上衣(コイネク)	1930以前	丈120.5	絹・見返しプリント木綿	1 領	マネキン着装	
99	ヨムート族 トルクメン人		男性用上衣	19世紀	丈65.4	絹・絹刺繍・見返しプリント木綿	1 領		
100	ヨムート族 トルクメン人		女性用脚衣	19世紀	丈81.4	絹・絹刺繍・木綿	1 枚	マネキン着装	
101	トルクメン人		女性用刺繍靴	20世紀	25.8	革・刺繍	1 足		
102	ウズベク人		刺繍袋	20世紀初頭	19.3×14.8	刺繍	1 枚		
103	ウズベク人		刺繍袋	20世紀初頭	19.9×16.0	刺繍	1 枚		
104	ウズベク人		刺繍袋	20世紀初頭	19.8×15.6	銀糸刺繍・絹刺繍・裏にプリント木綿	1 枚		
105	ウズベク人		刺繍袋	20世紀初頭	18.9×15.4	刺繍	1 枚		
106	ウズベク人、タシケルガン		刺繍袋	20世紀初頭	18.2×16.0	刺繍	1 枚		
107	ウズベク人、ラカイ		刺繍袋	20世紀初頭	19.8×15.0	刺繍	1 枚		
108	ウズベク人、ラカイ		刺繍袋	19世紀中期	21.0×18.0	刺繍	1 枚		
109	ウズベク人、ラカイ		刺繍袋	20世紀初頭	12.6×5.6、11.5×13.5	刺繍	1 枚		
110	ウズベク人、ラカイ		刺繍袋	20世紀初頭	21.0×14.5	刺繍	1 枚		
111	ウズベク人、ラカイ		刺繍袋	20世紀前期	21.6×17.3	刺繍	1 枚		
112	トルクメン人		刺繍袋	19世紀中期	19.1×13.9	刺繍	1 枚		
113	ヨムート族 トルクメン人		刺繍袋	19世紀中期	19.2×14.1	刺繍	1 枚		
114	ヨムート族 トルクメン人		刺繍袋	20世紀前期	13.6×10.4	刺繍	1 枚		
115	ヨムート族 トルクメン人		刺繍袋	20世紀初頭	34.8×22.9	刺繍	1 枚		
116	ヨムート族 トルクメン人		刺繍袋	19世紀	36.0×10.5	刺繍	1 枚		
117	テケ族 トルクメン人		刺繍袋	19世紀	19.6×11.3	刺繍	1 枚		
118	テケ族 トルクメン人		刺繍袋	19世紀中期	16.7×13.4	刺繍	1 枚		
119	テケ族 トルクメン人		刺繍袋	20世紀初頭	16.3×13.2	絹刺繍・裏にプリント木綿	1 枚		
120	テケ族またはエルサリ族 トルクメン人		刺繍袋	19世紀初頭	19.3×16.3	刺繍	1 枚		
121	エルサリ族 トルクメン人		刺繍袋	19世紀中期	12.8×8.7	木綿布・絹刺繍・裏に綿木綿	1 枚		
122	エルサリ族 トルクメン人		刺繍袋	19世紀中期	20.4×13.5	木綿布・絹刺繍・金糸刺繍・裏にプリント木綿	1 枚		
123	エルサリ族 トルクメン人		刺繍袋	20世紀初頭	95.0×42.8	毛織物・絹刺繍・裏に綿木綿	1 枚		
124	エルサリ族 トルクメン人		刺繍袋	20世紀初頭	37.0×11.0	刺繍	1 枚		
125	キルギス人		刺繍袋	20世紀中期	70.0×73.0	刺繍	1 枚		
126	ハザーラ人		刺繍袋	19世紀中期	14.0×9.1	刺繍	1 枚		
127	ハザーラ人		刺繍袋	19世紀中期	17.6×13.5	刺繍	1 枚		
128	ハザーラ人		刺繍袋	19世紀前期	23.3×23.9	刺繍	1 枚		
129	バシュトウーン人		刺繍袋	19世紀中期	18.5×12.0	刺繍	1 枚		
130	バシュトウーン人		刺繍袋	20世紀中期	17.3×12.2	刺繍	1 枚		
131	バシュトウーン人		刺繍袋	19世紀中期	16.5×10.5	刺繍	1 枚		
132	北ヨムート族 トルクメン人		花嫁用頭飾り	19世紀前半	高17.0(下げ飾り除く)	銀・鍍金・カーネリアン	1 点		
133	テケ族 トルクメン人		花嫁用頭飾り(エグメ)	19世紀中期	幅23.0	銀・鍍金・カーネリアン・絹布・木版木綿	1 点		
134	北ヨムート族 トルクメン人		頭飾り(シンシレ)	19世紀前半	幅32.0	銀・カーネリアン	1 連		
135	テケ族 トルクメン人		頭飾り(オウルメ)	19世紀前半	幅38.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 点		
136	ヨムート族 トルクメン人		頭飾り(イルディルジチュ)	19世紀中期	幅34.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 連		
137	テケ族 トルクメン人		頭飾り(マンライリク)	19世紀後期	幅50.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 連	マネキン着装	
138	西ヨムート族 トルクメン人		頭飾り(サンジャリク)	19世紀前半	幅42.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 点		
139	西ヨムート族 トルクメン人		頭飾り(サンジャリク)	19世紀中期	幅40.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 点		
140	ヨムート族 トルクメン人		未婚女性用帽子(グッパ)	19-20世紀	高15.5 径18.0	銀・鍍金・カーネリアン・絹布	1 点		
141	テケ族 トルクメン人		こめかみ飾り(テネチル)	19世紀前半	長23.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 対	マネキン着装	
142	テケ族 トルクメン人		こめかみ飾り(テネチル)	19世紀中期	長26.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 対		
143	テケ族 トルクメン人		こめかみ飾り(テネチル)	19世紀中期	長26.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 対		
144	テケ族 トルクメン人		こめかみ飾り(テネチル)	19世紀後半	長24.0,25.0	銀・鍍金・カーネリアン・ガラス・組紐	1 組		
145	エルサリ族 トルクメン人		こめかみ飾り(テネチル)	19世紀初期	長18.0	銀・カーネリアン・トルコ石	1 対		
146	ジャファアバイ・ムート族 トルクメン人		こめかみ飾り(アダムリク)	19世紀前半	長55.5,56.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 対		
147	チョレスム族 トルクメン人		耳飾り	19世紀後半	長12.0,12.5	銀・鍍金	1 対		

No.	作者・民族名・地域	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
148	テケ族 トルクメン人		護符入れ(トゥマル)	19世紀中期	幅29.0	銀・鍍金・カーネリアン	1点		
149	テケ族 トルクメン人		護符入れ(トゥマル)	1916/17(ヒジュラ暦1335)	幅39.5	銀・鍍金・カーネリアン	1点		
150	ヨムート族 トルクメン人		護符入れ(トゥマル)	17-18世紀	幅19.0	銀・鍍金・カーネリアン	1点		
151	ヨムート族 トルクメン人		護符入れ(トゥマル)	19世紀初期	幅18.0	銀・鍍金・カーネリアン	1点		
152	西ヨムート族 トルクメン人		護符入れ(トゥマル)	18世紀	幅18.0	銀・鍍金・カーネリアン・トルコ石・革	1点		
153	エルザリ族 トルクメン人		護符入れ(トゥマル)	18-19世紀	幅22.0	銀・カーネリアン	1点		
154	サルイク族 トルクメン人		護符入れ(トゥマル)	19世紀前半	幅17.5	銀・鍍金・カーネリアン・ガラス	1点		
155	テケ族 トルクメン人		護符入れ(ヘイケル)	18世紀	幅11.0	革・銀・鍍金・カーネリアン	1点		
156	テケ族 北ヨムート族 トルクメン人		首胸飾り(ブカウ)	18世紀	幅15.0	銀・鍍金・カーネリアン	1組		
157	西ヨムート族 トルクメン人		首胸飾り(ブカウ)	19世紀中期	幅16.0	銀・鍍金・カーネリアン	1組		
158	北ヨムート族 トルクメン人		首胸飾り(ブカウ)	19世紀中期	幅15.0	銀・カーネリアン	1組		
159	テケ族 トルクメン人		首胸飾り(ブカウ)	19世紀中期	幅22.5	銀・鍍金・ガラス	1組		
160	テケ族 トルクメン人		首胸飾り(ブカウ)	19世紀後半	幅24.0	銀・鍍金・ガラス	1組	マネキン着装	
161	ヨムート族 トルクメン人		首胸飾り(ブカウ)	19世紀前半	幅11.5	銀・鍍金・カーネリアン・ガラス	1点		
162	西ヨムート族 トルクメン人		首胸飾り(ブカウ)	19世紀中期	幅14.5	銀・カーネリアン	1組		
163	ジャファアバイ・ヨムート族 トルクメン人		首胸飾り(ブカウ)	19世紀後半	幅14.0	銀・鍍金・カーネリアン・ガラス	1組		
164	西ヨムート族 トルクメン人		護符入れ(クムシュドガ)	19世紀中期	幅8.0	銀・鍍金・カーネリアン・ガラス	1点		
165	テケ族 トルクメン人		胸飾り(ゴンジュク)	18世紀	幅21.0	銀・鍍金・カーネリアン	1点		
166	テケ族 トルクメン人		胸飾り(ゴンジュク)	19世紀前半	幅22.5	銀・鍍金・カーネリアン	1枚	マネキン着装	
167	テケ族 トルクメン人		胸飾り(ゴンジュク)	19-20世紀	幅19.0	銀・鍍金・トルコ石	1点		
168	テケ族 トルクメン人		胸飾り(ゴンジュク)	19世紀初期	高41.0 幅28.0	銀・鍍金・カーネリアン	1枚		
169	エルザリ族 トルクメン人		胸飾り(ゴンジュク)	18-19世紀	高28.5 幅19.0	銀・カーネリアン	1枚		
170	テケ族 トルクメン人		背飾り(アシク)	1894/5(ヒジュラ暦1312)	高27.5	銀・鍍金・カーネリアン	1枚		
171	ヨムート族 トルクメン人 イラン		背飾り(アシク)	1909/10(ヒジュラ暦1327)	高23.5	銀・鍍金・カーネリアン	1枚		
172	ヨムート族 トルクメン人 イラン		背飾り(アシク)	19-20世紀	高24.5	銀・鍍金・カーネリアン	1枚		
173	エルザリ族 トルクメン人		背飾り(アシク)	19世紀初期	高27.0	銀・カーネリアン	1枚		
174	テケ族 トルクメン人		背飾り(ゴシヤ・アシク)	20世紀初期	高22.0	銀・鍍金・カーネリアン	1面		
175	テケ族 トルクメン人		腕飾り(ビレジク)	18世紀	高8.7	銀・鍍金・カーネリアン	1対		
176	テケ族 トルクメン人		腕飾り(ビレジク)	1907/08(ヒジュラ暦1325)	高18.5	銀・鍍金・カーネリアン	1対		
177	ジャファアバイ・ヨムート族 トルクメン人		腕飾り(ビレジク)	19世紀中期	高7.0	銀・鍍金・カーネリアン	1対		
178	エルザリ族 トルクメン人		腕飾り(ビレジク)	19-20世紀	高1.7	銀	1対		
179	オラム族 トルクメン人		腕飾り(ビレジク)	19世紀後半	高12.3	銀	1対		
180	トルクメン人		指輪(ユズユク)・手飾り	19-20世紀		銀・鍍金・カーネリアン・ガラス	36件	手飾りはマネキン 着装	
181	森 薫	1978-	中央アジアの衣服と布(原画)	2018(平成30)	(各)33.2×24.2	紙・インク・水彩	2枚	広島県立美術館所蔵 作品ミニガイド⑤所収	

柿右衛門様式の名品

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
182			重要文化財 伊万里色絵花卉文輪花鉢 (柿右衛門様式)	江戸時代 17世紀後半	口径24.4 高11.5	磁器・色絵	1口		
183			伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代 17世紀後半	高44.3	磁器・色絵	1軀		
184			伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代 17世紀後半	高45.0	磁器・色絵	1軀		

関連事業

(1) リレートーク

日 時：9月22日(金)15:00～

講 師：福田 浩子(当館学芸課長)、藤崎 綾(当館主任学芸員)、山下 寿水(当館主任学芸員)、
隅川 明宏(当館主任学芸員)

会 場：2階展示室

参加者：12人

(2) 対話によるギャラリートーク

日 時：①10月28日(土) ②11月23日(木・祝) 各日 15:00～

ナビゲーター：岡地 智子(当館主任学芸員)、森 万由子(当館学芸員)

会 場：2階展示室

参加者：①9人 ②2人

(3) インスタライブ配信

①西洋美術 ②日本洋画 ③日本画 ④工芸

日 時：①9月19日(火) ②9月26日(火) ③10月3日(火) ④10月10日(火) 各日17:00～

講 師：①山下 寿水(当館主任学芸員)②角田 新(当館主任学芸員)、藤崎 綾(当館主任学芸員)

③隅川 明宏(当館主任学芸員)④福田 浩子(当館学芸課長)

参加者：①26人 ②50人 ③50人 ④74人

(4) ワークショップ「スザニ刺繍のつけ襟を作ろう」(3回コース)

日 時：①10月7日(土) ②10月14日(土) ③11月11日(土) 各日13:30～16:30

会 場：①2階展示室、3階大会議室 ②3階大会議室、オンライン(zoom)③3階大会議室

講 師：福田 浩子(当館学芸課長)、岡地 智子(当館主任学芸員)

参加者：①9人 ②9人 ③8人

(5) フリートークキングデー

日 時：12月9日(土)9:00～17:00

会 場：2階展示室

①ベビーカートゥーン(授乳室など館内案内の後、展示室を案内)

時 間：10:30～11:10

講 師：福田 浩子(当館学芸課長)

参加者：6人

②対話型鑑賞(HACH(Hiroshima Arts&City Hive)と共同で実施)

時 間：13:00～14:00

ファシリテーター：片島 蘭(広島市立大学非常勤特任教員)

協 力：森 万由子(当館学芸員)

参加者：10人

③対話によるギャラリートーク

時 間：15:00～16:00

ナビゲーター：山下 寿水(当館主任学芸員)、森 万由子(当館学芸員)

④作品の缶バッジをもって、作品を探しに行こう！(缶バッジ配布、先着100名)

参加者：8人

関連報道・記事

(1) 雑誌等

『Wink』1月号

(2) WEB

『ママンペール』12月中旬～



第4期 コレクション・フォーカス

美術館のプロフィール－収集の軌跡／新収蔵作品展

令和6年1月2日(火)～4月21日(日)

前期：1月2日(火)～2月25日(日)

後期：2月27日(火)～4月21日(日)

ウェルカムギャラリー

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
1	平櫛 田中	1872-1979	落葉	1913(大正2)	高74.5	木	1 軀		
2	小林 千古	1870-1911	ミルク・メイド	1897(明治30)	69.0×50.8	油彩・画布	1 面	第10回白馬会展	
3	南 薫造	1883-1950	坐せる女	1908(明治41)	112.1×83.3	油彩・画布	1 面	第4回文展	
4	巖 光	1907-1946	帽子をかむる自画像	1943(昭和18)	60.0×50.0	油彩・画布	1 面		
5	児玉 希望	1898-1971	浅春	1930(昭和5)	266.0×176.0	絹本彩色	1 面		
6	奥田 元宋	1912-2003	嶽	1959(昭和34)	110.0×210.0	紙本彩色	1 面		
7	平山 郁夫	1930-2009	波斯黄堂旧址	1974(昭和49)	166.7×367.4	紙本彩色	1 面		
8	圓鐔 勝三	1905-2003	月夜の僧	1985(昭和60)	高88.0×97.0×90.0	木・銅板・彩色	1 軀	第17回改組日展	
9	六角 紫水	1867-1950	線のすさび松島図香盆	1927(昭和2)	高1.9 径25.2	漆・漆絵・彫刻	1 枚		
10	清水 南山	1875-1948	童子と犬(模写)	1897(明治30)頃	13.5×8.5	赤銅・銅・銀・龍銀	1 点		
11	今井 政之	1930-2023	象嵌彩窯変 海老 花瓶	2023(令和5)	高23.5 径14.0	陶器	1 口	新収蔵作品	

第1室 開館初期のコレクション

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
12	矢崎千代二	1872-1947	パリ郊外	1925(大正14)頃	33.0×24.0	パステル・紙	1 面		
13	金島 桂華	1892-1974	冬瓜	1955(昭和30)	79.0×145.0	紙本彩色	1 面	第11回日展	
14	坂江 重雄	1908-1979	滞船	1968(昭和43)	184.0×184.0	水彩・紙	1 面	第32回 新制作品展	
15	岡部 繁夫	1912-1969	作品MWB	1967(昭和42)	181.8×259.1	油彩・画布	1 面	個展('67文芸春秋画廊)	
16	矢形 勇	1918-2019	坐せる裸婦	1967(昭和42)	高75.0×50.0×70.0	石膏	1 体	第21回二紀展	
17	金光 松美	1922-1992	Falling Insect(落虫)	1969(昭和44)	35.0×28.0	彩色・紙	1 面		
18	ボール・ジェンキンス	1923-2012	現象・落幕・顔おおいの日	1968(昭和43)	89.0×183.0	油彩・画布	1 面		
19	今井 政之	1930-2023	「條」苔泥彩壺	1968(昭和43)	高36.0	陶器	1 口		
20	片岡 脩	1932-1997	LOVE PEACE	1985(昭和60)	103.0×72.8	シルクスクリーン・紙	1 面		

児玉希望と小林和作

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
21	横山 大観	1868-1958	井筒	1897(明治30)	135.6×83.5	絹本彩色	1 幅		前期
22	丸木 スマ	1875-1956	蝶	1953(昭和28)	107.0×77.5	紙本彩色	1 幅	女流画家協会展	前期
23	清水 比庵	1883-1975	老松	1962(昭和37)	146.0×78.0	紙本彩色	1 幅		後期
24	小林 和作	1888-1974	隠岐白鳥	1968(昭和43)	80.0×100.0	油彩・画布	1 面		
25	須田国太郎	1891-1961	るりみつどり	1956(昭和31)	65.0×91.0	油彩・画布	1 面	第24回独立展	
26	中川 一政	1893-1991	福浦風景	1961(昭和36)	60.5×90.9	油彩・画布	1 面		
27	甲斐庄楠音	1894-1978	横櫛	1918(大正7)	165.0×72.0	絹本彩色	1 面	第1回国画創作協会展	後期
28	児玉 希望	1898-1971	猿猴捉月	1933(昭和8)	255.0×105.0	絹本彩色	1 面	第14回帝展	
29	児玉 希望		景清	1942(昭和17)	各209.5×77.0	絹本彩色	2 面	第5回新文展	
30	児玉 希望		春のバンガロー	1954(昭和29)	65.0×87.0	絹本彩色	1 面	第5回日月社展	
31	児玉 希望		烟雨	1954(昭和29)	132.0×173.0	絹本彩色	1 面	第10回日展	
32	児玉 希望		踊	1962(昭和37)	176.5×109.5	絹本彩色	1 面	第5回新日展	

第2室 リニューアル・オープンに向けて補強されたコレクション
1920から30年代の美術

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
33	ライオネル・ファイニンガー	1871-1956	海辺の夕暮	1927(昭和2)	45.0×77.0	油彩・画布	1 面		
34	フランシス・ピカビア	1879-1953	アンビトリテ	1935(昭和10)頃	92.0×73.5	油彩・画布	1 面		
35	アレクサンダー・カーノルト	1881-1939	静物	1925(大正14)	80.0×101.0	油彩・画布	1 面		
36	土田 麦僊	1887-1936	早春図	1913(大正2)頃	114.5×36.5	絹本彩色	1 幅		後期
37	速水 御舟	1894-1935	隠岐の海	1914(大正3)	113.0×42.2	絹本彩色	1 幅	第1回赤曜会展	前期
38	ベン・ニコルソン	1894-1982	1933(絵画)	1933(昭和8)	73.3×90.8	油彩・ジェッソ・板	1 面		

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量 (cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
39	ルネ・マグリット	1898-1967	人間嫌いだち	1942(昭和17)	54.0×73.0	油彩・画布	1 面		前期
40	ベン・シャーン	1898-1969	強制収容所	1944(昭和19)	61.0×61.0	テンペラ・板	1 面		
41	サルバドール・ダリ	1904-1989	ヴィーナスの夢	1939(昭和14)	243.8×487.6	油彩・画布・パネル	1 面		
42	イサム・ノグチ	1904-1988	追想	1944(1983-84鑄造)	高125.7×62.2×22.8	ブロンズ	1 点		

広島ゆかりの作家

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量 (cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
43	圓錐 勝三	1905-2003	ムーランルージュの夜	1975(昭和50)	高91.0×33.0×52.0	木・金属・樹脂・彩色			
44	幾 光	1907-1946	海	1943(昭和18)	72.3×90.7	油彩・画布	1 面	第1回新人画会展	
45			厳島図	17～18世紀	151.0×334.0	紙本金地彩色	6曲1隻		前期
46			厳島・鞍馬図	17世紀	各153.5×340.0	紙本彩色	6曲1隻半隻のみ展示)		後期
47	奥田 元宋	1912-2003	青山白雲	1987(昭和62)	180.3×124.4	紙本彩色	1 面	幽玄讃歌 奥田元宋展	
48	平山 郁夫	1930-2009	受胎霊夢	1962(昭和37)	179.5×178.8	紙本彩色	1 面	第47回院展	
49	平櫛 田中	1872-1979	五柳先生	1960(昭和35)	高51.8	木・彩色	1 軀		

日本とアジアの工芸

No.	作者・民族名・地域	生没年	作品名	制作年	法量 (cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
50			伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代 17世紀後半	高44.3	磁器・色絵	1 軀		
51			伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代 17世紀後半	高45.0	磁器・色絵	1 軀		
52	テケ族 トルクメン人		胸飾り(ゴンジュク)	18-19世紀	高25.5 幅27.5	銀・鍍金・カーネリアン	1 枚		
53	テケ族 トルクメン人		男児用背飾り(オク・ヤイ)	19世紀前半	幅14.5	銀・鍍金	1 点		
54	西ヨムート族 トルクメン人		護符入れ(トゥマル)	19世紀中期	幅12.5	銀・鍍金・カーネリアン	1 点		
55	ヨムート族 トルクメン人 イラン		頭飾り(イルディルジチュ)	19世紀後半	幅28.0	銀・カーネリアン	1 連		
56	ウズベク人		刺繍袋	19世紀中期	17.7×15.0	刺繍	1 枚		
57	ウズベク人、ラカイ		刺繍袋	19世紀中期	11.9×11.5	絹刺繍・銀・ガラスビーズ・裏に絹木綿	1 枚		
58	ウズベク人またはタジク人		刺繍袋	20世紀初頭	31.0×16.0	刺繍	1 枚		
59	ヨムート族 トルクメン人		刺繍袋	20世紀初頭	15.5×10.2	絹刺繍	1 枚		
60	ハザーラ人		刺繍袋	20世紀中期	13.2×9.0	刺繍	1 枚		
61	河井寛次郎	1890-1966	辰砂文字陶板		32.6×23.1	陶器	1 面		
62	加守田章二	1933-1983	曲線彫文扁壺	1970(昭和45)	高27.1 12.0×23.0	陶器	1 口		

第3室 その後もゆつくりと成長を続けているコレクション

日本洋画

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量 (cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
63	南 薫造	1883-1950	水郷	1925(大正14)	72.0×60.1	油彩・画布	1 面		
64	小林徳三郎	1884-1949	部屋居の女	1945(昭和20)	53.0×45.5	油彩・画布	1 面		
65	藤田 嗣治	1886-1968	婦人像(リオ)	1932(昭和7)	81.2×65.0	油彩・画布	1 面		
66	田中 万吉	1895-1945	サントロッペの漁港	1924-1927(大正13-昭和2)頃	65.0×81.0	油彩・画布	1 面		
67	名井 万亀	1896-1976	宮古市浄土が濱	1973(昭和48)	112.0×162.8	油彩・画布	1 面		
68	朝井 清	1901-1968	広島夕焼(サインあり)	1945(昭和20)	30.5×44.8	リノカット・紙	1 面		
69	鎌田 知治	1907-1980	現代の狂気(其の二)交通禍	1968(昭和43)頃	117.0×91.0	油彩・板	1 面		
70	平野 清	1915-1980	塔(原爆ドーム)	1950(昭和25)	85.5×57.7	油彩・画布	1 面	第2回広島県美術展・呉市長賞	
71	菅井 汲	1919-1996	DIABLE PARTANT POUR LA LUNE (月へ旅立つ鬼)	1963(昭和38)	162.0×130.2	アクリル・油彩・画布	1 面		
72	入野 忠芳	1939-2013	浮遊	1970(昭和45)	117.0×90.9	油彩・画布	1 面		

日本画

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量 (cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
73	横山 大観	1868-1958	霊峰不二		49.1×57.1	絹本彩色	1 幅		前期
74	児玉 希望	1898-1971	吾妻橋	1960(昭和35)	121.5×156.4	絹本彩色	1 面		
75	船田 玉樹	1912-1991	日輪	1940(昭和15)	各181.0×181.0	紙本彩色	2曲1双		
76	塩出 英雄	1912-2001	宝満山	1968(昭和43)	52.0×71.5	紙本彩色	1 面	第17回五都展	
77	平山 郁夫	1930-2009	厳島	1972(昭和47)頃	44.0×49.0	紙本彩色	1 面		
78	曾我 蕭白	1730-1781	伯顔図	1767(明和4)頃	133.2×57.0	紙本墨画	1 幅		後期

彫刻

No	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
79	芥川 永	1915-1998	カンタトリス(遠くの声3)	1984(昭和59)	高71.0×30.9×30.9	ブロンズ	1 体	第48回新制作協会展	

工芸

No	作者・民族名・地域	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
80			重要文化財 伊万里色絵花卉文輪花鉢 (柿石衛門様式)	江戸時代 17世紀後半	高11.5 口径24.4	磁器・色絵	1 口		
81	インド、グジャラート、パタン		象虎文経緯絹緋(パトラ)	18-19世紀初	363.5×101.0	絹・経緯緋	1 枚		
82	浜田 庄司	1894-1978	黒釉錆流描大鉢	昭和30年代後半	高13.8 径47.0	陶器	1 口		
83	船木 倭帆	1935-2013	垂描文鉢		高19.4 径25.3	吹きガラス	1 口		
84	宮永理吉(三代宮永東山)	1935-	天空の森	1997(平成9)	高64.0 47.5×18.5	磁器	1 点	京都現代陶芸6人展、高島屋美術画廊(東京、京都)	
85	宮永理吉(三代宮永東山)		天空の森型紙	1997(平成9)		紙	1 式		
86	鯉江 良二	1938-2020	マスク「土から顔もしくは顔から土」	1969(昭和44)	16.0×11.0×5.0	陶器	1 点		

第4室 新たにコレクションに加わった作品たち

No	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
87	狩野派		松図	17-18世紀	149.8×343.4	紙本金地彩色	6曲1隻	新収蔵作品(寄託)	前期
88	熊谷 直彦	1828-1913	秋景山水図	1909(明治42)	170.0×86.3	絹本墨画淡彩	1 幅	新収蔵作品	前期
89	熊谷 直彦		巖鳥社頭図	1911(明治44)	各131.7×56.7	絹本彩色	2 幅	新収蔵作品	前期
90	熊谷 直彦ほか		呉秀三蒐集書画帖	1889頃-1919頃 (明治22-大正8)	18.0×13.5	紙本貼込み	1 帖	新収蔵作品	
91	里見 雲嶺	1849-1928	竹雀図	1912(明治45)	各154.1×352.0	紙本墨画淡彩	6曲1双	新収蔵作品	後期
92	里見 雲嶺		漁樵問答図	1926(大正15)	各168.0×363.0	紙本金地彩色	6曲1双	新収蔵作品(寄託)	前期
93	橋本 静水	1876-1943	石榴栗鼠図	1920(大正9)頃	142.2×49.6	絹本彩色	1 幅	新収蔵作品	前期
94	頼 聿庵	1801-1856	東行十二首	1831(天保2)以後	各173.2×398.4	紙本墨書	6曲1双	新収蔵作品	後期
95	加藤 晴彬	1888-1942	春暖		173.0×70.5	紙本墨画	1 幅	新収蔵作品	後期
96	加藤 晴彬		山帰来		46.0×50.5	絹本彩色	1 幅	新収蔵作品	前期
97	丸木 位里	1901-1995	ひもの	1937(昭和12)	34.7×67.0	紙本墨画	1 面	新収蔵作品	後期
98	丸木 位里		閑談図	1938(昭和13)頃	66.0×90.5	紙本墨画彩色	1 面	新収蔵作品	
99	丸木 位里		山村図	1940(昭和15)頃	47.5×64.0	紙本墨画彩色	1 面	新収蔵作品	前期
100	丸木 位里		三段峡		135.3×34.0	紙本墨画	1 幅	新収蔵作品	
101	丸木 位里		三段峡画賦	1945(昭和20)	各29.5×40.3	紙本墨画	1 帖	新収蔵作品	
102	船田 玉樹	1912-1991	樹葉		16.3×11.7	ガラス油彩	1 面	新収蔵作品	
103	和高 節二	1898-1990	牛	1939(昭和14)頃	47.0×54.0	紙本墨画	1 幅	新収蔵作品	前期
104	和高 節二		観音		52.5×59.8	紙本墨画彩色	1 幅	新収蔵作品	後期
105	和高 節二		早乙女	1929(昭和4)	212.5×203.2	紙本彩色	2曲1隻	第10回帝展、新収蔵作品	後期
106	中丸 雪生	1893-1968	朝顔		46.0×60.0	絹本彩色	1 幅	新収蔵作品	
107	中丸 雪生		雪景(飯室)	1920(大正9)	23.7×33.0	油彩・板	1 面	新収蔵作品	
108			中丸雪生関連資料一中丸雪生宛書簡類				1 式	新収蔵作品	
109			中丸雪生関連資料一中丸雪生関係資料				1 式	新収蔵作品	
110	鬨 光	1907-1946	風景		24.1×27.1	紙本彩色	1 面	新収蔵作品	
111	鬨 光		帯絵(船と鳥)		30.0×327.5	油彩・絹布	1 本	新収蔵作品	
112	高橋 秀	1930-	路	1992(平成4)	220.0×386.0	エナメル・画布	6曲1隻	新収蔵作品	
113	廣田 堅	1910-1968	朝鮮の壺と鎗缶	1953(昭和28)	63.0×45.0	紙本彩色	1 面	新収蔵作品	
114	廣田 堅		三段峡秋景	1955(昭和30)頃	110.0×84.0	紙本彩色	1 面	新収蔵作品	
115	三代金城一國斎	1829-1915	葡萄に蜂高盛絵香筒		長37.8 径2.8	竹・漆・堆彩漆・高盛絵	1 合	新収蔵作品	
116	三代金城一國斎		葡萄に蜂高盛絵香筒		長39.4 径2.8	竹・漆・堆彩漆・高盛絵	1 合	新収蔵作品	
117	三代金城一國斎		水草に鷺高盛絵香筒		長37.3 径2.5	竹・漆・堆彩漆・高盛絵	1 合	新収蔵作品	
118	三代金城一國斎		薔薇に蝶高盛絵香筒		長36.0 径2.8	竹・漆・堆彩漆・高盛絵	1 合	新収蔵作品	
119	廣 斎		堆漆蒔絵四季草花之図机	1924(大正13)	高35.0 62.0×97.8	木・漆・堆彩漆	1 基	新収蔵作品	
120	渡辺 溥子	1938-	紬織着物「網代文」	1973(昭和48)	桁65.0 丈163.0	絹・紬・緯緋	1 領	新収蔵作品	前期
121	渡辺 溥子		紬織着物「華」	1980(昭和55)	桁66.0 丈165.5	絹・紬・緯絵緋	1 領	新収蔵作品	後期
122	渡辺 溥子		紬織着物「網代文」の下図	1973(昭和48)	38.5×38.5、38.5×55.0	紙	2 枚	新収蔵作品	前期
123	渡辺 溥子		紬織着物「華」の下図	1980(昭和55)	38.3×53.5、23.5×38.5	紙	2 枚	新収蔵作品	後期
124			生糸(未精練)			絹	1 綑	新収蔵作品	
125			天蚕糸			絹	1 綑	新収蔵作品	
126			紬糸			絹	1 綑	新収蔵作品	
127			袋真綿			絹	2 枚	新収蔵作品	

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
128			天然染色絹糸見本	1989(平成元)		絹	26総	新収蔵作品	
129	赤瀬川原平	1937-2014	大日本零円札	1967(昭和42)	14.4×30.8	印刷・紙	1面	新収蔵作品	

関連事業

(1) リレートーク

日 時：1月19日(金)15:00～

講 師：角田 新(当館主任学芸員)、神内 有理(当館主任学芸員)、
岡地 智子(当館主任学芸員)、森 万由子(当館学芸員)

会 場：2階展示室

参加者：15人

(2) 対話によるギャラリートーク

日 時：①2月10日(土) ②3月16日(土) 各日15:00～

ナビゲーター：①福田 浩子(当館学芸課長)、
岡地 智子(当館主任学芸員)
②岡地 智子(当館主任学芸員)、
森 万由子(当館学芸員)

会 場：2階展示室

参加者：①6人 ②3人

(3) インスタライブ配信

日 時：①1月30日(火) ②2月13日(火) ③3月5日(火) ④3月26日(火) 各日17:00～

講 師：①角田 新(当館主任学芸員)②角田 新(当館主任学芸員)、森 万由子(当館学芸員)③角田 新 (当館主任学芸員)、岡地 智子(当館主任学芸員)④角田 新(当館主任学芸員)、神内 有理(当館主任学芸員)

参加者：①65人 ②105人 ③65人 ④56人

(4) フリートークデー

日 時：2月24日(土)9:00～17:00

会 場：2階展示室

①ベビーカーツアー(授乳室など館内案内の後、展示室を案内) 中止

時 間：10:00～10:30

講 師：山下 寿水(当館主任学芸員)

②みんなで楽しむおしゃべり鑑賞会 ～美術館でアートを見よう～(知的障がいのある方を対象とした鑑賞会)

時 間：10:30～11:30

主 催：広島県、広島大学、広島県立美術館、広島県アートサポートセンター

ファシリテーター：森 万由子(当館学芸員)

参加者：8人

③対話型鑑賞(HACH(Hiroshima Arts&City Hive)と共同で実施)

時 間：15:00～16:00

ファシリテーター：片島 蘭(広島市立大学非常勤特任教員)

協 力：森 万由子(当館学芸員)

④作品の缶バッジをもって、作品を探しに行こう!

(缶バッジ配布、先着100名)

参加者：12人



関連報道・記事

(1) 新聞

3/28 毎日新聞「収蔵品が語る 館の軌跡」

(2) 雑誌等

『リビングふくやま』2月9日号、『広島交響楽団第438回定期演奏会プログラム』2月23日号、『TJ hiroshima』2月号、『tomato』2月号、『Wink』、『くれえばん』2月号、『せとうちアート通信』vol.7、『ふれあい』66号

(3) WEB

『ひろしま文化大百科』1月～



縮景園連携展示

(大名庭園＋美術館)×現代アート＝記憶の庭 菅亮平・柴川敏之とめぐる

当館と、隣接する名勝・縮景園は、それぞれ美術館と大名庭園という趣の異なる鑑賞空間であるが、本展ではこの両施設を一体的に繋げるべく、築庭400年を越える縮景園の「歴史性」を一つの切り口としながら、二人の現代アーティストの作品を展示した。

菅亮平(1983-)は、戦前の縮景園に設立された国内最初期の私立美術館といわれる観古館や、園内の蔵に保管され、被爆による焼失を免れた能道具等に焦点を当てて新作を出品。近世の美術作品と併置させながら、美術館と縮景園の接続を図った。

柴川敏之(1966-)は、身の回りにあるものを化石へと変容させた作品群によって、「41世紀の縮景園」へと来園者を誘い、未来の名所を今日に浮かび上がらせた。また、所蔵作品展「魔法の広島県立美術館」では、当館を代表する作品、サルバドール・ダリ《ヴィーナスの夢》ともコラボし、コレクションに対する新たな視点を提示した。

縮景園は池泉を中心とする回遊式庭園であるが、美術館も併せて回遊することで、これまでになかった新たな鑑賞体験の創出を目指した。野外施設である縮景園との連携企画は初めてということもあって様々な課題も見られたが、現代美術作品を介することで、過去と現代と未来とを繋げる試みとなった。

(総括担当者：山下 寿水)



関連事業

(1) 作家とめぐるギャラリートーク

日 時：7月28日(金) ①15:00～ ②17:00～

講 師：①柴川 敏之(本展出品作家、就実短期大学教授)

②菅 亮平(本展出品作家、広島市立大学講師)

会 場：①2階展示室＋縮景園 ②2階展示室

参加者：①14人 ② 32人

(2) 作家とめぐるワークショップ

①「2000年後ヘタイムスリップ！いまのモノを化石にしよう！」

日 時：8月10日(木)13:00～16:00

講 師：柴川 敏之(本展出品作家、就実短期大学教授)



ワークショップ①「2000年後ヘタイムスリップ！いまのモノを化石にしよう！！」

会 場：地階講堂
対 象：小・中学生
参加者：11名

②「今日(きょう)の縮景園記」

日 時：8月12日(土)10:00~12:00
講 師：菅 亮平(本展出品作家、広島市立大学講師)
会 場：縮景園内 清風館
対 象：小学生以上
参加者：8名



ワークショップ②「今日(きょう)の縮景園記」

関連報道・記事

(1) 新聞

7/19 中国新聞「天風録」
7/25 毎日新聞「現代アートつなぐ未来」
8/17 中国新聞「縮景園×現代アート 大名庭園に新風」

(2) 雑誌等

『Wendy』8月号

その他

- ・チラシ製作(24,000部)
- ・小冊子配布(A4判、8ページ)
- ・縮景園売店での化石ソフトクリームの販売(289個)



柴川敏之《2000年後の「ダリの木(ヴィーナスの夢)」》2023年



菅亮平《Pine Tress》2023年



Ⅲ 普及活動

1 第11回新県美展(第75回広島県美術展)

本展は「広く県民から美術作品を公募し、優れた作品を展示することにより、創作活動の振興を図るとともに、鑑賞の機会を提供し、もって芸術文化の向上に資すること」を目的に、昭和24年以来開催している。

平成25年度には、より広く県民が参加できる美術展をめざして映像系部門を加え、また入館者人気大賞を実施するなどの見直しを行い、「新県美展」とした。令和2年度には、平成24年度以来、県内の児童・生徒の美術力の向上を図ることを目的として開催してきた公募展「広島県ジュニア美術展」を、ジュニア部門として加えた。

主 催／広島県

共 催／三原市教育委員会、福山市、府中市、三次市教育委員会、庄原市教育委員会、世羅町教育委員会、広島県教育委員会、中国新聞社

後 援／NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMはつかいち76.1MHz、リビングひろしま

応募点数／一般部門678点、ジュニア部門736点

入選点数／一般部門307点、ジュニア部門349点

入賞点数／一般部門55点(大賞8点、優秀賞13点、奨励賞34点)

ジュニア部門53点(大賞5点、優秀賞11点、奨励賞37点)

巡回情報

巡回先(会場)	会期	入場者数
広島県(広島県立美術館)	12月16日(土)～1月8日(月・祝)	4,468人
福山市(ふくやま美術館)	1月17日(水)～1月21日(日)	700人
府中市(府中市生涯学習センター)	1月24日(水)～1月28日(日)	380人
庄原市(庄原自治振興センター)	2月28日(水)～3月3日(日)	140人
三次市(美術館あーとあい・きさ)	3月6日(木)～3月10日(日)	175人
世羅町(せらにしタウンセンター)	3月13日(水)～3月17日(日)	190人
三原市(三原リージョンプラザ)	3月20日(水・祝)～3月24日(日)	303人

合計 6,356人

入賞者名簿(◎ 大賞、○ 優秀賞、無印 奨励賞)

【一般部門】

絵画系	◎石井スヅ江	◎山野 清子	○坪島 輝明	○二反田正康
	○小珠 極禾	○池田登志太	岡崎由美子	前原 専二
	小川 進	田村 末人	渡辺紀久子	西川 康子
	松本 千代	捻橋 美紀	能宗智恵子	佐々木 博
	熊谷 美雄	伊東 卓爾	渡辺 百樹	
彫塑系	◎岡本 卓博	○池田佐知子	井上 義広	
工芸系	◎馬船 宏明	○田頭 進	○筒井紀久子	松崎 伸一
	山田 順子	山吉 里織	福田 彩子	
書 系	◎井上すみ子	○木村 佳史	○陰山 明枝	藤井 龍仙
	芥川 桑園	高木 月泉	内村 遊水	竹田 順子
	深田 容子	島田 昌広		
写真系	◎天田 忠造	○坂井 勝三	○土井 正司	倉澤 孝
	平賀 久江	小澤 豊	末宗 政博	今岡 敬明
	岡田 愛子	百々 典子	表 孝征	
デザイン系	◎小島 信行	○佐々木輝義		
映像系	◎廣川 恒志	○よしはらえみ	古森 ふき・杉下菜津乃	

【ジュニア部門】

絵 画	◎濱本 幸輝	○藤原 優翔	○土岐 悠人	○松田彩花莉
	○田村 凜香	○平井 美景	○重田 聡介	松本 智紘
	上田尾優結	高井 恵那	白川 渚紗	秀坂 海飛
	金山あかり	菅原 悠陽	今井 空	岡崎 洵甫
	石原 可菜	山口心桜莉	三原 琴音	三原 歩実
	川上 璃子	奥垣内 縁	神原 咲桜	梶谷 菜子
	平橋 由菜	福山花菜子	菊田 千春	
工芸(工作)	◎岩崎 壮真	○馬場 理人	○赤木 真心	濱崎 杏月
	大島 利音	中下 鈴音	住吉 昭飛	大下 莉奈
	浅野 心絆	福重千乃栄	備後はるか	
彫 刻	◎前田 悠吾	○川口百姫乃	馬場 理人	奥村 千尋
	黒川 杏	岡崎 想介	石原 るな	
写 真	◎藤田 彩華	○中川 湮	掛中 心寧	
デザイン	◎土井 優菜	○東 奏斗	田代 百杜	北村 夢叶
	小西 穂果			

2 博物館実習

大学及び短期大学における博物館学講座の単位習得の一環として、博物館学を履修する学生を一時的に受け入れ、博物館現場における知識及び技能を修得させることにより、人材の育成を図ることを目的として実施している。開設日時とカリキュラム、および受入先は次のとおり。

(実習担当者：角田 新)

実施日時と内容

8月21日(月)	9:30~10:00	開講あいさつ・オリエンテーション
	10:00~11:00	館長講話
	11:00~12:00	講座①「美術館と学芸活動」
	13:00~13:30	見学①館内
	13:30~14:30	見学②「所蔵作品展」
	14:30~15:30	講座②「総務(全般・予算・広報)・施設管理について」
	15:30~16:00	広報企画実習①(課題説明)
8月22日(火)	9:30~10:30	講座③「対話型鑑賞」(講義と実践)
	10:30~11:30	見学③「魔法の美術館」展
	11:30~12:00	ギャラリートーク実習①(概論)
	13:00~16:00	ギャラリートーク実習②(企画立案)
8月23日(水)	9:30~10:30	講座④「美術館の展示環境・展示手法」
	10:30~12:00	広報企画実習②(発表・ディスカッション)
	13:00~14:00	作品取扱い実習・調書作成①(日本洋画)
	14:00~15:00	作品取扱い実習・調書作成②(日本画)
	15:00~16:00	ギャラリートーク実習③(集約)
8月24日(木)	9:30~10:30	作品取扱い実習・調書作成③(工芸)
	10:30~12:00	ギャラリートーク実習④(集約)
	13:00~16:00	ギャラリートーク実習⑤(制作)
8月25日(金)	9:30~12:00	ギャラリートーク実習⑥(発表準備)
	13:00~14:30	ギャラリートーク実習⑦(発表)
	14:30~15:00	受講生ディスカッション
	15:00~16:00	振り返り

受講生所属大学

京都芸術大学、女子美術大学、東京大学、比治山大学、広島大学、広島女学院大学、広島市立大学、安田女子大学(8大学、計16名)

広報企画実習

大学生をターゲットとして、当館所蔵作品展の広報企画立案を行った。初日にワークシートを配布し、まずは各自で企画案を考えてくることを課題とした。2日目は4班に分かれディスカッションし、受講者は各々の案を他の班員と共有し、ブラッシュアップしたのち一つの企画とし班ごとに発表を行った。平和学習とのコラボレーション、交通広告の活用や、学校図書館へ図録を預けるサブスクリプション

ン、キャンパスメンバーズ制度そのものの広告をSNSで拡散するなど、多彩な企画案が提示された。

ワークショップ実習

メインカリキュラムでは、「当館で開催するにふさわしいワークショップ」を企画することとし、その際、どのような視点から当該ワークショップを企画するのか、美術館や美術文化、あるいは地域といった枠組みも含め、なぜ、どのような目的で、そのワークショップを開催するのかを明確に意識しながら企画を立案することとし、模擬的なワークショップを設計した。受講生は4班に分かれ、グループワークにより、各班で趣旨・目的、ターゲット、実施意義、等に応じたワークショップ内容、ワークショップ全体のテーマを決定。自身が注目した切り口を出発点としながら、調査や準備を通じてワークショップへの理解を深め、さらに参加者目線に立った実施内容を検討することで、学芸員の仕事を追体験した。各班のテーマ、対象者、内容は次の通り。

①	この夏、県美のHey!ワークに参加した（対象：小学生～大学生） ワークショップ参加者に、ギャラリートークで当館の所蔵する戦前の広島を描いた作品について学習し、合わせてその時代に撮影された写真を鑑賞し、自由に意見交換を行う。その後、参加者独自のオリジナルグッズを作成することで、郷土の歴史と文化にリンクした美術を体験してもらう。
②	草木染でミサンガを紡ごう(対象：子どもから大人まで(5歳以下は保護者同伴)) 自然の素材で糸染めから染織を体験し、広島県立美術館所蔵の染織作品・ひいては染織以外の美術に対しても理解を広げ、興味を深めてもらう。
③	広島原風景-瀬戸内を美術で味わう(対象：一般(美術に関心の薄い人)) ワークショップ参加者は、所蔵作品展のギャラリートークに参加し、出品作品に因んだ皿を制作。後日、自作の皿を使用した食事に参加することで、参加者に対して美術に対する興味の糸口を提供する。
④	パラパラ漫画を創ろう ～絵画の中の世界をゾートロープを使って考えてみよう～(対象：小学生) 当館で鑑賞した絵画作品等を題材とし、ゾートロープの一コマとすることで、作品に描かれた状況の前後の世界を創造し、参加者に美術作品の鑑賞体験を深めることにつながるような、新しい鑑賞体験を提供する。

3 学校・地域との連携事業

所蔵作品や鑑賞補助教材を活用した授業や講座を出張して行うことにより、学校や地域における美術鑑賞活動を支援し、美術館と学校や地域との相互交流を促進する。

出張講座

本講座は、当館学芸員が公民館や生涯学習センター、学校などに出向き、スライドなど鑑賞補助教材を用いて行うもので次の二つのコースを設定した。

A コレクション・トーク 当館所蔵作品や地域文化などをテーマに行う講座(15講座)

B 特別展のためのとくべつ講座 当該年度に開催する特別展を紹介する講座(1講座)

令和5年度における実施状況は次表のとおりで、地域や学校における美術鑑賞活動を支援するとともに、特別展を普及広報し、美術館への関心や親しみを醸成した。

No.	開催日			会 場	講師	コース	講座タイトル	参加者 (人)
	月	日	曜					
1	7	29	土	ANAクラウンプラザ ホテル広島	藤崎	A	絵画に見る時代や歴史	50
2	9	25	金	口田公民館	隅川	A	名勝縮景園の歴史と美意識	20
3	9	21	木	廿日市市平良市民 センター	山下	B	「おいしいボタニカル・アート」展 を楽しむためのものがたり	40
4	10	17	火	叡啓大学	山下	B	「おいしいボタニカル・アート」展 を楽しむためのものがたり	20
5	10	17	火	岩国市民文化会館	藤崎	A	絵画に見る時代や歴史	40
6	12	13	水	竹原市立竹原中学校	森	A	話しながら見てみよう みんなで楽しむ美術鑑賞	76
7	1	18	木	瀬野公民館	隅川	A	名勝縮景園の歴史と美意識	30
8	1	30	火	廿日市市串戸市民 センター	藤崎	A	絵画に見る時代や歴史	16
9	2	8	木	広瀬神社	岡地	A	海を渡った日本の磁器 伊万里焼	23
10	3	22	金	唯信寺	森	A	話しながら見てみよう みんなで楽しむ美術鑑賞	11

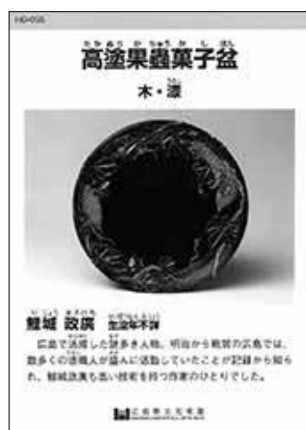
(全10会場／参加合計326人)

4 鑑賞支援制作物

(1) ワークシート

来館者の鑑賞を支援するため、おおむね小学校高学年以上を対象とした所蔵作品のワークシートを作成している。令和5年度は新たに3種類を作成し、合わせて342種となった。

No.	所蔵作品番号	作者名	作品名	制作年	材質・技法
1	HB-285	渡辺 溥子	紬織着物「月影」	1999(平成11)	絹・紬・縦緯緋・経縞
2	HD-055	鯉城 政廣	高塗果蟲菓子盆	—	木・漆
3	HF-004	門田 篁玉	連作「蓄」	1975(昭和50)	竹



5 学校等による利用状況

令和5年4月1日～令和6年3月31日までの利用状況(団体申込による)は、次のとおり。

概要

区分(団体・区域)			団体数	人数	引率等	総人数
1	小学校	(1)市内	4団体	346	30	376
		(2)県内	3団体	84	11	95
		(3)県外	2団体	24	2	26
2	中学校	(1)市内	1団体	19	2	21
		(2)県内	1団体	16	1	17
		(3)県外	17団体	793	53	846
3	高等学校	(1)市内	5団体	60	7	67
		(2)県内	1団体	53	2	55
		(3)県外	2団体	23	4	27
4	その他	(1)市内	6団体	105	9	114
		(2)県内	-	-	-	-
		(3)県外	2団体	32	6	38
合計			44団体	1,555	127	1,682

詳細

	団体	区域	利用年月日	人数	引率等	総人数	利用目的	対応
1	東広島市立御園宇小学校	(2)県内	9月8日	62	4	66	特・所	学芸員解説
	広島市立牛田小学校 特別支援学級	(1)市内	9月13日	33	12	45	特	
	広島市立東浄小学校 特別支援学級	(1)市内	9月20日	16	5	21	特	
	広島県立呉特別支援学校	(2)県内	9月20日	1	4	5	特	
	庄原市立峰田小学校	(2)県内	10月12日	21	3	24	特・所	学芸員解説
	長門市立日置小学校	(3)県外	10月12日	7	1	8	所	
	守山市立物部小学校	(3)県外	10月27日	17	1	18	所	
	広島市立牛田小学校	(1)市内	12月20日	216	9	225	特・所・縮	
	広島市立伴東小学校	(1)市内	1月17日	81	4	85	所・縮	
2	岡山市立京山中学校	(3)県外	5月10日	154	2	156	所	
	学習院女子中等科(ひめりんご会)	(3)県外	5月12日	203	17	220	所	
	岩国市立岩国中学校	(3)県外	5月23日	7	2	9	特・所	
	岩国市立川下中学校	(3)県外	5月24日	36	1	37	所	
	井原市立井原中学校	(3)県外	5月25日	22	1	23	特・所・縮	
	岩国市立周東中学校	(3)県外	5月30日	5	0	5	特・所・縮	
	伊賀市立阿山中学校	(3)県外	6月7日	20	0	20	所	
	創価中学校	(3)県外	6月7日	10	4	14	所・縮	
	大阪市立長吉中学校	(3)県外	6月9日	36	1	37	所	
	福岡市立小呂中学校	(3)県外	6月28日	2	6	8	所	
	鶴岡市立鶴岡第二中学校	(3)県外	7月6日	28	2	30	所	
	吉備中央町立加賀中学校	(3)県外	7月7日	6	0	6	所	友の会ボランティアガイド解説
	下松市立末武中学校	(3)県外	7月25日	55	2	57	特・所	
	広島市立江波中学校	(1)市内	8月3日	19	2	21	特・所	
	竹原市立竹原中学校	(2)県内	8月25日	16	1	17	特	
	筑紫野市立筑紫野南中学校	(3)県外	9月20日	38	3	41	所	
	三重中学校	(3)県外	10月9日	95	9	104	特・所・縮	
	岩国市立玖珂中学校	(3)県外	11月14日	14	0	14	所	
	駿台甲府中学校	(3)県外	3月6日	62	3	65	所・縮	

団体		区域	利用年月日	人数	引率等	総人数	利用目的	対応
3	広島県立宮島工業高等学校	(2)県内	4月13日	53	2	55	所・縮	
	星槎国際高等学校 広島学習センター	(1)市内	7月24日	5	2	7	所	友の会ボランティアガイド 解説
	星槎国際高等学校	(1)市内	8月17日	8	2	10	特	
	広島女学院中学高等学校(高校)	(1)市内	10月30日	19	1	20	特	学芸員解説
	広島女学院中学高等学校(高校)	(1)市内	11月7日	20	1	21	特	学芸員解説
	藤女子高等学校	(3)県外	11月9日	18	2	20	所	
	広島女学院中学高等学校(高校)	(1)市内	11月10日	8	1	9	特	学芸員解説
	山口県立周防大島高等学校	(3)県外	3月28日	5	2	7	所	友の会ボランティアガイド 解説
4	比治山大学短期大学部美術科	(1)市内	5月27日	28	1	29	特	
	宮城県石巻市非核平和推進人材育成事業	(3)県外	8月8日	17	4	21	特	
	小井手ファッションビューティ専門学校	(1)市内	8月23日	18	1	19	特	
	小井手ファッションビューティ専門学校	(1)市内	8月24日	18	4	22	特	
	小井手ファッションビューティ専門学校	(1)市内	8月25日	15	1	16	特	
	北広島町教育委員会	(3)県外	10月22日	15	2	17	特・所	
	広島女学院大学	(1)市内	11月4日	10	1	11	特	学芸員解説
	安田女子大学	(1)市内	11月26日	16	1	17	特	

※ 利用目的について、「特」は特別展、「所」は所蔵作品展、「縮」は縮景園の利用を表す。

6 県民ギャラリー利用状況

令和5年4月3日～令和6年4月1日までの利用状況は、次のとおり。

利用団体		延べ開催日数	延べ入場者数
入場有料	7団体	42日	25,156人
入場無料	78団体	468日	66,767人
計	85団体	510日	91,923人

利用団体一覧表

展 覧 会 名	会 期	展 示 室	内 容	出品点数	入場料金	入場者数
平和写真展 2021-2022	4 / 3 ～ 4 / 10	1 2 3	写真	109点	無料	503人
第32回グループ宙遊展	4 / 3 ～ 4 / 10	4	絵画	50点	無料	370人
「無意味な会話」 宮下光子＋南葉優子展	4 / 3 ～ 4 / 10	5	絵画・彫塑・その他	38点	無料	344人
第53回広島県日本画協会展	4 / 10 ～ 4 / 17	1 2	絵画	40点	無料	685人
公募2023 第44回関西総美会展	4 / 10 ～ 4 / 17	3 4 5	絵画・彫塑・工芸・書・写真	115点	無料	1,093人
第32回波の会展	4 / 17 ～ 4 / 24	1 2 3 4 5	絵画	185点	無料	1,549人
第28回ROSE野ばら会作品展	4 / 24 ～ 5 / 1	1 2	絵画	75点	無料	601人
第46回グループ「集」展	4 / 24 ～ 5 / 1	3	絵画	27点	無料	646人
第8回広島一水会展・第42回路展	4 / 24 ～ 5 / 1	4 5	絵画	118点	無料	1,027人
第34回広島日展会展	5 / 1 ～ 5 / 8	1 2 3 4 5	絵画・彫塑・工芸・書	129点	無料	2,023人
第65回記念 新協展	5 / 29 ～ 6 / 5	1 2 3 4 5	絵画・工芸	101点	一 般 600円 高大生 500円 中学生以下無料	1,616人
第71回光陽展広島準本展	6 / 5 ～ 6 / 12	1 2 3 4 5	絵画・染色	111点	無料	1,179人
第62回新制作広島グループ展	6 / 12 ～ 6 / 19	2 3 4	絵画・彫刻	46点	無料	776人
第61回大調和会広島巡回展	6 / 26 ～ 7 / 3	1 2	油絵・日本画・水彩・版画	67点	無料	761人
第44回広島広告企画制作賞作品展	6 / 26 ～ 7 / 3	3 4	広告	120点	無料	610人
第109回光風会展	7 / 17 ～ 7 / 24	1 2 3 4 5	絵画・工芸	129点	一 般 600円 高大生 500円 (前売券は当日料金 より200円引き)	6,228人
第63回日本版画会展(広島会場)	7 / 24 ～ 7 / 31	1 2 3	絵画・ハガキ版画	324点	無料	1,058人
第55回黄人展	7 / 24 ～ 7 / 31	4 5	絵画・彫塑	79点	無料	597人
第1回茜会日本画展	7 / 31 ～ 8 / 7	1	絵画	32点	無料	310人
第20回むいち会展	7 / 31 ～ 8 / 7	2	絵画	33点	無料	582人
第66回広島県児童画連盟展	7 / 31 ～ 8 / 7	3	絵画・工芸	212点	無料	642人
第38回広島市立基町高等学校美術部・ 創造表現コース卒業生による桐美会展	7 / 31 ～ 8 / 7	4	絵画・彫塑・工芸・写真・その他	87点	無料	608人
第58回広島形象派展	7 / 31 ～ 8 / 7	5	絵画	46点	無料	403人
ART WEEK 2023	8 / 7 ～ 8 / 14	1	絵画・写真・工芸	60点	無料	578人
110周年記念 日本水彩展	8 / 7 ～ 8 / 14	2 3 4 5	絵画	128点	一 般 500円 高大生 400円 小中生 300円	4,330人
心書倶楽部展	8 / 14 ～ 8 / 21	1 2 3	書	260点	無料	519人
第69回職美展	8 / 14 ～ 8 / 21	4 5	絵画・工芸・書・写真・その他	197点	無料	774人
第74回毎日書道展中国展	8 / 21 ～ 8 / 28	1 2 3 4 5	書	870点	一 般 600円 高校生以下無料	4,868人
第89回東光展	8 / 28 ～ 9 / 4	1 2 3 4 5	絵画	146点	一 般 600円 学 生 無 料	3,324人
第37回日洋展広島会場	9 / 4 ～ 9 / 11	1 2 3 4 5	絵画	94点	前売券一般 500円 当日券一般 600円	2,247人

展 覧 会 名	会 期	展 示 室	内 容	出品点数	入場料金	入場者数
第33回アートグループ「滴」展	9/11～9/18	1	絵画	39点	無料	508人
八千代の丘美術館 第11期入館作家展	9/11～9/18	2	絵画・工芸・その他	38点	無料	553人
第51回広島彫刻会展	9/11～9/18	3	彫塑	21点	無料	503人
第40回広陽カメラクラブ写真展	9/11～9/18	4 5	写真	109点	無料	713人
第70回杏林画会展	9/18～9/25	1	絵画	40点	無料	321人
第37回一般社団法人新興美術院 広島支部展	9/18～9/25	2	絵画	26点	無料	450人
広島筆文化研究会主催 第6回公募展	9/18～9/25	3 4	絵画・書	61点	無料	700人
第35回クロッキー同好会人物素描展	9/18～9/25	5	絵画	40点	無料	281人
第40回記念産経国際書展瀬戸内展	9/25～10/2	1 2 3 4 5	書	450点	無料	989人
二科会写真部 広島支部 第45回公募展	10/2～10/9	1 2 3 4	写真	299点	無料	1,188人
第41回 彩友会展	10/2～10/9	5	絵画	71点	無料	463人
第34回 NOA写真展	10/9～10/16	1	写真	55点	無料	703人
広島YMCA学園 2023生徒作品展 「芸大美美受験科」「美術教室」	10/9～10/16	2 3	絵画・彫塑・工芸	614点	無料	843人
日本風景写真協会広島第二支部 第5回写真展	10/9～10/16	4	写真	39点	無料	633人
第56回広島県写真連盟展	10/9～10/16	5	写真	141点	無料	655人
第24回 グループ「Z」水彩展	10/16～10/23	1	絵画	36点	無料	576人
広島国際芸術交流展	10/16～10/23	2	絵画・彫塑・書・写真・その他	99点	無料	1,508人
写真展FOTO WAVE 2023	10/16～10/23	3	写真	198	無料	415人
「山本満晴」 作品展+α	10/16～10/23	4	絵画・彫塑・写真・その他 (オブジェ)	97点	無料	480人
第53回渦展	10/16～10/23	5	絵画	15点	無料	405人
第51回日本の書展	10/23～10/30	1 2 3 4 5	書	567点	無料	4,533人
あいサポートアート展	10/30～11/6	1 2 3 4 5	絵画・工芸・書・その他	399点	無料	1,479人
第47回広島県高等学校総合文化祭 第55回広島県高等学校書道展	11/6～11/13	1 2 3 4 5	書	256点	無料	777人
第47回広島県高等学校総合文化祭 第55回広島県高等学校美術・工芸展 (中央展)	11/13～11/20	1 2 3 4 5	絵画・彫塑・映像	559点	無料	984人
第3回日本画五人展	11/20～11/27	1	絵画	27点	無料	577人
第6回日本水彩出品作家彩遊会展	11/20～11/27	2	絵画	26点	無料	642人
2023年 ベタルス美術展	11/20～11/27	3	絵画	44点	無料	500人
全日本写真連盟広島県本部展 第83回国際 写真サロン 第26回朝日写真サロン・中国 第23回広島県本部展	11/20～11/27	4 5	写真	257点	無料	733人
第6回蒼空の会	11/27～12/4	1	絵画	53点	無料	303人
トルコ共和国建国100周年記念写真展 100 DISCOVERIES あなたの知らない魅惑のトルコ	11/27～12/4	2	写真	160点	無料	342人
書のこころ太陽社 2023年展	11/27～12/4	3 4 5	書・その他	46点	無料	873人
第32回広島県シルバー作品展	12/4～12/11	1 2 3 4 5	絵画・彫塑・工芸・書・写真	248点	無料	1,087人
船田 奇岑展	1/15～1/22	1	絵画	9点	無料	423人
第54回元陽展広島会場	1/15～1/22	2 3 4	絵画	91点	無料	2,350人
第21回津賀水彩画教室作品展	1/15～1/22	5	絵画	87点	無料	694人
第107回二科展(第67回広島巡回展)	1/22～1/29	1 2 3 4	絵画・彫塑・写真・その他 (デザイン)	371点	一 般 600円 前 売 400円 高校生以下 無料	2,543人
第76回 広島県児童生徒書道展	1/29～2/5	1 2 3 4 5	書	1,985点	無料	2,503人
第76回二紀展 第51回広島巡回展	2/5～2/12	1 2 3 4 5	絵画・彫塑	135点	無料	4,338人
比治山大学短期大学部美術科 第56回卒業制作展 第22回修了制作展	2/12～2/19	1 2 3 4 5	絵画・工芸・映像・その他(デ ザイン・マンガ・イラスト)	174点	無料	1,038人
第6回ニッコールクラブ広島支部写真展	2/19～2/26	1	写真	45点	無料	352人

展 覧 会 名	会 期	展 示 室	内 容	出品点数	入場料金	入場者数
第62回広島大学大学院 人間社会科学研究所 造形芸術教育学領域・教育学部 造形芸術系 コース 修了・卒業制作展/論文発表会	2/19～2/26	2 3	絵画・彫塑・工芸・その他 (デザイン・論文パネル)	39点	無料	511人
令和5年度 広島県立熊野高等学校 芸術類型 美術コース・書道コース 卒業作品展	2/19～2/26	4 5	絵画・彫塑・工芸・書その他 (パネル・挨拶・会場図・作 品ファイル)	101点	無料	1,536人
第72回書の友全国書道展覧会	2/26～3/4	1 2 3 4 5	書	2,268点	無料	2,272人
第55回安田女子大学書道学科卒業制作展 併催 安田女子大学書道学科展 安田学園小・中・高等学校書道展	3/4～3/11	1 2 3 4 5	書	682点	無料	1,063人
第2回「版画アート展」	3/11～3/18	1	絵画・その他(小作品)	74点	無料	607人
第12回新構造広島巡回展	3/11～3/18	2 3	絵画・工芸・写真	45点	無料	852人
第58回ひろしま美術研究所展	3/11～3/18	4 5	絵画・工芸	220点	無料	678人
第46回広島県工芸美術作家協会展	3/18～3/25	1	工芸	23点	無料	267人
第58回グループいしがき展	3/18～3/25	2 3	絵画	80点	無料	737人
正守 莊志展	3/18～3/25	4	絵画	26点	無料	536人
北翔展	3/18～3/25	5	絵画	60点	無料	537人
透明水彩画展～麗～	3/25～4/1	1	絵画	60点	無料	362人
まえだたまき展	3/25～4/1	2	絵画	27点	無料	371人
第51回合同美術展	3/25～4/1	3 4	絵画・彫塑・書・写真	81点	無料	469人
西尾裕展	3/25～4/1	5	絵画	31点	無料	316人

7 友の会事業報告

「すぐれた美術作品に接し、それを鑑賞する楽しさを分かち合いながら、自分自身を高めてゆく」ことを目的に昭和47年1月21日に発足した。平成3年から平成8年までの新館工事中は会自体が休止状態にあったが、リニューアルオープンを機に友の会もボランティアで運営する新しい組織となり、会員相互の親睦と美術館の事業にも協力・支援することを目的として、平成9年4月1日付けで再出発し、現在に至る。

会員数 622人(個人413人 家族193人 学生2人 賛助14人 特別賛助0人)

令和5年度は、新型コロナウイルス拡散防止対策が解除され、友の会事業は5月からいつもの活動が徐々にできるようになった。

(1) 会報の発行

- ・発行 102号～104号
- ・配布先 会員、国内の美術館等



『色絵馬』No. 102



『色絵馬』No. 103



『色絵馬』No. 104

(2) 美術情報及び友の会ニュースの発行

- ・美術情報 132号～134号
- ・友の会ニュース 189号～193号

(3) 所蔵作品展のボランティアによるギャラリーガイド

5月1日より実施

- ・定時：火曜日～日曜日(祝日を含む) 14時から実施
特別展開催中の月曜開館日は、14時から実施
- ・臨時：団体申し込み及び美術館の要請により随時実施
- ・ギャラリーガイド実績(令和5年5月1日～令和6年3月31日)
定時：563名(ガイド延べ人員285名)
団体：40名(5件)(ガイド延べ人員6名)

(4) ボランティア・ギャラリーガイド研修

◆所蔵作品展研修(美術館共催)

令和5年6月3日(土) 参加者：15人
令和5年8月5日(土) 参加者：14人
令和5年12月2日(土) 参加者：12人
令和6年3月4日(土) 参加者：12人

◆ギャラリーガイド研修 なし

(5) 特別展関連講演会等(美術館と共催)

◆令和5年4月16日(日)《川瀬巴水 旅と郷愁の風景》展関連

演 題：「巴水版画の魅力」

講 師：岩切 信一郎(本展監修、美術史家・國學院大學大学院講師)

参加者：101人

◆令和5年4月23日(日)《川瀬巴水 旅と郷愁の風景》展関連

演 題：「新版画の摺りの実演」

講 師：渡辺 英次(摺師)、渡邊 章一郎(「渡邊木版美術画舗」代表取締役)

参加者：約120人

◆令和5年11月18日(土)《おいしいボタニカル・アート 食を彩る植物のものがたり》展関連

演 題：「『おいしい植物』と人間の歴史－わたしたちを突き動かすものについて」

講 師：藤原 辰史(京都大学准教授)

参加者：97人

(6) 「もっと知ろうシリーズ」(美術館と共催)

◆第55回 令和5年6月8日(木)

演 題：「G7広島サミット応援企画 100の出会い、∞(無限)の対話」

講 師：広島県立美術館 福田学芸課長、角田主任学芸員、森学芸員

場 所：広島県立美術館 所蔵作品展示室(2階)

参加者：15人

(7) 美術鑑賞の旅

◆お散歩美術鑑賞会

◇第18回 ひろしま美術館「ピカソ 青の時代を超えて」展

月 日：令和5年4月15日(土)

講 師：森 静花(ひろしま美術館学芸員)

参加者：26人

◇第19回 泉美術館「広島を愛した反骨の画人 浜崎左髪子」展

月 日：令和5年10月28日(土)

講 師：永井 明生(泉美術館学芸部長)

参加者：12人

◆日帰り美術鑑賞旅行

◇奥田元宋・小由女美術館「菱田春草と画壇の挑戦者たち」

其阿弥美術館・常設展

筆の里工房「宮廷文化を彩る絵画 陽明文庫所蔵作品」

月 日：令和5年6月2日(金)

参加者：35人

◆宿泊美術鑑賞旅行

◇「信濃路の文化と自然を訪ねて」 2泊3日

期 間：令和5年5月25日(木)～27日(土)

訪問美術館等：

松本市美術館、碌山美術館、安曇野ちひろ美術館、北斎館、おぶせミュージアム中島千波館、

長野県立美術館、無言館、軽井沢千住博美術館

参加者：44人

◇「関西の美術鑑賞の旅」 1泊2日

期 間：令和5年11月1日(水)～2日(木)

訪問美術館等：

大阪中之島美術館「生誕270年 長沢芦雪」「テート美術館展 光 — ターナー、印象派から現代へ」、相国寺承天閣美術館「若冲と応挙」、福田美術館「ゼロからわかる江戸絵画」、天龍寺「庭園と雲龍図」、和泉市久保惣記念美術館「宗達－物語の風景 源氏・伊勢・西行－」

参加者：35人



新版画の摺りの実演 2023.4.23



お散歩美術鑑賞会 2023.4.15

Ⅳ 事業実施状況

事業名	事業内容	実施期間
展覧会		
178,865名		
特別展	県民に多様な美術作品の鑑賞機会を提供し本県の芸術文化の向上に資するため、特別展を開催した。	
105,583名		
(14,526名)	川瀬巴水 旅と郷愁の風景	4月11日～6月11日
(65,568名)	魔法の美術館 光と遊ぶ超体験型ミュージアム	7月22日～9月24日
(20,941名)	おいしいボタニカル・アート 食を彩る植物のものがたり	10月6日～11月26日
(4,548名)	【広島県主催事業】第11回新県美展(第75回広島県美術展)	12月16日～1月8日
所蔵作品展	広島県ゆかりの美術作品、日本とアジアの工芸作品、1920-30年代の美術作品をテーマとする当館の所蔵作品を展示し、県民の鑑賞に供した。	常時
73,282名		
教育普及	特別展、所蔵作品展等それぞれの事業に応じた学習の機会を提供することにより、県民の美術作品に対する関心を高め、理解を深めた。インスタライブなどオンラインでも実施した。	
一般		
美術講演会		
198名		
101名	川瀬巴水展	
(101名)	「巴水版画の魅力」 講師：岩切信一郎(本展監修、美術史家・國學院大學大学院講師)	4月16日(13:30～)
97名	おいしいボタニカル・アート展	
(97名)	「『おいしい植物』と人間の歴史ーわたしたちを突き動かすものについて」 講師：藤原辰史(京都大学准教授)	11月18日(13:30～)
美術講座		
84名	おいしいボタニカル・アート展	
(84名)	「本展をおいしく味わうためのものがたり」 講師：山下寿水(当館主任学芸員)	10月8日(13:30～)
リレートーク		
39名	所蔵作品展	
(6名)	第1期 講師：藤崎綾(当館主任学芸員)、神内有理(当館主任学芸員)、岡地智子(当館主任学芸員)、森万由子(当館学芸員)	6月23日(15:00～)
(6名)	第2期 講師：角田新(当館主任学芸員)、山下寿水(当館主任学芸員)、隅川明宏(当館主任学芸員)、岡地智子(当館主任学芸員)	7月14日(15:00～)
(12名)	第3期 講師：福田浩子(当館学芸課長)、藤崎綾(当館主任学芸員)、山下寿水(当館主任学芸員)、隅川明宏(当館主任学芸員)	9月22日(15:00～)
(15名)	第4期 講師：角田新(当館主任学芸員)、神内有理(当館主任学芸員)、岡地智子(当館主任学芸員)、森万由子(当館学芸員)	1月19日(15:00～)
ギャラリートーク	ワイヤレスガイド使用	
247名		
65名	川瀬巴水展	
(15名)	講師：角田新(当館主任学芸員)	4月14日(11:00～)
(15名)	講師：角田新(当館主任学芸員)	5月12日(11:00～)
(15名)	講師：角田新(当館主任学芸員)	5月26日(11:00～)
(20名)	講師：角田新(当館主任学芸員)	6月9日(11:00～)
136名	おいしいボタニカル・アート展	
(15名)	講師：山下寿水(当館主任学芸員)	10月13日(11:00～)
(3名)	講師：山下寿水(当館主任学芸員)	10月13日(17:00～)
(29名)	講師：山下寿水(当館主任学芸員)	10月27日(11:00～)
(8名)	講師：山下寿水(当館主任学芸員)	10月27日(17:00～)

事業名			事業内容	実施期間
		(17名)	講師：山下寿水(当館主任学芸員)	11月10日(11:00～)
		(3名)	講師：山下寿水(当館主任学芸員)	11月10日(17:00～)
		(9名)	講師：山下寿水(当館主任学芸員)	11月22日(11:00～)
		(11名)	講師：山下寿水(当館主任学芸員)	11月22日(17:00～)
		(25名)	講師：山下寿水(当館主任学芸員)	11月24日(11:00～)
		(16名)	講師：山下寿水(当館主任学芸員)	11月24日(17:00～)
		46名	所蔵作品展	
		(14名)	作家とめぐるギャラリートーク 講師：柴川敏之(本展出品作家、就実短期大学教授)	7月28日(15:00～)
		(32名)	作家とめぐるギャラリートーク 講師：菅亮平(本展出品作家、広島市立大学講師)	7月28日(17:00～)
		インスタライブ		
		1,233名		
		223名	川瀬巴水展	
		(56名)	講師：角田新(当館主任学芸員)	4月18日(17:00～)
		(85名)	講師：角田新(当館主任学芸員)	5月9日(17:00～)
		(82名)	講師：角田新(当館主任学芸員)	5月29日(17:00～)
		56名	魔法の美術館展	
		(56名)	講師：森万由子(当館学芸員)※キッズモニター参加者は25名	7月24日(17:00～)
		158名	おいしいボタニカル・アート展	
		(51名)	講師：山下寿水(当館主任学芸員)	10月17日(17:00～)
		(50名)	講師：山下寿水(当館主任学芸員)	10月31日(17:00～)
		(57名)	講師：山下寿水(当館主任学芸員)	11月14日(17:00～)
		796名	所蔵作品展	
		(54名)	第1期 西洋美術 講師：森万由子(当館学芸員)	5月30日(17:00～)
		(56名)	第1期 日本洋画 講師：角田新(当館主任学芸員)、藤崎綾(当館主任学芸員)	6月6日(17:00～)
		(66名)	第1期 日本画 講師：神内有理(当館主任学芸員)	6月13日(17:00～)
		(46名)	第1期 工芸 講師：岡地智子(当館主任学芸員)	6月27日(17:00～)
		(46名)	第2期 西洋美術 講師：山下寿水(当館主任学芸員)	7月11日(17:00～)
		(53名)	第2期 日本洋画 講師：角田新(当館主任学芸員)	7月18日(17:00～)
		(47名)	第2期 工芸 講師：岡地智子(当館主任学芸員)	7月25日(17:00～)
		(47名)	第2期 日本画 講師：隅川明宏(当館主任学芸員)	8月1日(17:00～)
		(26名)	第3期 西洋美術 講師：山下寿水(当館主任学芸員)	9月19日(17:00～)
		(50名)	第3期 日本洋画 講師：角田新(当館主任学芸員)、藤崎綾(当館主任学芸員)	9月26日(17:00～)
		(50名)	第3期 日本画 講師：隅川明宏(当館主任学芸員)	10月3日(17:00～)
		(74名)	第3期 工芸 講師：福田浩子(当館学芸課長)	10月10日(17:00～)
		(65名)	第4期 第1展示室 講師：角田新(当館主任学芸員)	1月30日(17:00～)
		(105名)	第4期 第2展示室 講師：角田新(当館主任学芸員)、森万由子(当館学芸員)	2月13日(17:00～)
		(65名)	第4期 第3展示室 講師：角田新(当館主任学芸員)、岡地智子(当館主任学芸員)	3月5日(17:00～)

事業名			事業内容	実施期間
		(56名)	第4期 第4展示室 講師：角田新(当館主任学芸員)、神内有理(当館主任学芸員)	3月26日(17:00～)
	対話型鑑賞(対話による ギャラリートーク)			
		93名	所蔵作品展	
		(5名)	第1期(対面) 講師：岡地智子(当館主任学芸員)、森万由子(当館学芸員)	6月17日(15:00～)
		(5名)	第1期(対面) 講師：福田浩子(当館学芸課長)、岡地智子(当館主任学芸員)	7月1日(15:00～)
		(11名)	第2期(対面) ※フリートーキングデーに合わせて実施。 共催：HACH(Hiroshima Arts&City Hive)、講師：片島蘭(広島市立大学非常勤特任教員)、森万由子(当館学芸員)	7月24日(10:30～)
		(8名)	第2期(対面) ※フリートーキングデーに合わせて実施。 講師：山下寿水(当館主任学芸員)、岡地智子(当館主任学芸員)	7月24日(13:00～)
		中止	第2期(オンライン) 講師：岡地智子(当館主任学芸員)、森万由子(当館学芸員)	9月2日(10:00～)
		(6名)	第2期(対面) 講師：岡地智子(当館主任学芸員)、森万由子(当館学芸員)	9月9日(15:00～)
		(9名)	第3期(対面) 講師：岡地智子(当館主任学芸員)、森万由子(当館学芸員)	10月28日(15:00～)
		(2名)	第3期(対面) 講師：岡地智子(当館主任学芸員)、森万由子(当館学芸員)	11月23日(15:00～)
		(10名)	第3期(対面) ※フリートーキングデーに合わせて実施。 共催：HACH(Hiroshima Arts&City Hive)、講師：片島蘭(広島市立大学非常勤特任教員)、森万由子(当館学芸員)	12月9日(13:00～)
		(8名)	第3期(対面) 講師：山下寿水(当館主任学芸員)、森万由子(当館学芸員)	12月9日(15:00～)
		(6名)	第4期(対面) 講師：福田浩子(当館学芸課長)、岡地智子(当館主任学芸員)	2月10日(15:00～)
		(8名)	第4期(対面) ※フリートークデーに合わせて実施。 みんなで楽しむおしゃべり鑑賞会 ～美術館でアートを見よう～(知的障がいのある方を対象とした鑑賞会) 主催：広島県、広島大学、広島県立美術館、広島県アートサポートセンター、 講師：森万由子(当館学芸員)	2月24日(10:30～)
		(12名)	第4期(対面) ※フリートークデーに合わせて実施。 共催：HACH(Hiroshima Arts&City Hive)、講師：片島蘭(広島市立大学非常勤特任教員)、森万由子(当館学芸員)	2月24日(15:00～)
		(3名)	第4期(対面) 講師：岡地智子(当館主任学芸員)、森万由子(当館学芸員)	3月16日(15:00～)
	ワークショップ			
		26名	所蔵作品展	
		(9名)	「スザニ刺繍のつけ襟を作ろう」 講師：福田浩子(当館学芸課長)、岡地智子(当館主任学芸員)	10月7日(13:30～)
		(9名)	「スザニ刺繍のつけ襟を作ろう」(オンライン併用) 講師：福田浩子(当館学芸課長)、岡地智子(当館主任学芸員)	10月14日(13:30～)
		(8名)	「スザニ刺繍のつけ襟を作ろう」 講師：福田浩子(当館学芸課長)、岡地智子(当館主任学芸員)	11月11日(13:30～)
	コンサート			
		350名	おいしいボタニカル・アート展	
		(350名)	森本ケンタTRIOロビーコンサート 音の実 演奏者：森本ケンタ(ギター)、森川泰介(パーカッション)、川岡光一(チェロ)	11月4日(15:00～)
	実演			
		120名	川瀬巴水展	
		(120名)	新版画の摺りの実演 摺師：渡辺英次 解説：渡邊章一郎	4月23日(13:30～)

事業名		事業内容	実施期間
特別鑑賞会	73名		
	37名	川瀬巴水展 講師：角田新(当館主任学芸員)	4月12日(16:30～)
	36名	おいしいボタニカル・アート展 講師：山下寿水(当館主任学芸員)	10月6日(17:00～)
	ベビーカーツアー 6名	フリートーキングデー(フリートークデー)に合わせて実施。	
	中止	講師：福田浩子(当館学芸課長)	7月24日(9:30～)
	(6名)	講師：福田浩子(当館学芸課長)	12月9日(10:30～)
児童・生徒	中止	講師：山下寿水(当館主任学芸員)	2月24日(10:00～)
	ワークシートの作成	所蔵作品を鑑賞する児童・生徒に対し、学習補助教材として主要作品のワークシートを提供した。(現在342種)	
	ワークショップ		
	19名	所蔵作品展 縮景園連携	
	(11名)	作家とめぐるワークショップ 「2000年後へタイムスリップ！いまのモノを化石にしよう！」 講師：柴川敏之(本展出品作家、就実短期大学教授)	8月10日(13:00～)
手で見る展覧会	(8名)	作家とめぐるワークショップ 「今日(きょう)の縮景園記」 講師：菅亮平(本展出品作家、広島市立大学講師)	8月12日(10:00～)
		縮景園の「梅実収穫行事」に併せ、特別支援学校(視覚障害)の児童・生徒が作品に直接触れて美術を鑑賞する機会を提供した。	5月30日
各種リーフレット作成		施設案内、年間スケジュール等の美術館の活動について、広く県民へ告知した。	
友の会ギャラリーガイド		県立美術館友の会のボランティアのギャラリーガイドにより所蔵作品展の解説をした。	5月1日より実施
(一般ガイド) 563名 (団体ガイド) 39名		火～金曜日の14:00から実施(土・日・祝日は11:00からも実施)	
展示施設等貸出		展示施設等(県民ギャラリー・講堂)を貸出することにより、生涯学習の発表の場及び機会を提供し、県民の創作活動を支援した。	
観覧者等	91,923名	県民ギャラリー 利用団体数 85団体、利用日数 510延日 講堂(県民ギャラリー全室利用に併せ、展示室として利用)	令和5年4月3日 ～令和6年4月1日
	利用者	講堂 利用団体数 67団体、利用日数 74延日	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日

V 業務一覧

広島県立美術館学芸員が令和5年度に行なった業務を報告する。内容は、1 美術館内での業務等(館主体事業)、2 美術館外での業務等(他からの招聘等)、3 調査・研究活動、4 社会貢献活動等・その他、に分類・配列し、記載している。学芸課職員の構成及び担当分野は次のとおり。

福田 浩子(学芸課長、工芸)	角田 新(主任学芸員、日本洋画)
藤崎 綾(主任学芸員、日本洋画)	神内 有理(主任学芸員、日本画)
山下 寿水(主任学芸員、西洋美術)	隅川 明宏(主任学芸員、日本画)
岡地 智子(主任学芸員、工芸)	森 万由子(学芸員、西洋美術)

■ 福田 浩子

1 美術館内での業務等

【展覧会】

- ・特別展「川瀬巴水 旅と郷愁の風景」(事務局長)
- ・特別展「魔法の美術館 光と遊ぶ超体験型ミュージアム」(事務局長)
- ・特別展「おいしいボタニカル・アート 食を彩る植物のものがたり」(事務局長)
- ・所蔵作品展 第1～4期(全体チェック、工芸副担当)

【教育支援(教育普及)】

- ・所蔵作品展第1期対話によるギャラリートーク(7/1)
- ・所蔵作品展第3期友の会ギャラリーガイドレクチャー(8/5)
- ・〃〃〃 りレートーク(9/22)
- ・〃〃〃 ワークショップ「スザニ刺繍のつけ襟を作ろう」(10/7、14、11/11)
- ・〃〃〃 インスタライブ(10/10)
- ・〃〃〃 ベビーカーツアー案内役(12/9)
- ・所蔵作品展第4期対話によるギャラリートーク(2/10)
- ・手で見る展覧会(5/30)
- ・博物館実習「講座 美術館と学芸活動」(8/21)、「作品取扱実習(工芸)」(8/24)
- ・中学生職場体験(1/23)

【その他】

- ・アートと共生に関する調査および施策一体型プロジェクト(広島県、広島大学、広島県アートサポートセンター、当館)への協力
- ・ナイトミュージアムプログラム構築協力(広島県観光連盟、エクスペリサス(株)、指定管理者、当館)
- ・オリジナルミュージアムグッズ開発支援(指定管理者)
- ・G7広島サミット対応
- ・ARフォトフレーム作成(総務課 岡田準子事務従事員と共同作成 おいしいボタニカル・アート展、所蔵作品展第1期2種、3期、4期)
- ・染織作品展示方法指導(1/26)
- ・博物館登録実地調査対応(1/19)

2 美術館外での業務等

【館外での発表など】

- ・学生インタビュー対応(Art Center College of Design, California, USA)

- ・ インスタライブ(1/30、2/13、3/5、26)
- ・ 手で見る展覧会(5/30)
- ・ 博物館実習(主担当8/21-25)、「講座 美術館の展示環境・展示手法」、「作品取扱実習(日本洋画)」(8/24)

【広報活動】

- ・ 特別展「川瀬巴水」テレビ対応(4/11広島テレビ、5/30NHK)
- ・ ラジオ対応(4/26FMおのみち、5/2FMふくやま、FMはつかいち)

2 美術館外での業務等

- ・ 『美術ひろしま』編集委員

3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・ 菅井汲作品調査(4/20、5/24、6/14)
- ・ 地域美術研究・作品調査 廣田堅(6/15、7/28)、金城一國齊(7/13)、名柄正之(7/27)、高橋秀(8/17、10/12、27、3/12、20)、中丸雪生(9/15)、山路商(10/19)、小林千古(2/17)
- ・ 版画作品調査(9/8)

【館外出版物への執筆】

- ・ 「川瀬巴水(展覧会紹介)」『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第102号、広島県立美術館友の会、令和5年4月
- ・ 特別展「川瀬巴水」展覧会紹介(『月刊経済春秋』5月号)
- ・ 所蔵作品展第4期「コレクションフォーカス 美術館のプロフィール」展覧会紹介(『経済春秋』1月号、3月号)

4 社会貢献活動等・その他

【研修・自己啓発】

- ・ 広島県美術館ネットワーク令和5年度研修会(10/3広島市現代美術館)
- ・ 広島県美術館ネットワーク令和5年度特別事業(2/26ひろしま美術館)

■ 藤崎 綾

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・ 特別展「魔法の美術館 光と遊ぶ超体験型ミュージアム」(副担当)
- ・ 特別展「金曜ロードショーとジブリ展」(次年度・主担当)
- ・ 所蔵作品展 第1期、第3期(日本洋画担当)

【教育支援(教育普及)】

- ・ 所蔵作品展第1期インスタライブ(6/6)
- ・ リレートーク(6/23)
- ・ 所蔵作品展第3期友の会ギャラリーガイドレクチャー(8/5)
- ・ リレートーク(9/22)
- ・ インスタライブ(9/26)
- ・ 令和6年度所蔵作品展第1期友の会ギャラリーガイドレクチャー(3/23)
- ・ 手で見る展覧会(5/30)
- ・ 博物館実習「作品取扱実習(日本洋画)」(8/23)

【広報活動】

- ・ 所蔵作品展第1期(『中国新聞』5/13)

2 美術館外での業務等

【講座・講演・シンポジウム等】

- ・出張講座「絵画に見る時代や歴史」(7/29広島大学医学部 産科婦人科学同門会、10/17岩国市公民館、1/30廿日市市串戸市民センター)

3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・菅井汲作品調査(4/20、5/24、6/14)
- ・地域美術研究・作品調査 名柄正之(7/27)、高橋秀(8/17、3/12、20)、中丸雪生(6/10、9/15)、南薫造(9/23、3/28)、山路商(9/28)、秦森康屯(11/10)、小林千古(2/17)
- ・版画作品調査(9/8)

【館外出版物への執筆】

- ・「展覧会レビュー 特別展『コレクションの20世紀』名古屋市美術館」『REAR』(芸術批評誌)50号(令和5年12月号)
- ・「所蔵作品紹介 土屋幸夫」『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第102号、広島県立美術館友の会、令和5年4月
- ・「所蔵作品紹介 岡部繁夫」『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第104号、広島県立美術館友の会、令和5年10月

4 社会貢献活動等・その他

- ・公益社団法人青少年育成広島県民会議・図画審査(10/2)
- ・全国美術館会議・幹事会(12/7)

【所属学会・審査員等】

- ・全国美術館会議 地域美術研究部会幹事 総会・第15回地域美術研究部会出席(5/25-26愛知県美術館・名古屋市美術館)、第16回地域美術研究部会出席(2/21-22上田市立美術館・東御市梅野記念絵画館)、部会長・幹事打合せ(5/26名古屋市美術館、2/8オンライン)、その他活動打合せ(3/27)
- ・公益社団法人青少年育成広島県民会議・図画審査(10/5)

【研修・自己啓発】

- ・広島県美術館ネットワーク令和5年度研修会(10/3広島市現代美術館)
- ・広島県美術館ネットワーク令和5年度特別事業(2/26ひろしま美術館)
- ・日本博物館協会 令和5年度第2回研究協議会「これからの『対話と連携の博物館』」1 博物館と図書館 ML (A)連携の可能性(3/6オンライン参加)

■ 神内 有理

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・特別展「川瀬巴水 旅と郷愁の風景」(副担当)
- ・特別展「近代日本画の真髄 児玉希望-千変万化、驚異の筆力展」(次年度・主担当)
- ・所蔵作品展 第1期、第4期(日本画担当)

【教育支援(教育普及)】

- ・所蔵作品展第1期インスタライブ(6/13)
- ・「リレートーク」(6/23)
- ・所蔵作品展第4期友の会ギャラリーガイドレクチャー(12/2)
- ・「リレートーク」(1/19)
- ・「インスタライブ」(3/26)
- ・手で見える展覧会(5/30)
- ・博物館実習「作品取扱実習(日本画)」(8/23)

2 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・所蔵作家調査：児玉希望(8/28、9/28、10/1、11/22、29、12/15、21、22、1/26、2/8、20、27、3/1、5、

2 美術館外での業務等

【講座・講演・シンポジウム等】

- ・出張講座「「おいしいボタニカル・アート展」を楽しむためのものがたり」(9/21廿日市市平良市民センター、10/17叡啓大学)
- ・「ひろしまアートさんぽ～入門編～③」案内人(5/7、Hiroshima Art Galleries Week関連イベント)
- ・シンポジウム「リ/フレーミング——美術における「フレーム」の再考」司会・進行(8/19「広島芸術学会第37回大会」、広島県立美術館講堂)
- ・映画「ウェルカム・トゥ・ダリ」前説(11/11、サロンシネマ)
- ・講演会「能を観る一御所人形を切口として」講師(1/27下瀬美術館「開館一周年記念 下瀬美術館のひな祭り」展関連イベント)

3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・サルバドール・ダリに係る調査・研究出張(10/19、3/7-8)

【館外出版物への執筆】

- ・特別展「おいしいボタニカル・アート」新聞寄稿(10/19『中国新聞』)、作品紹介(①10/31⑦11/9⑨11/14『中国新聞』)、事業ガイド記事(11/10『中国新聞』)
- ・「おいしいボタニカル・アート(展覧会紹介)」、『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第104号、広島県立美術館友の会、令和5年10月
- ・「身の丈の絵画——生きられた家」『寺林武洋展-LIFE-』図録(下山芸術の森発電所美術館〔会期：令和5年10月21日～令和6年3月20日〕)、令和6年3月

4 社会貢献活動等

【所属学会、外部委員、審査員など】

- ・広島芸術学会 委員
- ・日本展示学会
- ・ICOM(国際博物館会議)
- ・第73回三原市美術展覧会 写真部門審査員(12/2 審査、講評執筆 展覧会：12/8-17、三原リージョンプラザ)
- ・第36回東広島市美術展 写真部門審査員(12/4 審査、講評執筆 展覧会：1/13-28、東広島市立美術館)
- ・広島市立大学 博物館資料論 講師(12/18)

【研修・自己啓発】

- ・令和5年度東京藝術大学キュレーション教育研究センター公開授業「現代美術キュレーション概論」修了

■ 隅川 明宏

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・特別展「第11回新県美展(第75回広島県美術展)」(主担当)
- ・所蔵作品展 第2期、第3期(日本画担当)

【教育支援(教育普及)】

- ・所蔵作品展第2期友の会ギャラリーガイドレクチャー(6/3)
- ・ ♪ リレートーク(7/14)
- ・ ♪ インスタライブ(8/1)
- ・所蔵作品展第3期友の会ギャラリーガイドレクチャー(8/5)
- ・ ♪ リレートーク(9/22)
- ・ ♪ インスタライブ(10/3)
- ・手で見える展覧会(5/30)

- ・博物館実習「作品取扱実習(日本画)」(8/23)

2 美術館外での業務等

【講座・講演・シンポジウム等】

- ・出張講座「名勝縮景園の歴史と美意識」(9/25口田公民館、1/18瀬野公民館)

3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・広島近世・近代美術に関する調査研究

【館内出版物への執筆】

- ・(分担執筆)『広島県立美術館・縮景園連携展示 (大名庭園+美術館)×現代アート=記憶の庭 菅亮平・柴川敏之とめぐる』パンフレット、令和5年7月
- ・(分担執筆)『広島県立美術館 ジュニア鑑賞ガイドブック 児玉希望 伝統と革新の日本画家』、令和6年3月
- ・「寛政・享和期における岡岷山の山水画」『広島県立美術館研究紀要』第27号、令和6年3月

【館外出版物への執筆】

- ・「表紙作品解説 橋本雅邦《龍虎争気》」『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第103号、広島県立美術館友の会、令和5年7月

4 社会貢献活動等・その他

【所属学会】

- ・広島芸術学会委員

■ 岡地 智子

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・特別展「第11回新県美展(第75回広島県美術展)」(副担当)
- ・所蔵作品展 第1～4期(工芸担当)

【教育支援(教育普及)】

- ・所蔵作品展第1期対話によるギャラリートーク(6/17、7/1)
- ・「」リレートーク(6/23)
- ・「」インスタライブ(6/27)
- ・所蔵作品展第2期リレートーク(7/14)
- ・「」対話によるギャラリートーク(7/24、9/9)
- ・「」インスタライブ(7/25)
- ・所蔵作品展第3期ワークショップ「スザニ刺繍のつけ襟を作ろう」(10/7、14、11/11)
- ・「」対話によるギャラリートーク(10/28、11/23)
- ・所蔵作品展第4期友の会ギャラリーガイドレクチャー(12/2)
- ・「」リレートーク(1/19)
- ・「」対話によるギャラリートーク(2/10、3/16)
- ・「」インスタライブ(3/5)
- ・令和6年度第1期所蔵作品展友の会ギャラリーガイドレクチャー(3/23)
- ・手で見る展覧会(5/30)
- ・博物館実習「作品取扱実習(工芸)」(8/24)

2 美術館外での業務等

【講座・講演・シンポジウム等】

- ・出張講座「海を渡った日本の磁器 伊万里焼」(2/8 広瀬神社)

3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・作家・作品調査(漆工：4/7、6/2、7/6、7、8/16、28、2/25、陶磁：9/7、8、1/22、染織：3/28、伝統工芸：3/6)

【館内出版物への執筆】

- ・(共著)「三代金城一国斎の高盛絵作品に用いられた色材調査— 白色を中心に」、『広島県立美術館研究紀要』第27号、令和6年3月

【館外出版物への執筆】

- ・「表紙作品解説 松田権六《鷺蒔絵棚》」『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第102号、広島県立美術館友の会、令和5年4月
- ・「所蔵作品紹介 熊倉順吉」『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第103号、広島県立美術館友の会、令和5年7月
- ・「第69回日本伝統工芸展広島展報告」『日本工芸会中国支部会報』第29号、令和5年10月

4 社会貢献活動等・その他

【審査委員等】

- ・令和5年度(第24回)広島県献血推進ポスター審査員(事前審査および6/28審査)
- ・グリーンリボンデザイン公募プロジェクト審査(10/4)

【研修・自己啓発】

- ・広島県美術館ネットワーク令和5年度講演会(6/9 広島県立美術館)
- ・文化財保存修復学会第45回大会(6/24 国立民族学博物館)
- ・県・主査級4研修(7/27、28 オンライン)
- ・東洋陶磁学会令和5年度第1回研究会(8/26 オンライン)
- ・広島県美術館ネットワーク令和5年度研修会(10/3 広島市現代美術館)
- ・東洋陶磁学会第50回大会①(11/11、12 オンライン)
- ・広島県美術館ネットワーク令和5年度特別事業(2/26 ひろしま美術館)
- ・全国美術館会議 第38回学芸員研修会(3/7、8 国立新美術館)

【所属学会】

- ・全国美術館会議保存研究部会、文化財保存修復学会、東洋陶磁学会、ICOM(国際博物館会議)

■ 森 万由子

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・特別展「魔法の美術館 光と遊ぶ超体験型ミュージアム」(主担当)
- ・特別展「おいしいボタニカル・アート 食を彩る植物のものがたり」(副担当)
- ・特別展「プルトーニユの光と風」(次年度・主担当)
- ・所蔵作品展 第1期、第4期(西洋美術担当)

【教育支援(教育普及)】

- ・特別展「魔法の美術館」インスタライブ(7/24)
- ・「中国新聞子ども新聞教室」(8/1)
- ・第1期所蔵作品展インスタライブ(5/30)
- ・対話によるギャラリートーク(6/17)
- ・リレートーク(6/23)
- ・第2期所蔵作品展対話型鑑賞(HACHとの共同実施)(7/24)
- ・対話によるギャラリートーク(9/9)

4 社会貢献活動等・その他

【研修・自己啓発】

- ・日仏美術学会 第169回例会、日仏美術学会シンポジウム「21世紀にマティスを再考する：ポリフォニックな視点から」(9/23オンライン)
- ・広島県美術館ネットワーク令和5年度特別事業(2/26ひろしま美術館)
- ・全国美術館会議 第38回学芸員研修会(3/7、8 国立新美術館)
- ・日仏美術学会 第172回例会(3/30オンライン)

【所属学会】

- ・全国美術館会議教育普及研究部会、日仏美術学会、美学会、早稲田大学美術史学会、ICOM(国際博物館会議)

Ⅵ 入館者数一覧

展 覧 会 名		所蔵作品展	特 別 展	
			川瀬巴水 旅と郷愁の風景	魔法の美術館 光と遊ぶ超体験型 ミュージアム
開 催 期 日		R5. 4. 1 ～ R6. 3. 31	R5. 4. 11 ～ R5. 6. 11	R5. 7. 22 ～ R5. 9. 24
開 催 日 数		320 日	59 日	65 日
個 人 (人)	一 般	16,993	4,892	13,665
	高・大 学 生	2,249	188	546
	小・中 学 生	—	82	7,328
	小 計	19,242	5,162	21,539
団 体 (人)	一 般	58	6,747	17,259
	高・大 学 生	—	76	260
	小・中 学 生	—	73	8,518
	小 計	58	6,896	26,037
有料入館者数(人)		19,300	12,058	47,576
招 待 者 等(人)		53,982	2,468	17,992
合 計 (人) (観 覧 者 総 数)		73,282	14,526	65,568
一 日 あ た り 観 覧 者 数(人)		229	246	1,009

(注) 「1日あたり観覧者数は、小数点以下第1位を四捨五入。

所蔵作品展の団体人数には、所蔵作品展と縮景園の共通入館者を含む。

所蔵作品展の「高・大学生」欄は、平成14年度の条例改正の無料化により、高校生を含まない。

所蔵作品展の招待者等には、減免及び無料入館者を含む。(平成14年度の条例改正により無料化した小・中・高校生で内数。)

「第11回新県美展(第75回広島県美術展)」以外の特別展は実行委員会主催。

団体人数には、前売り及び割引入館者を含む。

展 覧 会 名		特 別 展			総 計
		おいしい ボタニカル・アート 食を彩る植物の ものがたり	第11回新県美展 (第75回広島県美術展)	合 計	
開 催 期 日		R5. 10. 6 ～ R5. 11. 26	R5. 12. 16 ～ R6. 1. 8		
開 催 日 数		52 日	16 日	192 日	512 日
個 人 (人)	一 般	6,766	2,411	27,734	44,727
	高・大 学 生	340	162	1,236	3,485
	小・中 学 生	223	—	7,633	7,633
	小 計	7,329	2,573	36,603	55,845
団 体 (人)	一 般	9,360	315	33,681	33,739
	高・大 学 生	244	—	580	580
	小・中 学 生	331	—	8,922	8,922
	小 計	9,935	315	43,183	43,241
有料入館者数(人)		17,264	2,888	79,786	99,086
招 待 者 等(人)		3,677	1,660	25,797	79,779
合 計 (人) (観 覧 者 総 数)		20,941	4,548	105,583	178,865
一 日 あ た り 観 覧 者 数(人)		403	284	550	349

Ⅶ 美術品等収集状況

1 分野別収集美術品数一覧

(令和6年3月31日現在)

種 目		一般購入	基金購入 (H2年度以降)	購入総数	寄 附	所 管 換	合 計	受 託
絵 画	日 本 画	46	60	106	263 (19)	3	372 (19)	15 (2-2)
	油 彩 画	230	62	292	555 (3)	4	851 (3)	205 (0-2)
	水 彩 画	89	4	93	217	0	310	1
	素 描	44	20	64	297	0	361	20
	パステル画 アクリル画	1	0	1	6	0	7	0
	版 画	53	180	233	349	0	582	0
	拓 本	26	0	26	51	0	77	0
	平面造形ほか	3	56	59	3 (1)	0	62 (1)	0
彫 塑		8	23	31	72	0	103	6
工 芸		112	1,184	1,296	354 (8)	4	1,654 (8)	4
書		5	0	5	94 (1)	1	100 (1)	0 (0-1)
美 術 資 料		2	2	4	740 (21)	0	744 (21)	3 (1-0)
合 計		619	1,591	2,210	3,001 (53)	12	5,223 (53)	254 (3-5)

※ () 内は5年度の収集点数。

※受託欄は、左側が受託数、右側が返還数、合計欄は差引数。

2 収集美術品一覧

No.	分類	作者	作品名	制作年	寸法(cm)	材質・技法	取得区分
1	日本画	熊谷直彦	秋景山水図	1909(明治42)	縦170.0×横86.3	絹本墨画淡彩、掛軸	寄附
2	日本画	熊谷直彦	巖島社頭図	1911(明治44)	縦131.7×横56.7×2	絹本彩色、掛軸	寄附
3	日本画	熊谷直彦ほか	呉秀三蒐集書画帖	1889頃1919頃(明治22-大正8)	縦18.0×横13.5	続本貼込み、折帖	寄附
4	日本画	里見雲嶺	竹雀図	1912(明治45)	縦154.1×横352.0×2	紙本墨画淡彩、六曲屏風	寄附
5	日本画	橋本静水	柘榴栗鼠図	1920(大正9)頃	縦142.2×横49.6	絹本彩色、掛軸	寄附
6	日本画	廣田 堅	朝鮮の壺と鍔缶	1953(昭和28)	63.0×45.0	紙本彩色、額装	寄附
7	日本画	廣田 堅	三段峡秋景	1955(昭和30)頃	110.0×84.0	紙本彩色、額装	寄附
8	日本画	廣田 堅	作品	1964(昭和39)頃	101.0×72.5	紙本彩色、額装	寄附
9	日本画	加藤晴彬	春暖	不詳	173.0×70.5	紙本金泥墨画、軸装	寄附
10	日本画	加藤晴彬	山帰来	不詳	46.0×50.5	絹本彩色、軸装	寄附
11	日本画	丸木位里	ひもの	1937(昭和12)	34.7×67.0	紙本墨画、額装	寄附
12	日本画	丸木位里	閑談図	1938(昭和13)頃	66.0×90.5	紙本墨画彩色、額装	寄附
13	日本画	丸木位里	山村図	1940(昭和15)頃	47.5×64.0	紙本墨画彩色、額装	寄附
14	日本画	丸木位里	三段峡	不詳	135.3×34.0	紙本墨画、軸装	寄附
15	日本画	丸木位里	三段峡画賦	1945(昭和20)	各29.5×40.3	紙本墨画、画帖(12図)	寄附
16	日本画	和高節二	牛	1939(昭和14)頃	47.0×54.0	紙本墨画(共箱)	寄附
17	日本画	和高節二	観音	不詳	52.5×59.8	紙本墨画(共箱)	寄附
18	日本画	和高節二	早乙女	1929(昭和4)	212.5×203.2	紙本彩色、二曲屏風	寄附
19	日本画	中丸雪生	朝顔	不詳	46.0×60.0	絹本彩色、軸装	寄附
20	油彩画	中丸雪生	雪景(飯室)	1920(大正9)	23.7×33.0	板油彩、額装	寄附
21	絵画資料	中丸雪生	習作(唐辛子)	1916(大正5)	47.4×67.2	紙本墨画彩色、額装	寄附
22	絵画資料	中丸雪生	習作(クチナシ)	不詳	83.4×86.7	紙本墨画彩色	寄附
23	絵画資料	中丸雪生	スケッチブック	1915-1929頃(大正4-昭和4)	14.3×21.0ほか	鉛筆、水彩ほか	寄附
24	油彩画	船田玉樹	樹葉	不詳	16.3×11.7	ガラス油彩、額装	寄附
25	油彩画	高橋 秀	路	1992(平成4)	220.0×386.0	エナメル、画布	寄附
26	絵画資料	鬨光	風景	不詳	24.1×27.1	紙本彩色	寄附
27	絵画資料	鬨光	帯絵(船と鳥)	不詳	30.0×327.5	油彩、絹布	寄附
28	絵画資料		中丸雪生関連資料—中丸雪生宛書簡類				寄附
29	絵画資料		中丸雪生関連資料—中丸雪生関係資料				寄附
30	絵画資料		中丸雪生関連資料—印章等				寄附
31	絵画資料		中丸雪生関連資料—その他資料				寄附
32	平面造形	赤瀬川原平	大日本零円札	1967(昭和42)	14.4×30.8	印刷、紙	寄附
33	書跡	頼聿庵	東行十二首	1831(天保2)以後	縦173.2×横398.4×2	紙本墨書、六曲屏風	寄附
34	陶磁	今井政之	象嵌彩窯変 海老 花瓶	2023(令和5)	高23.5 径14.0	陶器	寄附
35	漆工	三代金城一國斎	葡萄に蜂高盛絵香筒	不詳	長37.8 径2.8	木、漆、高盛絵(堆彩漆)	寄附
36	漆工	三代金城一國斎	葡萄に蜂高盛絵香筒	不詳	長39.4 径2.8	木、漆、高盛絵(堆彩漆)	寄附
37	漆工	三代金城一國斎	水草に鷺高盛絵香筒	不詳	長37.3 径2.5	木、漆、高盛絵(堆彩漆)	寄附
38	漆工	三代金城一國斎	薔薇に蝶高盛絵香筒	不詳	長36.0 径2.8	木、漆、高盛絵(堆彩漆)	寄附
39	漆工	廣斎	堆漆蒔絵四季草花之図机	1924(大正13)	高35.0 62.0×97.8	木、漆、高盛絵(堆彩漆)	寄附
40	染織	渡辺溥子	紬織着物「網代文」	1973(昭和48)	桁65.0 丈163	絹	寄附
41	染織	渡辺溥子	紬織着物「華」	1980(昭和55)	桁66.0 丈165.5	絹	寄附
42	工芸資料	渡辺溥子	紬織着物「網代文」関連の緋見本	1973(昭和48)	29.7×41.8	絹、紙	寄附
43	工芸資料	渡辺溥子	紬織着物「網代文」の下図	1973(昭和48)	38.5×38.5	紙	寄附
44	工芸資料	渡辺溥子	紬織着物「網代文」の下図	1973(昭和48)	38.5×55.0	紙	寄附
45	工芸資料	渡辺溥子	紬織着物「華」の下図	1980(昭和55)	38.3×53.5	紙	寄附
46	工芸資料	渡辺溥子	紬織着物「華」の下図	1980(昭和55)	23.5×38.5	紙	寄附
47	工芸資料	渡辺溥子	紬織着物「華」の下図	1980(昭和55)	23.5×38.5	紙	寄附
48	工芸資料		繭			繭	寄附
49	工芸資料		生糸(未精練)			生糸(未精練)	寄附
50	工芸資料		天蚕糸			天蚕糸	寄附
51	工芸資料		紬糸			紬糸	寄附
52	工芸資料		袋真綿			袋真綿、福島県産	寄附
53	工芸資料		天然染色絹糸見本	1989(平成元)		絹糸	寄附
54	日本画	狩野派	松図	17-18世紀	縦149.8×横343.4	紙本金地彩色、六曲屏風	受託
55	日本画	里見雲嶺	漁樵問答図	1926(大正15)	縦168.0×横363.0×2	紙本金地彩色、六曲屏風	受託
56	絵画資料		中丸雪生関連資料—画稿・絵手本類				受託

3 新規収集美術品より

(1) 熊谷 直彦《秋景山水図》《厳島社頭図》《呉秀三蒐集書画帖》

熊谷直彦(くまがい なおひこ 文政11年－大正2年 1828－1913)は京都出身の広島藩士。四条派の画技を身に付け、真景の写生、古画の研究を尽くし、また人物画では衣紋の研究を尽くした。明治期には旧藩主浅野家に仕えて、画家としては日本美術協会展覧会など国内外の展覧会に作品発表を行った。

《秋景山水図》は夕刻、漁を終えた人物が田家に帰る様子で、水に濡れた岩肌、霧に覆われた森の影、なだらかな丘陵の稜線、月明りなどの情景が大画面に広がる。点苔を多用して湿潤な山水風景を描く手法に画家の特色が表れている。

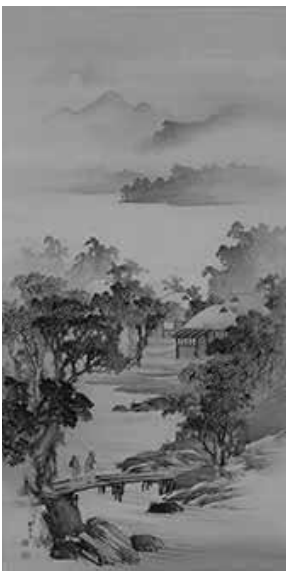
[落款] 八十二叟 熊直彦「熊谷直彦」(白文方印2.0×2.0)「篤雅」(朱文方印2.3×2.3)

《厳島社頭図》は離合形式の双幅にそれぞれ素木の大鳥居と社殿を描き、緑青の濃い点苔で彩ったもの。厳島神社の丹塗りは明治41(1908)年に起工し、社殿は明治42(1909)年、大鳥居は明治44(1911)年2月に竣工している。実際に即した景観とは異なっており、丹塗りに対する当時の反応の一端を示している可能性がある。

[落款] 八十四翁 熊直彦「直彦」(朱文長方印2.1×1.1)「松林間窓主人」(白文方印2.3×2.3)

《呉秀三蒐集書画帖》は全36面に31葉の続本を貼り込んだ書画帖で、各画面の寸法は縦11.0×横9.0(cm)程度、年紀は約30年間にわたる。この1面に熊谷直彦があり、雨中の田家が描かれている。ほかの面には三島中洲、細川潤次郎、狩野友信、川端玉章、橋本雅邦、野口小蘗、股野琢、野村文挙、永坂石埭、原在泉、幸野楳嶺、小牧昌業、滝和亭、蒲生重章、森寛斎、内海吉堂などの落款が見える。

以上の3点は呉市ゆかりで「日本の精神医学の父」呉秀三(1865-1932)の旧蔵品。秀三は画家の狩野友信に手ほどきを受け、同郷の縁で熊谷直彦の作品を好んで求めた。書画帖では秀三と画家、文筆家、学者らの交流が垣間見え、明治から大正期における書画の楽しみ方も伝わってくる。



No.1 熊谷 直彦《秋景山水図》



No.2 熊谷 直彦《厳島社頭図》



No.3 熊谷 直彦《呉秀三蒐集書画帖》

(2) 里見 雲嶺《竹雀図》

里見雲嶺(さとみ うんれい 嘉永2年－昭和3年 1849－1928)は幕末時、広島で中井泰嶺、大坂で西山芳園に師事し、四条派の画技を身に付け、明治のはじめに帰広して絵師で俳人の山縣二承に私淑した。明治・大正期の広島では富裕な町人らの庇護を手厚く受け、在地画家の代表格として知られる。

《竹雀図》は夏の若竹、冬の雪竹を配した六曲屏風。右隻に若竹や下草を着色で、左隻に冠雪を淡墨の外暈しで描き、余白を活かした湿潤な空間に爽やかな晴れ間も感じさせ、百羽を超える雀の群れ遊ぶ様子を表現する。江戸時代後期に組織された広島俳諧結社六呂堂で大正8(1919)年、四世宗匠を立机(襲名)した枝鳳(1875-1937)の旧蔵。

〔落款〕右隻：雲嶺「里見義陵」(白文方印)「雲陰(嶺)」(朱文方印)
左隻：明治壬子初夏寫 雲嶺「里見義陵」(白文方印)「雲陰(嶺)」(朱文方印)



No.4 里見 雲嶺《竹雀図》

(3) 橋本 静水《柘榴栗鼠図》

橋本静水(はしもと せいすい 明治9年-昭和18年 1876-1943)は、尾道出身。東京美術学校に進学し、岡倉天心の校長罷免に際して退学し、橋本雅邦に付き従った。雅邦門下では二葉会幹事を務め、再興院展では同人に推挙される。画業初期には山水画、再興院展では花鳥画や人物画を中心に、作品を発表した。

《柘榴栗鼠図》は、屈曲し交差する幹や枝に大振りの果実を实らせた柘榴に栗鼠が遊び、桔梗を見返す一瞬を描いている。花卉の朦朧とした表現は、再興院展出品作で第7回展《猿沢の池》(1920)、第8回展《四季》(1921)、第9回展《豊公》(1922)などにつながる。また落款の書体、用印は第9回展の折、皇太子に献上された画帖『慶雲餘彩』所収の《芙蓉》に同系であるが、その描写精度の比較から、大正9(1920)年に横山大観より譲り受けた屋敷で自然観察に立ち返るなか、中国宋元画を規範に新たな作風を試みた作品と推定しておく。呉市ゆかりで「日本の精神医学の父」呉秀三(1865-1932)の旧蔵。

〔落款〕静水「静水印」(白文方印2.9×1.8)



No.5 橋本 静水《柘榴栗鼠図》

(4) 廣田 堅《朝鮮の壺と鍔缶》《三段峡秋景》《作品》

廣田堅(ひろた けん 明治43年-昭和43年 1910-1968)は現在の山口市秋穂出身。本名稔。別号に麦人、桑丘、盛。広島の修道中学校卒業後、昭和初年代に広島市内に商業デザインの工房を開く一方、山路商や巖光や野村守夫らと親交し、洋画を志す。昭和10年代に日本画に転向し、日本南画院で小室翠雲やその弟子、白倉嘉入に師事。戦後は創造美術や新制作協会・日本画部に所属。広島県美術展では度々審査員を務めた。

《朝鮮の壺と鍔缶》は、油彩画を思わせる濃密な表現で、作者が日本画を学ぶ前に手掛けていた洋画を思わせる。わずかな色の組み合わせながら、逆L字型に黒く塗られた底面と壁面に対する壺の緑と背景の黄土色が印象的で、デザイン的な構構力が感じられる。

《三段峡秋景》は、国の特別名勝・三段峡の景色を俯瞰した視点から、やや抽象化して描いたもの。

モノトーンで抑えられた中に、二羽の鷺の白が画面のアクセントとなっている。県美展40年のあゆみ展(1988)出品作。

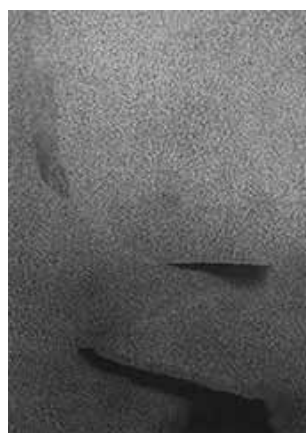
《作品》は、全体が抽象化されているため、描かれている対象は定かではないが、濃墨の部分は海や湖、流れゆく川のようにも見え、全体の点描はその間を漂う湿潤な大気のようにも感じられる。戦後の水墨画による抽象的表現は、兄玉希望が昭和34(1959)年頃から取り組んだことが先行例として知られているが、本作も早い時期の試みといえる。



No. 6 廣田 堅《朝鮮の壺と鎗缶》



No. 7 廣田 堅《三段峡秋景》



No. 8 廣田 堅《作品》

(5) 加藤 晴彬《春暖》《山归来》

加藤晴彬(かとう せいひん 明治21年－昭和17年 1888－1942)は広島市出身。本名愛智。別号に南山、松雨、紫雨、竹華道人などがある。里見雲嶺、寺尾鶯仙らに師事して四条派を学んだ後、京都に出て、竹内栖鳳の竹丈会で学ぶ。明治37(1904)年以降は、全国絵画共進会、日本美術協会、巽画会展、帝展に出品を重ねる。また、広陵美術会幹事、広島県美術協会の起草委員等を歴任。花鳥画を得意とした。

《春暖》は、梅の花と菜の花が咲き乱れる穏やかな春の情景を描く。木の枝を写実的に描くのに対し、花の描写では輪郭線よりもやや大きく淡い色を塗ることで、柔らかな光の表現に成功している。大正時代に流行した細密描写の影響が感じられる作品。

《山归来》は、穏やかな色調で秋の景色を描く。シンプルな描写ながら、写実性と装飾性を組み合わせた構成は複雑で、作者の確かな力量が感じられる。

加藤晴彬については、これまでに作品の現存確認がなく、帝展出品作の画像から作風を推測するのみだが、両作ともに写実性を元にする京都画壇の作家らしい花鳥画といえる。

本作品は、中丸雪生が旧蔵していたもの。雪生は加藤晴彬に師事して日本画を学んだ他、残された書簡によれば加藤の帝展出品に際して金銭面でも支援を行い、そのお礼として作品を送られることもあった。本作もそのような経緯で雪生に送られた可能性がある。

以下、(6)～(9)、(11)、(12)(※(8)(12)については一部のみ)は、「広島に芸術の種をまいた人 中丸雪生と交友の画家たち」展(泉美術館、2023年4月22日～6月11日)で初公開された。



No. 9 加藤 晴彬《春暖》



No. 10 加藤 晴彬《山归来》

(6) 丸木 位里の日本画作品

丸木位里(まるき いり 明治34年－平成7年 1901－1995)は、広島県安佐郡飯室村に生まれ、大正12(1923)年に上京して田中頼璋に師事するも、旧態依然とした制作姿勢に反発。日本南画院展・青龍社展などへの出品、歷程美術協会への参加で水墨画の新しい表現を模索。昭和20(1945)年には、原爆投下後に帰省し、約1か月、救援活動を行う。終戦から5年後、戦後の米軍占領下、原爆被害の報道が厳しい検閲を受けていた時期に原爆の惨禍をテーマにした《原爆の図》を妻の丸木俊(赤松俊子)とともに描き、同シリーズは昭和27(1952)年に国際文化平和賞受賞。アウシュビッツなどの反戦テーマの作品も描く。

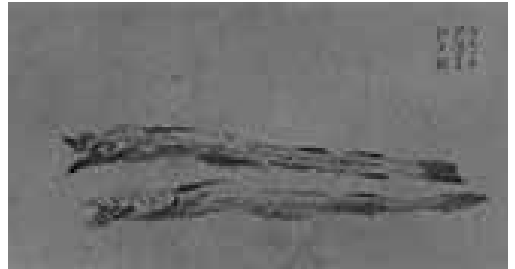
《ひもの》は、墨の濃淡により、対象のかさついた質感を表現している。なお、友人の鬚光も昭和18(1943)年に干物のみを描いた静物画を描いている。

《閑談図》は、即興的な筆遣いによって、山中の溪流近くで閑談する3人を描く。墨で全体の形や岩肌を表し、その上から花や草木、川の部分に大胆に色を付すことで、伝統的な文人画の画題を近代的な創意で仕上げている。ほとぼしするような筆遣いが自然のもつ生命感と、春に友と語り合う人々のうきうきとした喜びを伝えている。

《山村図》、即興的な筆遣いながら、墨の濃淡で細やかなニュアンスを描き分け、月に照らされた山村の景色の空気感を伝える。伝統的な山水画の形式に倣うのではなく、その景色に対峙した自らの思いで描いたものだろう。

《三段峡》は、位里が好んだ広島景勝地・三段峡を描いたもの。図形的な形を重ねて、峻厳な山々の連なりを強調しつつ、点描表現によって山水画らしい生動を生んでいる。

《三段峡画賦》は、峡谷内の十二の景を描いたもので、最後の頁には「描於中丸雅兄宅後二年加筆 之成 昭和に樹年夏日 位里」あることから、中丸家で描き始めたことがわかる。



No. 11 丸木 位里《ひもの》



No. 12 丸木 位里《閑談図》



No. 13 丸木 位里《山村図》

(7) 和高 節二《牛》《観音》《早乙女》

和高節二(わだか せつじ 明治31年－平成2年 1898－1990)は、広島県に生まれ、川端画学校や日本美術学院に短期間学んだほかは、一貫して郷里で創作を続けた。特定のグループに属することなく、昭和初期から日展や院展など、さまざまな展覧会に佳作を発表。昭和15(1940)年の紀元二千六百年奉祝展覧会で《牡牛》が最高賞を受賞したことで一躍脚光を浴びた。戦後も郷里で創作活動を続け、広島美術界にも大きく貢献した。

《牛》は、「牛の画家」とも呼ばれる作者の得意画題を描いたもの。作者から支援者・中丸雪生に宛てたハガキに、「牛の絵承知いたしました。いい牛を描きましょう」(1939年6月28日消印)とあることから、雪生からの依頼により描かれたと考えられる。墨一色で描かれた牛の姿は、作者が同年の第26回院展に出品した《仔牛と村女》(当館蔵)に近似しつつ、よりそぎ落とした静かな牛の佇まいには、深い思索の跡が感じられる。

《観音》は、作者には珍しい画題を柔らかで簡潔な白描表現によって描いたもの。画中に「焚香拝写 凡愚節二」とあり、制作に向かった作者の敬虔な心持が記されている。

《早乙女》は、第10回帝展で初入選を果たした作者の記念的作品。後年作者は、自身の代表作を問われた時、紀元二千六百年奉祝展覧会最高賞受賞作の《牡牛》(1940年／当館蔵)と《売られゆく仔牛》(1961年／当館蔵)とともに本作を挙げている。簡素な構成と丁寧な線描、賦彩が施された清新な画面となっている。二人の顔が似通っているのは、農村美の様式を生み出そうとした作者の創意に基づく。親交のあった土田麦僊《大原女》(1915年、山種美術館)からの影響も感じられる。



No. 16 和高 節二《牛》



No. 17 和高 節二《観音》



No. 18 和高 節二《早乙女》

(8) 中丸 雪生の絵画作品および絵画資料

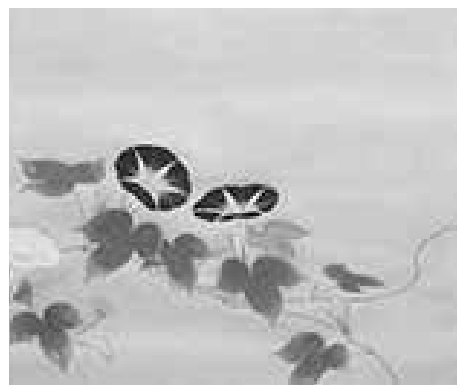
中丸雪生(なかもる せっせい 明治26年－昭和43年 1893－1968)は広島市安佐町飯室出身。本名雪一。中学生の頃から絵に関心を持ち、始めは洋画を、大正2(1913)年からは日本画に転向し、京都で活躍する広島出身の日本画家・加藤晴彬や内畠暁園らに学ぶ。昭和6(1931)年、父の逝去を契機に画家を断念。以後は家業に専念しつつ、生涯を通じて多くの芸術家と交流し、物心両面からその活動を支えた。

《朝顔》は、遺族の家に伝わる、作者唯一の日本画作品。竹内栖鳳に学んだ師・加藤晴彬の作風に準じ、朝顔の姿を写実的に描く。すっきりとした花の描写に対し、葉の輪郭を曖昧にすることで、花の鮮やかさを際立たせている。落款印章はなく、また一部修正の跡もあり、習作的な位置づけの作品だと思われる。

《雪景(飯室)》は、作者の稀少な油彩画の現存作である。自筆の年譜によると、日本画に転向後7年近くを経た時期の作であるが、雪が生み出すほの明るさや冷たい空気感などを明快に伝えている。裏面には「大九、十二、三十一、イムロ、」の書込みがあり、当時滞在していた東京から帰省した際の作と考えられる。作者の自宅近くの景である。

習作は作者の手元に残った膨大な写生画のうちの2点。丁寧な筆遣いに作者の修学の跡がうかがえる。

スケッチブックは、6冊と、表紙等もなく紙葉だけが残るものをまとめて1件とした全7件。画中の年記によれば、1915～



No. 19 中丸 雪生《朝顔》



No. 20 中丸 雪生《雪景(飯室)》

16年の中国や1917年頃の大阪滞在をはじめ、大正期を中心に使用したものと思われる。卓越した描写力が見られるわけではないものの、市井の人々の生活を丹念に描いた中国風景など、当時の記録としても意義があり興味深い。

(9) 船田 玉樹《樹葉》

船田玉樹(ふなだ ぎょくじゅ 大正元年－平成3年 1912－1991)は広島県呉市出身。東京で速水御舟に入門し、その没後は小林古徑に師事。昭和13(1938)年に歷程美術協会を山岡良文、岩橋英遠らと結成した(翌年脱退)。その後、同郷の丸木位里との二人展、岩橋英遠を交えての三人展などで革新的な絵画表現を追求。戦後は郷里に戻り、院展や新興美術院展に作品を発表、のち無所属となり、装飾性豊かな花鳥画、水墨、さらにはガラス絵など、幅広い創作活動を展開した。

《樹葉》は、作者が62歳でくも膜下出血で倒れた後、リハビリを兼ねて手掛けた一連のガラス絵作品の中の一点。「ガラス絵には濁りがない。描き手に見えないのもよい」と作者は語っており、ガラス絵ならではの特性を生かし、色を複雑に重ねることによって紅葉の色彩表現が試みられている。



No. 24 船田 玉樹《樹葉》

(10) 高橋 秀《路》

高橋秀(たかはし しゅう 昭和5年－ 1930－)は現在の広島県福山市出身。画業初期には抒情的な風景や静物を描き、主に独立展に出品。昭和36(1961)年の安井賞受賞を経て、昭和38(1963)年にイタリアに渡り、豊かで開放的な色彩と明快な形態を用いて生命やエロスに満ちた独特の抽象作品を生み出し、ヴェネツィア・ビエンナーレなどで国際的に活躍した。1990年代後半からは、金・銀の箔を用いた装飾的表現などに独自の琳派解釈を感じさせる日本の作品を制作するとともに、倉敷芸術科学大学で後進を指導。平成16(2004)年にローマから倉敷に転居した後は、「秀桜基金留学賞」や「沙美アートフェスト」を立ち上げるなど、美術の普及発展に貢献したことも知られている。

《路》は広島市東区にある宿泊施設「広島教育会館 ホテルチューリッヒ東方2001」に設置されていたもの。披露宴会場としても使用される宴会場に設置するため、作者には屏風装という形式で制作依頼がなされたという。本作の画面は、1980年代半ば頃から1990年代半ば頃まで続く、赤、黒、白の色面構成を基本とするが、中央に金の彩色が施され、慶祝気分を高めるようである。



No. 25 高橋 秀《路》

(11) 鰐光《風景》《帯絵(船と鳥)》

鰐光(あいみつ 明治40年－昭和21年 1907－1946)は、広島県北広島町出身。大正末期から東京で活躍。画業初期にはヨーロッパの前衛的な様式に影響を受けるが、1930年代半ばから独自の画風を展開、東西両洋の絵画に学び、確かな描写力に裏付けられた精神性の高い作品を生み出した。日本近代絵画史

に重要な足跡を残した画家として高く評価されており、昭和63(1988)年、平成13(2001)年、及び生誕100年にあたる平成19(2007)年に、当館で回顧展を開催している。

《風景》は、滲みを生かした大らかな描きぶりに味わいがあり、《帯絵(船と鳥)》は、黒地に南蛮船と鳥を描く。薺光の帯絵は、親族や知人宅などで何本か確認されているが、染色による1本を除き、油絵具で彩色されている。鴨のような鳥や南蛮船のモチーフは他の作品にも類例が見られ、好みの文様であったことが伺われる。



No. 26 薺光《風景》



No. 27 薺光《帯絵(船と鳥)》

(12) 中丸 雪生関連資料

「中丸雪生宛書簡類」は、丸木位里、船田玉樹、和高節二、薺光、佐々木邦彦、神田周三ら、雪生と交流した広島ゆかりの画家から雪生宛に送られたものが大半を占める。

「中丸雪生関係資料」は、本人自筆の年譜や日記、印刷物から切り取った作品のスクラップブックなど、雪生に関する資料。

「印章等」は、29本すべてが雪生の師・加藤晴彬のもの。

「その他資料」には、和高節二の「紀元2600年奉祝日本画大展覧会」入選を伝える新聞記事、「第2回船田玉樹・岩橋英遠・丸木位里3人展」や「第4回展下萌会」の目録といった、作家の出品歴が分かる資料、雪生が選出した故郷の八つの景色を同郷の日本画家・佐々木邦彦(1909-1972)が揮毫した色紙《飯室八景》等、作家との交友に関する資料がある。

「新聞雑誌パンフレット類」は、和高節二《牡牛》の紀元2600年奉祝日本画大展覧会での大賞受賞を伝える新聞や、佐々木邦彦が出品する青龍社展目録、児玉希望が出品する下萌会展目録等。

(13) 赤瀬川 原平《大日本零円札》

赤瀬川原平(あかせがわ げんぺい 昭和12年-平成26年 1937-2014)は、前衛芸術、マンガ、文筆、写真など様々な分野で活動した。前衛芸術グループ「ネオ・ダダイズム・オルガナイザーズ」、続いて「ハイレッド・センター」に加わり、模型千円札や梱包作品を発表、「首都圏清掃整理促進運動」などのパフォーマンスを行う。昭和39(1964)年、「千円札裁判」が開始。1970年代からはマンガや小説を手がけ、「櫻画報」でパロディマンガ家としての地位を確立、尾辻克彦名義で発表した小説「父が消えた」で第84回芥川賞を受賞した。さらにエッセイ『老人力』がベストセラーになるなど文筆業でも話題を集める。1980年代からは、町中にある奇妙な物件などを撮影する「超芸術トマソン」、続いて「路上観察学会」「ライカ同盟」の活動を開始。1990年代には美術史家の山下裕二と「日本美術応援団」を結成、いずれも亡くなる直前まで活動した。

作者は、昭和38(1963)年の第15回読売アンデパンダン展出品作として、当時流通していた千円札の拵

大模写《復讐の形態学(殺す前に相手をよく見る)》を制作。同時期に、個展の案内状に千円札を緑色原寸大で印刷し、現金書留を使って関係者100名ほどに送付した。続くハイレッド・センターによるグループ展「第5次ミキサー計画」(新宿・第一画廊)では、身の回りのものを「模型千円札」で梱包した作品等を発表。同年末、「模型千円札」の印刷を行った印刷所へ警察の取り調べがあったと伝え聞く。昭和39(1964)年1月に、警察の自宅訪問を受け、複数回の任意出頭に応じるが、朝日新聞社による誇大な報道が元となり「通貨及証券模造取締法」違反で起訴されてしまう。昭和41(1966)年より始まる「千円札裁判」の法廷は、アーティスト、美術評論家、美術ジャーナリストらが論陣を張り司法の場で芸術論を争う、日本現代美術史上で特筆すべき事件となった。

この「千円札裁判」の渦中に制作されたのが、《大日本零円札》である。赤瀬川自身によれば、「裁かれる模型千円札からの表現における報復として「零円札」を印刷発行し、日本国の通貨三百円と両替することを宣言、全通貨の回収をはかる。両替のレートは後に五百円となり、その後自然消滅。」(『全面自供!』2001年)。紙幣よりも明らかに大きいサイズの《大日本零円札》は、絶対に法律に抵触する恐れのない順法絵画として制作された。



No. 32 赤瀬川 原平《大日本零円札》

(14) 頼 聿庵《東行十二首》

頼聿庵(らい いつあん 享和元年-安政3年 1801-1856)は頼山陽の長男で、広島藩の儒者。山陽が脱藩(1800年)、廃嫡(1804年)されたことにより、祖父春水のもとで育てられた。書法は幼年より春水や山陽、蘇東坡などに学んで研究し、唐様の雄勁な書風を得意とし、山陽との死別後、酒に溺れるようになった晩年には奔放さを増した書風へと変化していく。

各扇は一紙で、六曲一双に貼り継ぎ、紙幅一杯に力強く広がる筆致が紙面を丁寧に捉えている。線の肥瘦、峰の割れは豪胆で、墨の擦れ、滲みも奔放に行き来するのは作者晩年の書風であろう。したためられた三行七絶の十二首は、天保2(1831)年の聿庵数え31歳のときに江戸詰めのため東行した際の自作である。頼家に通底する端正な字形をベースとした唐様の筆跡で、山陽、聿庵父子の再会も果たされた印象深い旅路の情景が生き生きと表現されている。

釈文は下記のとおりで、十二首のうち九首は「聿庵詩稿」採録、網掛け三首は未採録である(頼山陽史跡資料館主任学芸員、花本哲志氏の協力による)。

(右隻)

〔関防〕「文雅」(朱文長方印2.2×3.9)

[1首]	馬語難聲旭影新	驛／亭楊柳過殘春	十年送／尽東行客	今日還為教送人
[2首]	曾謁先生十九年	重來／不見意凄然	枝々遺愛／何堪折	曉露滿階開杜鵑
[3首]	滿江烟雨□葉舟	□路花／飛酒水流	夢遯篷窓□／生□	春山無花殘城州
[4首]	西來千里到京華	逢着／尊親如到家	侍飲鳧川々／上酒	薰風明日更天涯
[5首]	宿雲在水曉模糊	如此／湖山天下無	它日難忘扶老／父	清和時節過琵琶湖
[6首]	朝起買船發棄名	勢海／波平七里程	此際蓬晝休／就睡	望中一點白山明
[落款]	聿庵舊草「頼協之印」(白文方印2.6×2.6)「承緒父」(白文方印2.6×2.6)			



No. 33 頼 聿庵《東行十二首》

(左隻)

〔関防〕「文雅」(朱文長方印2.2×3.9)

〔1首〕東洋一碧数帆還 由井／蒲原午霧間 于役今年／三十歳 初来薩嶺望蓮山

〔2首〕靈山精里憶諸公 寺下／池蓮依舊紅 百□□／□祀王父 説吾三十一秋風

〔3首〕滿城風雨正重陽 手折黄／花寄故郷 代我清香須侑／酒 帶過五十驛亭霜

〔4首〕兩□昨夜暗霞関 出海／紅暎照客顔 明暖一陽／来後日 圍燈曾会話家山

〔5首〕牡丹芍薬一春風 獨水仙花／格不同 祇合寒瓶藏玉／骨 出門十丈軟塵紅

〔6首〕吹醒輿夢萬松風 幾曲巉／崗朝日紅 回看前富投宿／處 小田原在海煙中

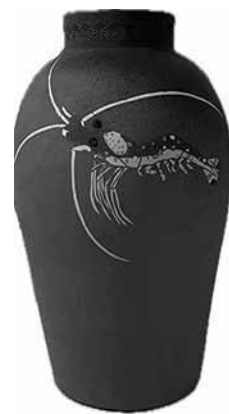
〔落款〕聿庵舊草「頼協之印」(白文方印2.6×2.6)「承緒父」(白文方印2.6×2.6)

(15) 今井 政之《象嵌彩窯変 海老 花瓶》

今井政之(いまい まさゆき 昭和5年－令和5年 1930－2023)は大阪市出身。昭和18(1943)年に父の故郷である広島県竹原市竹原町に疎開した。広島県立竹原工業学校金属工業科を卒業後、岡山県備前市での修行を経て京都へ出る。昭和27(1952)年に京都青陶会の創立同人となり、主宰の楠部彌弐に師事した。昭和28(1953)年に第9回日展に初入選を果たし、以降、入選・入賞を重ね、平成10(1998)年に理事に就任。日展重鎮作家としての地位を築く。苔泥彩と呼ぶ独自の釉薬や、広い面積に色土を象嵌する面象嵌を編み出すなど独自の境地を見せ、平成30(2018)年に陶芸家として広島県から初めてとなる文化勲章を受章し、広島県より名誉県民の称号を受ける。

《象嵌彩窯変 海老 花瓶》は東広島市安芸津の海老を面象嵌技法で表した花瓶。作者は瀬戸内海を始め、訪問した国内外でさまざまな海の生物に出会い、モチーフとしてきた。安芸津の沖合で獲れた海老は活きが良く、長いヒゲを伸ばして作者の眼前でポーズをとった。船の上ですぐさまスケッチしたという。その後、海老はモデルの務めを終えて、塩焼きとなり、作者の身体の一部となった。作品のモチーフとなった魚や蟹や海老などの多くを食したエピソードは、作者の生命に対する畏敬の念を示すように思われる。作品に使われた陶土は広島県東広島市の西条、滋賀県の信楽、岐阜県的美濃の土をブレンドしたもの。本作は作者の長い制作の年月を凝縮したかのように、しなやかな海老のモチーフに長寿と再生への願いがこもった作品であり、絶作となった。

G7サミット広島参加の首脳への贈呈品として、県民会議から依頼を受けて制作された15点のうちの一つである。



No. 34 今井 政之《象嵌彩窯変 海老 花瓶》

(16) 三代 金城 一国斎の高盛絵香筒

三代金城一国斎(さんだい きんじょう いっこくさい 文政12年－大正4年 1829－1915)は広島生まれ。金城一国斎は尾張徳川家のお抱えであった初代に始まり、二代一国斎により高盛絵の技法が創始されて広島に伝えられ、当地においてそれを受け継いだ三代一国斎により、高盛絵の技法は完成され、以後、父子相伝により技法を継承して今日に至ったものである。高盛絵は漆工技法的には堆彩漆であり、生漆と砥の粉を混ぜ合わせたペーストを器物の上に盛り上げ、形を整えた後に色漆で彩色するもの。広島



No. 35 三代金城一国斎《葡萄に蜂高盛絵香筒》



No. 38 三代金城一国斎《薔薇に蝶高盛絵香筒》

における数少ない伝統工芸(漆工)のひとつである。

香筒は線香をおさめる容器で、煎茶道具の一つ。このたび収蔵した香筒は、いずれも竹筒に高盛絵で草花と虫・鳥を表している。葡萄の粒や薔薇の花、鷺などは高盛絵らしく厚く盛り上げる一方、蔓や昆虫の足などは薄肉に仕上げられ、繊細な表情も見られる。

(17) 廣斎《堆漆蒔絵四季草花之図机》

廣斎(こうさい 生没年不詳)は、本名を津浦萬次郎という。略歴不詳でその生涯は判然としないが、当時の新聞記事等から、四代金城一国斎(1876-1961)と同時代に活躍した人物であることが理解される。

《堆漆蒔絵四季草花之図机》は、全体を黒漆塗りとし、幕板に高盛絵(堆彩漆)で草花や虫を表した机。脚は取り外し可能で、木ダボで継ぐ構造になっている。天板裏に朱漆で「大正甲子 藝府 廣斎造(朱印)」、箱蓋表に「堆漆蒔絵四季草花之図机」、箱底に「廣斎造(朱印)」。

大正13(1924)年1月25日、当時の皇太子殿下(昭和天皇)ご成婚に際し、広島市からは、廣斎の机及び四代金城一国斎の硯箱と文庫、各1点ずつが献上された。当時の新聞記事によれば、同年1月19日、献上を前に市の公会堂で献上品の公開が行われ、そこでは机、硯箱、文庫が各2点ずつ陳列されたとあることから、本作は2点制作されたうちの1点と考えられる。



No. 39 廣斎《堆漆蒔絵四季草花之図机》

(18) 渡辺 溥子の染織作品および工芸資料

渡辺溥子(わたなべ ひろこ 昭和13年- 1938-)は広島市生まれ。本名は廣子。昭和54(1979)年から作家名として溥子を用いる。女子美術大学短期大学部図工科を卒業したのち、宗廣力三に師事し、昭和44(1969)年に岐阜県の郡上工芸研究所を修了した。昭和47(1972)年に第9回日本伝統工芸染織展に初入選・受賞、昭和48(1973)年に第20回日本伝統工芸展に初入選、同展を中心に制作発表を重ねてきた。

作者は複雑な経緯緋を駆使した紬織着物を一貫して制作、発表してきた。このたび収蔵したのは、初期の作品2領とその制作過程を垣間見ることができる下図等6件、その他の染織関連資料6件である。

《紬織着物「網代文」》は昭和48(1973)年に第20回日本伝統工芸展に初入選した初期の代表作。作者が擦りこみ技法で制作した作品は、この1作のみ。擦りこみは、綿糸を巻いた2本の竹べらを使って糸の束に染液を擦りこむ緋の糸染め技法である。作者によれば、染液には染料に酢酸、泣き止め助剤を加える。擦りこんだ後は、糸を乾燥させて蒸し、さらに乾燥して水洗する。また《紬織着物「華」》は、作者としては染料にコチニールを使用した稀な作品である。媒染剤はクロムミョウバンを使用。

「天然染色絹糸見本」は、平成元(1989)年に神奈川県川崎市柿生の山崎和樹氏の草木染講習会で試験染された。染料(媒染剤)の種類は、こぶな草(銅)、こぶな草、こぶな草(アルミ)、キハダ、栗のイガ、紅花黄色染、カリヤス・藍、クサギ葉、クサギ、藍、ウワミズ桜、紅花紅染、ビワ、アカネ、ヤマモモ、アワブキ、ソヨゴ、五倍子、ムク、ロググウッド、コチニール、紫根。



No. 40 渡辺 溥子《紬織着物「網代文」》



No. 41 渡辺 溥子《紬織着物「華」》

Ⅷ 美術品等の貸出し

種別	作者名など	作品名	貸出先	目的（展覧会名）	会期・場所
版 画	ジョアン・ミロ	スペインを救え	長崎県美術館 国立西洋美術館	スペインのイメージ：版画を通じて写し伝わるすがた	5. 4. 8～6. 11 (長崎県美術館) 5. 7. 4～9. 3 (国立西洋美術館)
	パブロ・ピカソ	フランコの夢と嘘 (Ⅰの第2刷)			
	パブロ・ピカソ	フランコの夢と嘘 (Ⅱの第5刷)			
日 本 画	佐藤太清	東大寺暮雪	八幡浜市美術館	生誕110年 佐藤太清展 水の心象	5. 7. 1～8. 20
陶 磁	山田 光	緑釉「塔」	京都国立近代美術館 岐阜県美術館 岡山県立美術館 菊池寛実記念 智美術館	走泥社再考 前衛陶芸が生まれた時代	5. 7. 19～9. 24 (京都国立近代美術館) 5. 12. 19～6. 2. 18 (岐阜県美術館) 6. 2. 27～4. 7 (岡山県立美術館) 6. 4. 20～9. 1 (菊池寛実記念 智美術館)
	川上力三	作品			
	林 秀行	女の一生			
	佐藤 敏	バットマン			
	宮永理吉	パイプ			
日 本 画	竹内栖鳳	城址	京都市美術館（京都市 京セラ美術館）	竹内栖鳳 破壊と創生のエネルギー	5. 10. 7～12. 3
油 彩 画	エーリッヒ・ヘッケル	木彫のある静物	SOMPO美術館	ゴッホと静物画—伝統から革新へ	5. 10. 17～6. 1. 21
パステル	南 薫造	ヒマラヤの女	長崎県美術館	浪漫の光芒—永見徳太郎と長崎の近代	5. 10. 14～6. 1. 8
水彩画	南 薫造	船上のビルマ僧			
	南 薫造	ホテルの庭 (ベナレス)			
	南 薫造	木影 (カルカッタ)			
	南 薫造	雲海			
	南 薫造	タージマハール遠望			
	南 薫造	カルカッタ			
	南 薫造	沐浴			
	南 薫造	カルカッタにて			
	南 薫造	アグラ			
	南 薫造	ダージリン			
	南 薫造	ダージリン			
油 彩 画	桂 ゆき	土	京都府京都文化博物館 板橋区立美術館 三重県立美術館	『シュルレアリスム宣言』 100年 シュルレアリスムと日本	5. 12. 16～6. 2. 4 (京都府京都文化博物館) 6. 3. 2～4. 14 (板橋区立美術館) 6. 4. 27～6. 30 (三重県立美術館)
	山路 商	犬とかたつむり			
	土屋幸夫	果てしなき餐食			
素 描	鵜 光	二重像			
版 画	吉田 博	瀬戸内海集「光る海」	愛媛県美術館	瀬戸内海国立公園指定90周年 わたしのうみ ART/LIFE	6. 2. 7～3. 24
	吉田 博	瀬戸内海集「帆船 朝」			
	吉田 博	瀬戸内海集「帆船 午後」			
	吉田 博	瀬戸内海集「帆船 霧」			
	吉田 博	瀬戸内海集「帆船 夜」			
	吉田 博	瀬戸内海集 第二「神の島」			
	吉田 博	瀬戸内海集 第二「鍋島」			
	吉田 博	瀬戸内海集 第二「白石島」			
	吉田 博	瀬戸内海集 第二「阿武兔の朝」			
	吉田 博	瀬戸内海集 第二「三つ小島」			

Ⅸ 関係法規

広島県立美術館条例

(昭和43年3月26日)
広島県条例第20号)

全部改正 平成8年条例第16号

最終改正 令和5年3月13日

(設置)

第1条 美術に関する県民の知識及び教養の向上に資するため、広島県立美術館（以下「美術館」という。）を設置する。

(位置)

第2条 美術館の位置は、広島市中区上幟町とする。

(業務)

第3条 美術館は、次の業務を行う。

- (1) 美術品等を収集し、保管し、又は展示して、県民の利用に供すること。
- (2) 美術品等の展示施設（以下「展示施設」という。）その他の美術館の施設を美術品等の展示等のための利用に供すること。
- (3) 美術品等に関する専門的及び技術的な調査研究を行うこと。
- (4) その他県民の美術に関する知識、教養、調査研究等に資するために必要な事業を行うこと。

(職員)

第4条 美術館に、館長その他必要な職員を置く。

2 館長は、前条第1号及び第3号に掲げる業務並びに同条第2号及び第4号に掲げる業務のうち次条第2項第1号に掲げる業務を除いたものを掌理し、所属職員を指揮監督する。

(指定管理者による管理)

第5条 美術館の管理は、広島県公の施設における指定管理者の指定手続等に関する条例（平成16年広島県条例第28号）の定めるところにより、教育委員会が指定した法人その他の団体（以下「指定管理者」という。）に行わせるものとする。

2 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 第三条第二号及び第四号に掲げる業務のうち教育委員会規則で定めるものを行うこと。
- (2) 美術館の展示施設及び講堂（以下「展示施設等」という。）並びに駐車場の利用の許可に関すること。
- (3) 展示施設等及び駐車場その他の美術館の施設並びに附属設備の維持及び修繕に関すること。
- (4) 展示施設等及び駐車場の利用に係る料金（以下「利用料金」という。）の収受に関すること。
- (5) 美術館の入館料の徴収に関すること。
- (6) その他教育委員会が別に定める業務を行うこと。

(開館時間等)

第6条 美術館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、金曜日は、午後7時まで開館時間を延長する。

2 講堂及び駐車場の利用時間は、次のとおりとする。

- (1) 講堂 午前9時から午後9時まで
- (2) 駐車場 午前9時から午後9時15分まで

3 前2項の規定にかかわらず、教育委員会又は指定管理者は、特に必要があると認めるときは、第1項の開館時間又は前項の利用時間を変更することができる。この場合においては、指定管理者は、あらかじめ教育委員会の承認を得なければならない。

(休館日等)

第7条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号。以下「祝日法」という。）に規定する休日に当たる場合を除く。）
- (2) 12月25日から翌年の1月1日までの日

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会又は指定管理者は、特に必要があると認めるときは、前項の休館日以外の日において臨時に休館し、又は同項の休館日において臨時に開館することができる。この場合においては、指定管理者は、あらかじめ教育委員会の承認を得なければならない。

(利用の許可)

第8条 展示施設等及び駐車場を利用しようとする者は、教育委員会規則及び指定管理者の定めるところにより、指定管理者の許可を受けなければならない。

2 指定管理者は、前項の許可（以下「利用許可」という。）をする場合においては、美術館の管理上必要な限度において条件を付することができる。

(利用許可の制限)

第9条 指定管理者は、展示施設等及び駐車場の利用の目的又は方法が、次の各号のいずれかに該当するときは、利用許可をしてはならない。

- (1) 公益を害し、又は風俗を乱すおそれがあると認められるとき、その他住民の福祉を増進する目的に照らし適当でないと認められるとき。
- (2) 展示施設等及び駐車場並びに附属設備を損傷するおそれがあると認められるとき。
- (3) 集团的に又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織の利益になると認められるとき。
- (4) その他美術館の管理及び運営上支障があると認められるとき。

(展示施設等の利用期間)

第10条 展示施設等の利用期間は、引き続き7日を超えることはできない。ただし、指定管理者が必要と認めるときは、この限りでない。

(入館料の納付等)

第11条 美術館の展示する美術品等を観覧する者は、別表第一に定める入館料を納付しなければならない。

- 2 入館料は、知事が別に定める場合を除き、前納とする。
- 3 既納の入館料は、返還しない。

(利用料金の納付等)

第12条 展示施設等及び駐車場を利用する者は、指定管理者が別表第二及び別表第三に定める金額の範囲内で教育委員会の承認を受けて定める利用料金を納付しなければならない。

- 2 利用料金は、教育委員会が別に定める場合を除き、利用許可を受ける際に納付しなければならない。
- 3 既納の利用料金は、返還しない。ただし、利用許可を受けた者がその責めに帰することができない理由により利用できない場合その他教育委員会が別に定める場合には、指定管理者は、利用料金の全部又は一部を返還することができる。

(入館料の減免)

第13条 知事は、次の各号のいずれかに該当する者が美術館が所蔵する美術品等の展示（以下「所蔵作品展」という。）を観覧するときは、所蔵作品展に係る入館料を減免することができる。

- (1) 身体障害者手帳の交付を受けている者
 - (2) 戦傷病者手帳の交付を受けている者
 - (3) 療育手帳の交付を受けている者
 - (4) 精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者
 - (5) 六十五歳以上の者
 - (6) 県内の大学又はこれに準ずる学校に在学する外国人留学生
 - (7) 小学校、中学校、高等学校又はこれらに準ずる学校の校長が学校教育活動であることを証明した場合の小学校の児童、中学校若しくは高等学校の生徒又はこれらに準ずる者の引率者
 - (8) 祝日法第二条に規定するみどりの日又は文化の日に入館する者
 - (9) 教育委員会が単独で開催する所蔵作品展以外の展示（以下「特別展」という。）と併せて観覧する者
 - (10) その他知事が別に定める者
- 2 知事は、次の各号のいずれかに該当する者が特別展を観覧するときは、特別展に係る入館料を減免することができる。
- (1) 祝日法第二条に規定するこどもの日に入館する小学校の児童、中学校の生徒又はこれらに準ずる者
 - (2) 祝日法第二条に規定する文化の日に入館する者
 - (3) ひろしま教育の日を定める条例（平成十三年広島県条例第四十号）第三条に規定するひろしま教育ウィークに入館する小学校の児童、中学校若しくは高等学校の生徒又はこれらに準ずる者
 - (4) その他知事が別に定める者

(利用料金の減免)

第14条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、展示施設等の利用料金を減免することができる。

- (1) 教育委員会が、主催する事業のために展示施設等を利用するとき。
- (2) 前条第一項第一号から第四号までに掲げる者（以下「身体障害者等」という。）又は身体障害者等が主体となって構成する団体が、美術活動として展示施設等を利用するとき。
- (3) 国又は地方公共団体が、身体障害者等の美術の振興を図る行事のために展示施設等を利用するとき。
- (4) 社会福祉事業を推進する団体が当該団体の設立の目的のために利用するとき。
- (5) 幼保連携型認定こども園又は幼稚園、小学校、中学校若しくはこれらに準ずる学校の校長（幼保連携型認定こども園及び幼稚園にあっては、園長）が学校教育活動であることを証明した場合において、当該幼保連携型認定こども園の幼児又は当該幼稚園の幼児、当該小学校の児童、当該中学校の生徒若しくはこれらに準ずる者が利用するとき。
- (6) その他教育委員会が別に定める場合

2 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、駐車場の利用料金を減免することができる。

(1) 教育委員会が、主催する事業のために駐車場を利用するとき。

(2) 身体障害者等が、自ら車両を運転し、又は介護者の運転する車両に同乗して駐車場を利用するとき。

(利用料金の収入)

第15条 第12条第1項の規定により展示施設等及び駐車場を利用する者が納付する利用料金は、指定管理者の収入とする。

(利用許可の取消し等)

第16条 指定管理者は、利用許可を受けた者が次の各号のいずれかに該当するときは、利用許可の全部若しくは一部を取り消し、利用の方法を制限し、又は利用の停止を命じることができる。

(1) 許可された利用目的以外に展示施設等を利用したとき。

(2) 第九条各号のいずれかに該当するに至ったとき。

(3) 偽りその他不正な手段により利用許可を受けたとき。

(4) この条例若しくはこの条例に基づく教育委員会規則の規定又は第8条第2項の規定により付された条件に違反したとき。

(5) 利用許可に基づく権利を譲渡し、又は他人に利用させたとき。

2 前項の規定により利用許可を取り消し、利用の方法を制限し、又は利用の停止を命じたことによって、利用許可を受けた者に損失が生じることがあっても、県又は指定管理者は、これに対して補償する義務を負わない。

(遵守事項)

第17条 美術館においては、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) 展示施設等及び駐車場その他の美術館の施設並びに附属設備をき損し、又は汚損しないこと。

(2) 展示資料、展示設備等に触れないこと。

(3) 許可を受けずに、展示資料の模写又は撮影をしないこと。

(4) 館内においては、静粛にし、他人に迷惑を掛ける行為又は他人に嫌悪の情を催させる行為をしないこと。

(5) 所定の場所以外の場所で喫煙し、又は飲食しないこと。

(6) 指定管理者の指示に従うこと。

(7) その他教育委員会が定める事項

(禁止行為)

第18条 美術館においては、次に掲げる行為をしてはならない。ただし、教育委員会の許可を受けた場合は、この限りでない。

(1) 寄附の募集

(2) 爆発物その他危険物等の持込み

(3) 行商その他これに類する行為

(4) 宣伝その他これに類する行為

(5) 広告物等の掲示若しくは配布又は看板、立札類の設置

(入館の制限等)

第19条 教育委員会又は指定管理者は、前2条の規定に違反するおそれのある者又はこれらの規定に違反した者に対して、美術館への入館を拒否し、又は美術館からの退去を命じることができる。

(原状回復義務)

第20条 展示施設等の利用者は、その利用を終了したとき（利用許可を受けた者が第16条第1項の規定により利用許可を取り消されたときを含む。）は、直ちに利用場所を原状に復し、指定管理者の検査を受けなければならない。

(損害賠償義務)

第21条 展示施設等及び駐車場その他の美術館の施設、附属設備又は展示資料等をき損し、汚損し、又は滅失した者は、これによって生じた損害を賠償しなければならない。

(指定管理者の指定を取り消した場合等の特例)

第22条 知事は、指定管理者の指定を受ける者がいないとき、指定管理者を指定することができないとき、又は指定管理者の指定を取り消し、若しくは期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときは、指定管理者を指定し、又は当該停止の期間が終了するまでの間、美術館の管理を行うものとする。

2 知事は、前項の規定により美術館の管理を行う場合においては、展示施設等及び駐車場を利用する者から、使用料を徴収する。

3 第十二条第一項及び第三項並びに第十四条の規定は、前項の使用料について準用する。この場合において、これらの規定中「指定管理者が別表第二及び別表第三に定める金額の範囲内で教育委員会の承認を受けて定める」とあるのは「別表第二及び別表第三に定める金額の範囲内で教育委員会が定める」と、「利用料金」とあるのは「使用料」と、「利用許可を受けた者」とあるのは「使用料を納付した者」と、「指定管理者は」とあるのは「知事は」と読み替えるものとする。

(委任規定)

第23条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

- 1 この条例は、昭和43年4月1日から施行する。
- 2 第5条第1項の規定にかかわらず、別表の通常の展示の場合に係る入館料は、この条例の施行の日後において知事その徴収を開始すべき日を定めて公示するまでの間は、これを徴収しないものとする。

附 則（平成19年3月15日条例第21号抄）

（施行期日）

- 1 この条例は、規則で定める日から施行する。（平成20年1月規則第2号で、平成20年4月1日から施行）

（経過措置）

- 3 この条例の施行前にこの条例による改正前のそれぞれの条例（これに基づく規則その他の規程を含む。）の規定によってした処分、手続その他の行為であって、この条例による改正後のそれぞれの条例（これに基づく規則その他の規程を含む。）中相当する規定があるものは、それぞれこれらの相当する規定によってした処分、手続その他の行為とみなす。
- 4 この条例の施行前にこの条例による改正前のそれぞれの条例（これに基づく規則その他の規程を含む。）の規定により利用の許可を受けている者に係る使用料については、なお従前の例による。

附 則（平成19年12月25日条例第56号）

この条例は、学校教育法等の一部を改正する法律（平成19年法律第96号）附則第1条本文に規定する政令で定める日から施行する。（定める日＝平成19年12月26日）

附 則（平成22年6月28日条例第31号）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成23年7月11日条例第31号）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成26年3月26日条例第23号）

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成27年3月16日条例第三号）

この条例は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成28年3月22日条例第7号）

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成28年10月12日条例第47号）

この条例は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成31年3月8日条例第5号抄）

（施行期日）

- 1 この条例は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定める日から施行する。

一～三 略

四 前三号に掲げる規定以外の規定 平成31年10月1日

附 則（令和3年3月22日条例第3号）

この条例は、令和3年4月1日から施行する。

附 則（令和5年3月13日条例第4号）

この条例は、令和5年4月1日から施行する。

別表第1（第12条関係）

1 所蔵作品展の利用料金の範囲

区 分	個 人	団体 (20人以上の場合とする。)	広島県縮景園との 共通券による場合
大学生及びこれに準ずる者	1人1回310円	1人1回250円	1人1回250円
その他15歳以上の者 (中学校又は高等学校の生徒 及びこれに準ずる者を除く。)	1人1回510円	1人1回410円	1人1回410円

2 特別展の場合

1人1回 2,100円以内で知事が定める額

別表第2（第12条関係）

展示施設等の利用料金の範囲

施設区分		第1展示室	第2展示室	第3展示室	第4展示室	第5展示室	講堂
入場料有料の場合	1時間につき	1,790円以内	3,050円以内	3,050円以内	3,050円以内	3,250円以内	4,930円以内
	1日につき	13,630円以内	24,320円以内	24,320円以内	24,320円以内	25,780円以内	
入場料無料の場合	1時間につき	950円以内	1,580円以内	1,580円以内	1,580円以内	1,680円以内	2,520円以内
	1日につき	6,820円以内	12,170円以内	12,170円以内	12,170円以内	12,900円以内	
電気設備を利用する場合		実費を基準として教育委員会が定める範囲とする。					

備考

- この表において「1日」とは、美術館の開館時間とする。
- 日曜日、土曜日及び祝日法に規定する休日における入場料有料の場合の利用料金の額は、指定管理者が定める額の2割を加算する。
- 展示物の搬入及び撤去に係る利用料金の額は、指定管理者が定める額に2分の1を乗じて得た額とする。
- 利用料金の額に10円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てるものとする。

別表第3（第12条関係）

駐車場の利用料金の範囲

駐車することができる自動車の範囲	単 位	利用料金の範囲
道路運送車両法（昭和26年法律第185号）第3条に規定する自動車のうち、普通自動車並びに2輪自動車以外の小型自動車及び軽自動車	1台につき 1時間まで 1時間を超える時間30分までごとに	420円以内 220円以内

広島県博物館協議会条例

（平成13年3月26日）
広島県条例第3号

（設 置）

- 第1条 広島県教育委員会（以下「教育委員会」という。）に、広島県博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。
- 2 協議会は、広島県立美術館、広島県立歴史民俗資料館、広島県立歴史博物館の運営に関し教育委員会の諮問に応じるとともに、教育委員会に対して意見を述べる機関とする。

（組 織）

- 第2条 協議会は、委員15人以内で組織する。
- 2 委員は、教育委員会が任命する。

（委員の任期）

- 第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 2 委員は、再任されることができる。

（会長及び副会長）

- 第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によってこれを定める。
- 2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会 議）

- 第5条 協議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が召集し、会長がその議長となる。
- 2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（庶 務）

- 第6条 協議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

（雑 則）

- 第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

（施行期日）

- 1 この条例は、平成13年4月1日から施行する。

（広島県立美術館協議会条例の廃止）

- 2 広島県立美術館協議会条例（昭和43年広島県条例第38号）は、廃止する。

広島県立美術館管理運営規則

(昭和43年4月1日)
(教育委員会規則第1号)

最終改正 平成29年3月23日教育委員会規則第1号

(趣 旨)

第1条 この教育委員会規則は、広島県立美術館（以下「美術館」という。）の管理及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(指定管理者が行う業務)

第2条 広島県立美術館条例（昭和43年広島県条例第20号。以下「条例」という。）第5条第2項第1号の教育委員会規則で定める業務は、次に掲げる業務とする。

- (1) 美術館の利用促進に関すること。
- (2) 美術館の利用案内に関すること。
- (3) 県民の美術に関する学習活動の支援に関すること。

(開館時間等の周知)

第3条 条例第6条第3項又は第7条第2項の規定により、美術館の開館時間若しくは講堂若しくは駐車場の利用時間を変更し、又は美術館の全部若しくは一部を臨時に休館し、若しくは休館日に開館する場合は、あらかじめ、その旨を美術館に掲示する等周知のために必要な措置を講じなければならない。

(展示施設等の利用の申込み等)

第4条 美術館の展示施設及び講堂（以下「展示施設等」という。）を利用しようとする者は、展示施設等利用申込書を指定管理者に提出し、条例第8条第1項の許可（以下「利用許可」という。）を受けなければならない。

2 前項の規定による利用の申込みは、次に掲げる期間内にしなければならない。ただし、特別の事情があると指定管理者が認める場合は、この限りでない。

- (1) 展示施設 利用開始日の1年前から1月前まで
- (2) 講堂 利用開始日の4月前から7日前まで

(展示施設等利用許可書の交付)

第5条 指定管理者は、利用許可をしたときは、展示施設等利用許可書を申込者に交付するものとする。

2 展示施設等利用許可書は、展示施設等を利用する際必ず携帯し、係員の請求があるときは、これを提示しなければならない。

(駐車場の利用手続)

第6条 駐車場を利用しようとする者（以下「駐車場利用者」という。）は、自動車を入庫させる際、駐車券の発給を受けるものとする。この場合においては、当該発給を受けたときに利用許可を受けたものとみなす。

2 駐車場利用者が自動車を出庫させようとする際は、駐車時間に応じた利用料金を納付しなければならない。

(利用料金の周知)

第7条 指定管理者は、条例第12条第1項の規定により教育委員会の承認を受けて利用料金を定めたときは、美術館に掲示する等周知のために必要な措置を講じなければならない。

(利用料金の返還)

第8条 条例第12条第4項ただし書の規定により、指定管理者は、利用許可を受けた者がその責めに帰することができない理由により利用することができない場合は、当該利用料金の全額を返還する。

2 前項の規定により利用料金の返還を受けようとする者は、利用料金返還申請書に第五条第一項の展示施設等利用許可書を添えて、指定管理者に提出しなければならない。

(利用料金の減免)

第9条 条例第14条第1項第1号又は同条第2項第1号若しくは第2号に該当する場合は、利用料金（条例別表第2に規定する電気設備を利用する場合の利用料金を除く。以下本条において同じ。）を免除する。

2 条例第14条第1項第2号又は第3号に該当する場合は、利用料金の額の2分の1に相当する額を減額する。

3 条例第14条第1項第4号又は第5号に該当する場合は、利用料金の額の5分の1に相当する額を減額する。

4 前2項の規定により算定した減額後の利用料金の額に10円未満の端数が生じたときは、その端数を切り捨てるものとする。

(利用料金の減免の申請)

第10条 前条第1項の規定により利用料金の免除を受けようとする者のうち条例第14条第2項第2号に該当するものは、該当することを証する書類を指定管理者に提示しなければならない。

2 前条第2項又は第3項の規定により利用料金の減額を受けようとする者は、第4条第1項の展示施設等利用申込書の提出時に併せて利用料金減額申請書を指定管理者に提出し、その承認を受けなければならない。

(補 則)

第11条 この教育委員会規則に定めるもののほか、美術館の管理及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則（平成29年3月23日教育委員会規則第1号）抄
（施行期日）

1 この教育委員会規則は、平成29年4月1日から施行する。

（広島県美術展開催運営規則の廃止）

2 広島県美術展開催運営規則（昭和52年広島県教育委員会規則第2号）は、廃止する。

広島県立美術館美術品等収集基本方針

（昭和63年12月9日）

広島県立美術館の美術品等収集に関する基本方針を次のとおり定める。

- 1 本県ゆかりの作家の美術品等については、次項に準拠しつつ、各作家ごとの体系的なコレクションの形成につとめる。
- 2 次に掲げる美術品等の収集に主眼を置き、日本美術の特質を味わうことのできる体系的なコレクションの形成につとめる。
 - (1) 近・現代作家の特色ある美術作品
近代から現代にいたる絵画等の平面・立体造形作品のうち、時代の特徴と制作意図の明確な作品。
 - (2) 近代の工芸作品
わが国工芸の特色を示す陶芸、染色、漆芸、金工等のうち、主として近代以降に制作された作品。
 - (3) 近代の彫塑作品
近代以降のわが国の彫塑界で特に重要と認められる作家の作品。
 - (4) その他の美術作品
上記(1)～(3)に掲げる美術作品のほか、美術館において収蔵するにふさわしいと認められる美術工芸作品。
 - (5) 美術資料
収蔵する美術品等に関する作家並びに美術作品を理解するうえで必要な日記、書簡、下絵等の美術資料等。
 - (6) 補助的関連資料
収集する美術品等に関する調査研究及び教育普及事業に必要な視聴覚教材、図書、複製品等の補助的関連資料
- 3 その他、美術館において所蔵するにふさわしい東洋・西洋の美術品等を収集する。

広島県立美術館美術品等特別収集基本方針

（平成3年3月8日 館長決裁）

- 1 本県ゆかりの作家の作品並びに本県にゆかりのある美術品等
 - (1) 本県ゆかりの作家の作品及び美術資料
 - (2) 本県ゆかりの作家に関連する系譜的作品
 - (3) 本県ゆかりの美術品等
- 2 近世から現代までの造形的に優れたわが国の美術作品及びこれらの作品を理解するために必要な外国作品
 - (1) 絵画作品
 - 1) 近世絵画の流れが理解できる作品のうち、主として花鳥画を主題とする作品及び近代日本画確立期の作品
 - 2) 油彩画等の受容と展開を示す明治・大正・昭和三代の代表的作家の作品
 - 3) 戦後における国際的評価の高い作家の作品
 - (2) 工芸作品
 - 1) 東洋の伝統を受け継ぐわが国の代表的作家又は様式の作品
 - 2) わが国と関係の深いアジア各国の工芸作品
 - 3) 近代工芸確立期（1920年代）及び戦後昂揚期（1960年代）の作品
 - 4) 収蔵作品を理解するために必要な外国作品及び特に注目される現代の工芸作品
- 3 国際的視野から特色をもった作品
1920～1930年代の両大戦間を中心とする世界美術の多様性が理解できる作品
 - 1) 欧米作家等の作品
 - 2) 日本人作家の作品
- 4 近代以降の彫刻（立体）作品
 - (1) 主として戦後期に活躍した作家の作品
 - (2) 手で見る彫刻作品
 - (3) 新館及び街区等、周囲の環境に即した作品

県立美術館特別収集重点方針

- 1 本県ゆかりの作家の作品など
近代以降の美術界に大きな足跡をのこした作家の作品を中心に収集し、その系譜的作品も併せて収集する。
- 2 日本及びアジアの工芸作品など
わが国とアジア各国の優れた工芸作品（陶磁、染色、漆芸など）を収集する。
- 3 1920—1930年代（両大戦間）の美術作品など
現代美術に先行する両大戦間美術の多様性を示す作品を世界と日本との関連で収集する。

広島県立美術館美術品等取扱要綱

（趣 旨）

第1条 広島県立美術館（以下「美術館」という。）で取り扱う美術品及び美術資料の管理、寄託、寄附及び貸付けについては、広島県物品管理規則（昭和39年規則第33号。）に定めるもののほか、この要綱の定めるところによる。

（定 義）

第2条 この要綱において「美術品等」とは、美術作品及び美術に関する資料をいう。

（管 理）

第3条 美術館で管理する美術品等については、別表の美術品等分類表により区分するとともに、別記様式第1号による備品出納簿を備え付け、その出納及び保管の状況を記録管理しなければならない。

（寄 託）

第4条 美術品等を、美術館に保管又は展示するために寄託しようとする者は、広島県立美術館長（以下「館長」という。）に別記様式第2号による美術品等寄託申請書を提出し、寄託の承認を受けなければならない。

2 館長は、前項の規定により寄託を承認した場合は、美術品等を寄託する者（以下「寄託者」という。）に対して別記様式第3号による受託証書を交付するものとする。

3 前項の規定により寄託を承認した美術品等（以下「寄託品」という。）の記録管理は、別記様式第4号による受託カードにより行うものとする。

（寄託期間）

第5条 寄託期間は3年とする。ただし、館長が特別の理由があると認めた場合は、寄託者の承諾を得て寄託期間を変更することができる。

（一時返還）

第6条 寄託者は、寄託品の一時返還を受けるときは、館長に別記様式第5号による寄託品一時返還願を提出しなければならない。

（返還の手続）

第7条 館長は、寄託者に寄託品を返還するとき、受託証書と引換えに返還するものとする。

2 寄託者の代理人が、寄託品の返還を受けようとするときは、館長に委任状その他これを証する書類を受託証書に添付して提出しなければならない。

（受託証書の記載事項変更）

第8条 寄託者は、受託証書の記載事項について、譲渡、相続その他の事情により変更があったときは、館長に記載事項の変更を証する書類を受託証書に添付して提出し、記載事項の書換えを受けなければならない。

（受託証書の再交付）

第9条 寄託者は、受託証書を破り、汚し、又は失ったときは、館長に別記様式第6号による受託証書再交付申請書を提出して、受託証書の再交付を受けなければならない。

（寄託品の保管）

第10条 館長は、寄託品を常に良好な状態で保管しなければならない。

（寄託品の修繕）

第11条 館長は、寄託品に修繕をする必要を認めたときは、寄託者に対して適正な指示を行うことができる。

（寄 附）

第12条 美術品等を、美術館に保管又は展示するために寄附しようとする者は、館長に別記様式第7号による寄附申込書を提出しなければならない。

2 館長は、前項の規定により寄附申込書の提出があったときは、寄附を受けることについて適否を決定し、美術品等を寄附しようとする者に対して適否を通知するものとする。

（貸付け）

第13条 館長は、美術館の事業に支障を及ぼさないと認めるときは、美術品等を他の美術館又はこれに準ずる施設に無償で貸し

付けることができる。

2 美術品等を、前項の規定により貸付けを受けようとする者は、館長に別記様式第8号による美術品等借受願願又は別記様式第8号に準じた書面を提出しなければならない。ただし、貸付けを受けようとする美術品等が寄託品である場合は、寄託者の承諾書を美術品等借受願に添付するものとする。

3 館長は、第1項の規定により美術品等の貸し付けを決定したときは、貸付けを受けようとする者に対して貸し付けの通知をするものとする。

(借用書の提出)

第14条 前条第3項の規定により通知を受けた者は、館長に別記様式第9号による借用書又は別記様式第9号に準じた書面を提出しなければならない。

(貸付け期間)

第15条 貸付け期間は60日以内とする。ただし、館長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(貸付けの条件)

第16条 第13条第1項の規定により美術品等を貸し付ける場合の条件は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 貸付けを受けた者（以下「借用者」という。）は、貸し付けを受けた美術品等（以下「借用美術品等」という。）を転貸し、又は貸し付けにより生じた権利を担保に供し、若しくは譲渡してはならない。
- (2) 借用者は、借用美術品等を常に良好な状態で保管しなければならない。
- (3) 借用者は、借用美術品等を失い、又は傷付けたときは、直ちにその損害を賠償しなければならない。
- (4) 美術品等の貸付けに必要な経費は、借用者が負担するものとする。
- (5) 館長は、前各号に定めるもののほか、美術品等の貸し付けに必要な条件を付することができる。

(報告義務)

第17条 館長は、第12条第2項の規定により美術品等の寄附受納を決定した場合及び第13条第3項の規定により美術品等の貸付けを決定した場合は、速やかに広島県環境県民局長（以下「局長」という。）に報告しなければならない。

(補 則)

第18条 館長は、前各条に規定する事務のうち、重要及び異例若しくは疑義のある事項については、あらかじめ局長に報告し、局長は広島県教育委員会に協議をして、その承認を受けなければならない。

附 則

この要綱は、昭和58年7月1日から施行する。

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

広島県立美術館展示施設等運営要領

(平成8年7月24日 館長決裁)

この要領は、広島県立美術館管理運営規則（昭和43年4月1日教育委員会規則第1号）に基づき美術館の展示施設及び講堂の適正かつ効果的な運営を図るため、利用の形態及び許可の基準その他の必要な事項を定めるものとする。

1 利用形態

① 常設展示室（2階）

第1から第4展示室及び彫刻展示スペースは、所蔵作品による常設展示を行う。

② 企画展示室（3階）

北、東、西及び展示前室は、美術館が企画・主催し又は共催する展覧会事業に使用する。ただし、美術館が共催する展覧会は、国若しくは地方公共団体（その機関を含む。）又は公共性の高い機関が企画・主催する事業で、美術館が共催するにふさわしい、開催意義の高い事業に限る。

なお、これらの展覧会を実施しても、なお、空室が生じる場合は、「広島県教育委員会の共催・後援・協賛に関する基準について（昭和54年3月29日）」に基づき共催・後援に該当する展覧会に限り使用することができる。

③ 県民ギャラリー（地階）

条例第1条により、団体又は個人が美術に関する事業を目的として利用する場合に、これを許可する。

④ 講堂兼ハイビジョンギャラリー（地階）

通常はハイビジョンギャラリーとして入館者が自由に鑑賞できるように毎日一定時間使用する。また、団体又は個人が芸術に関する県民の知識及び教養の向上に資する目的で講演会などの催しのために利用する場合には、美術館が企画・主催する事業に支障のない範囲内でこれを許可する。

⑤ 図書館（1階）

美術に関する図書及び参考図書を公開し、利用者に提供する。また、室内にハイビジョン・データ・ブースを設置し、美術館の所蔵品に関するデータベースを提供して利用者の学習の便を図る。

⑥ 情報ギャラリー（1階）

ポスター、パンフレットなど、さまざまな広報媒体を掲示して、利用者に情報を提供するとともに、時機に応じて比較的小規模の企画展示を行う。また、一部にハイビジョン・ブースを設置し、美術館の所蔵品に関するオリジナル番組を提供して、利用者の作品理解の一助とする。

2 利用の申込み

県民ギャラリーの利用の申込みは、原則として年度を前・後期に分け、前期については、前年度の9月1日から9月30日まで、後期については、前年度の3月1日から3月31日までの間に受け付けるものとする。

講堂の利用の申込みは、利用日の2ヶ月前から随時行うものとする。

3 利用の期間及び回数

県民ギャラリーの利用期間は原則2週間をこえないこととし、利用回数は同一の団体又は個人につき原則年1回とする。

X 名 簿

美術品等収集評価委員会

委員長	山 梨 俊 夫	元国立国際美術館館長
委員	唐 澤 昌 宏	独立行政法人国立工芸館館長
〃	島 田 康 寛	元神戸市立小磯記念美術館館長
〃	正 村 美 里	岐阜県美術館副館長
〃	菅 村 亨	元広島大学教授
〃	速 水 豊	三重県立美術館館長
〃	不 動 美 里	姫路市立美術館館長

職 員

館 長	千 足 伸 行
副 館 長	原 田 英 樹
総括企画監	小別所 智 昭
総務課長	井 上 博 貴
主 査	井手ノ瀬 美由紀
主任(エルダー)	中 神 良 樹
事務従事員	一 色 直 香
〃	弘 津 かおる (～R5.6.30)
〃	福 原 美 和
〃	岡 田 準 子 (R5.7.1～)
学芸課長	福 田 浩 子
主任学芸員	角 田 新
〃	藤 崎 綾
〃	神 内 有 理
〃	山 下 寿 水
〃	隅 川 明 宏
〃	岡 地 智 子
学 芸 員	森 万由子

令和5年度

広島県立美術館年報

令和6年10月31日発行

発行者 **広島県立美術館**
〒730-0014 広島市中区上幟町2-22
電話 (082) 221-6246

印刷所 株式会社 インパルスコーポレーション

(人名については、敬称略)

